同	日本橋新場橋	京橋築地	同北紺屋	同月島	芝宮田	同三田	同高輪	麻布六本木	同赤坂表町	四谷青山	牛込神楽坂	同早稲田	小石川大塚坂	同本富士	同駒込
鄉	橋	橋	橋	島	宮	田	輪	木	町	山	坂	田	坂	士	込
七	七	四	四	一四	二	二	一七	二	四	四	四	二〇	九	一五	六	七
一	一	七	七	一七	五	二	二二	二	四	四	四	二〇	九	一五	六	七
四	一	四	四	一七	二	二	一二	二	四	四	四	二〇	九	一五	六	七

同	下谷	同坂上	同池之端	同草	淺草	同日本堤	同南元町	同七軒町	本所相生	同太平	同庭	同向島	深川西平野	同扇橋	同洲崎	同水上	計
谷	坂	本	中	谷	象	堤	町	町	生	平	庭	島	野	橋	崎	上	計
一、〇一二	一	一	一	一	三九二	六二	三	三	三	三	一	三三	一	一	一	一	一
一、三二五	一	一	一	一	三九八	八四	三	二四	三	三	一	一四	八九	三八	一	一	一

震火災ニ因リ燒斃シタル獸類ノ數モ亦尠ナキニアラズ、卽チ各署ヲ督勵シテ其處置ヲ講ジ、九月十五日頃迄ニ略ボ全部ノ整理ヲ終リシカ、其成績左表ノ如シ。

斃獸處分成績表

區郡別	種別	馬	牛	山羊
麹町區		四		
神田區		五		
日本橋區		六		
京橋區		四		
小石川區		四		
麻布區		三		
本鄕區		一		
淺草區		一		
本所區		四		
深川區		三		
荏原郡		四	三	一
豐多摩郡		三	一	二
南足立郡		一二〇	二二	一
南葛飾郡		七二	三七	七
計		二		

第三　屍尿ノ處分

震火災前ニ於ケル、東京市ノ屍尿排出量ハ約一萬石ニシテ、山手方面ノ九區ハ市營ヲ以テ、約二千石ノ限度ニ於テ、有料汲取ヲ爲シ、他ハ近村ノ農民又ハ汚穢屋ト稱スル專業者ニヨリテ汲取リ居リシガ、災變以後、市ノ人夫ハ屍體ノ收容其他ニ使役セラレシノミナラズ、專業者ハ唯一ノ交通機關タル、各河川ノ通航杜絕シタルト、流言蜚語ニ恐怖セルトニ因テ就業スルモノ殆ンド無ク、而シテ近村ノ農民モ亦避難者ノ救護、自警團ノ組織等ニ携ハリタレバ、其汲取作業ハ一時全ク休止ノ狀態ニ陷リタリ。然ルニ山ノ手方面ノ燒殘地域ハ、避難者ヲ迎ヘテヨリ戶口俄ニ增加シ、各戶ハ屍尿ノ停滯甚シク、保健衛生上一日モ忽緖ニ付スベカラザルヲ惟ヒ、小栗衛生部長ハ、物情稍〻鎭定セル九月六日市當局ト協議シ、市營ヲ復活シテ無料汲取ヲ開始スルニ決シタレドモ、市ノ所有セル汲取器具及ビ車輛ノ多クハ、或ハ燒失シ、或ハ

紛失シテ、亦從來ノ如キ能力ヲ發揮スル能ハザルヲ以テ、本廳ハ市隣接郡部ノ各署長ニ通牒ヲ發シテ、青年團、在鄉軍人團等ノ應援ヲ求メ、且隣縣知事ニ對シテ、汲取容器具ノ購入ヲ依賴スル等臨機ノ策ヲ講ゼシガ、水上運搬ノ要路タル各河川ノ航行未ダ恢復セズ、到底其完全ヲ期待スルヲ得ザリシカバ、同廿四日市當局ヲ督勵シ、之ヲシテ東京生肥株式會社東京糞尿肥料組合等ト契約ヲ結ビテ、大規模ノ汲取ヲ實行セシメテヨリ以來漸次緩和セラレ、十月初旬ニ至リテハ、畧ボ小康ヲ保ツヲ得タリ。

災前街頭ニ於ケル全市ノ共同便所二百六十三箇所ノ內、僅ニ山手方面ノ五十二箇所ヲ殘シテ他ハ悉ク燒失又ハ破損セシカバ、應急策トシテ假便所ノ急設ニ着手スルト共ニ、破損箇所ノ復舊方法ヲ講ジ、又掃除搬出ヲ督勵セルノミナラズ、避難者集團地又ハ收容所等ニ對スル便所ノ設備並ニ其清潔保持ニ就キテハ、衛生部員ヲシテ調査改善ニ從ハシメ以テ漸ク面目ヲ一新セリ。

（一）屎尿汲取作業ノ復活

火災漸ク鎭マリテ後、燒殘地域ニ於ケル戶口ノ增加夥シキモノアルニ反シ屎尿ノ汲取ハ全ク中止セラレタレバ、其停滯最モ甚シク、民衆一般ニ之ニ苦メルノミナラズ、衛生上亦等閑ニ附スベカラザルヲ以テ、九月六日三宅衛生課長ハ、市當局ト協議シ、市ニ現存セル容器車輛及ビ人夫ヲ使用シ、無料ヲ以テ、翌七日ヨリ汲取作業ヲ復活スルコトニ決定セリ。然レドモ市ノ事業ノミニ之ヲ委スルハ到底不備ヲ免ガル能ハザルヲ以テ、郡長ハ各署長ニ對シテ左記通牒ヲ發シタリ。

屎尿處分督勵ニ關スル件（大正十二年九月六日外第一一號）

東京市內ニ於ケル罹災セザル殘存地域ハ避難民ノ收容セラルヽ者頗ル多數ナルヲ以テ、各戶共ニ屎尿停滯シツヽアリ、之カ救濟策トシテ東京市ハ多數ノ人夫ヲ派シ汲取事業ヲ開始スル趣ナルモ、尙隣接町村農民ノ援助ヲ要スルモノ多大ナリト思料セラルヽヲ以テ各位ハ町村當局者農會在鄉軍人會等ヲ督勵シ屎尿汲取ヲ圓滑ナラシメ、東京府民現下ノ窮狀ヲ救濟スル爲至急實行ニ着手セシメラレ結果報告相成度

斯クテ東京市ニ於テハ豫定ノ如ク、九月七日ヨリ自動車十三臺、人夫二百人ヲ使役シテ作業ヲ開始シタルモ、ナホ其及バザルヲ慮レ、民衆ニシテ汲取人ト聯絡アルモノハ直接之ヲ利用スル等、汲取促進ノ方法ヲ講ゼントシ、同日更ニ市內各署長ニ對シ、左記通牒ヲ發シタリ。

屎尿處分ニ關スル取締ノ件（大正十二年九月七日　衞發第一一號）

本日ヨリ東京市ヲシテ一日約二千荷ノ能力ヲ以テ家屋殘存地域ニ於ケル屎尿汲取作業ヲ開始セシメタルカ、尙隣接郡部各警察署ハ農民ノ活動ヲ督勵シツヽアリテ漸次搬出圓滑ナラムトスル傾向アルモ、此際各住民ニシテ汲取人ト聯絡アルモノハ努メテ其ノ利用方法ヲ講セラレ度

然レドモ隣接郡部農民ノ出動スル者未ダ稀ニシテ、殆ンド市ノ獨力ニ依ルノ外ナキノ際、河川ノ航行杜絶セルガ爲ニ、之ヲ其目的地ニ運搬スル能ハズ、已ヲ得ズ、不便ヲ忍ビテ、本鄕區元町水道橋脇ノ、屎尿溜河川ニ滯留セル屎尿船又ハ淺草區ニ於ケル完成下水道投棄場等ニ運搬セシガ、距離遠クシテ作業進捗セズ、加フルニ容器亦不足セルヲ以テ、小栗衞生部長ハ、日下警部ヲ下谷・牛込・小石川・本鄕等者ノ援助ヲ受クベキ事ヲ注意勸說セシメタリ。

屎尿ノ最モ停滯セル地域ニ遣シ、且隣接農村ニハ各吏員ヲ派シテ、適宜町村當局

(二)　便所ノ設置

避難者ノ集團各地ハ、便所ノ設備極メテ不完全ナルヲ以テ、之ヲ增設スルト共ニ、其清潔ヲ保持セシムル事ニ就キテ、市當局ヲ督勵シ、漸次實施セラルヽニ至リタレドモ、ナホ一般ニ普及スルニ至ラズ、是ニ於テ、九月十日、各署長ニ通牒シテ便所ノ設置ヲ要スル場所及ビ所要數ヲ報告セシメ、之ヲ市ニ移牒シテ、其建設ヲ促ガシタリ。而シテ市ニハ相當ノ財源ヲ有スルヲ以テ、本廳ノ要求ヲ納レテ、或ハ便所ヲ增設シ、或ハ屎尿、塵芥ノ處分ヲ講ズル等、其實行ヲ期スルヲ得タレドモ、隣接各町村ノ如キハ資力乏シキガ爲ニ、不備ノ點アルヲ免レズ、故ニ本廳ハ同十二日、關係各署長ニ對シ、特ニ町村當局並ニ自治團體ト協議シテ、其應急措置ヲ講ゼシメンガ爲ニ、左記通牒ヲ發シタリ。

汚物處分ニ關スル件（大正十二年七月十二日　衞發第一一號）

罹災民ノ大部ハ東京市隣接町村ニ避難シ其ノ數頗ル多キヲ以テ一般屎尿塵芥ノ排出ニ關シテハ不衞生狀態ニ陷ル傾向アリ各位ハ既ニ相當取締方法ヲ講セラレツヽアリト信スルモ稍ゝ緩漫ナリトノ非難アルヲ以テ此際當局者團體等ト協議シ應急措置ヲ講ズル樣其ノ實行ニ努メラレ度

追而其ノ情況ハ隨時報告相成度

(三)　公園ノ清潔保持

上野・芝・淺草・日比谷ノ四大公園ハ、孰レモ九月一日以來、多數ノ避難者ヲ以テ充

滿シ、爲ニ、自ラ不潔ノ狀態ニ陷レルヲ以テ、同十三日、市當局ト協議シテ、上野ニ二十人、芝ニ二十五人、淺草ニ二十人、日比谷（二重橋前ヲ含ム）ニ六人ノ專屬人夫ヲ派遣シテ、塵芥、屎尿ノ掃除ヲ實行セシムル事ニ決定シ、卽日關係各署長ニ對シ、左ノ通牒ヲ發シタリ。

避難者集團ニ關スル件（大正十二年九月十三日　衞發急第二十號）

其ノ署管內何避難者集團地ニ東京市ヨリ人夫何名ヲ專屬派遣シ塵芥屎尿處分ヲ講セシムルヲ以テ市區當局者ト協力シ相當取締相成度

追而人夫ハ東京市淸潔係ナル標章ヲ爲セルヲ以テ爲念

ナホ上野公園ニ於テハ修養團體「希望社」員ノ一團、及ビ、帝國大學生團約三十名等互ニ相提携シテ、屎尿ノ掃除ニ從事シ、園內一帶ノ淸潔保持ニ努力セリ。

(四)　在鄉軍人團又ビ青年團ノ活動

屎尿ノ處分ハ叙上ノ如ク、各署ニ於テ極力郡部農民其他ヲ督勵シテ汲取ニ努メシメツヽアリシガ、田邊板橋署長ノ斡旋ニ係ル、上板橋・練馬・中新井・石神井・大泉在鄉軍人團並ニ靑年團ノ如キハ、東京市ト契約シテ、九月十三日以來其事ニ從ヒ、成績見ルベキモノアリシカバ、ナホ廣ク斯種ノ活動ヲ促進セシメンガ爲ニ、卽日各警察署長ニ對シ、左記通牒ヲ發シタリ。

屎尿汲取ニ關スル件（大正十二年九月十三日　衞發急第十三號）

囊ニ通牒セシ屎尿汲取人勸誘ノ件ニ關シテハ鋭意努力セラレツヽアルコトヽ信スルモ尙一層之カ出動ヲ促進スル樣取計ヒ相成度

追而板橋警察署長ハ其ノ管內農民及東京市ト協議ノ結果小石川、本鄉、牛込三區ノ屎尿ヲ一荷ニ就テ二十五錢ニテ從事スルコトニ決定セシ實例有之候條參考迄申添候

寺テ九月十四日小栗衞生部長ハ、東京府福永內務部長ト連署シテ、團體活動ノ督勵ニ關シ、各郡長ニ左記通牒ヲ發シタリ。

汚物掃除ニ關スル件（大正十二年九月十四日　衞發急第十九號）

震災後ニ於ケル汚物掃除ハ目下最モ緊要ナル問題ナルヲ以テ此際町村長其ノ他關係團體ヲ督勵シテ特ニ適當ナル方策ヲ講セシメ其ノ完全ヲ期セラレ度尙餘力アル向ハ東京市ヲ應援スル等其ノ活用方法ヲ考慮相成度

追而警察署長ニ對シテモ同樣通牒致置候間申添候

(五)　避難者收容所ト便所ノ取締

九月中旬、府、市其他ニ於テ避難者收容所建設ノ事定リ、將ニ其工事ニ着手セムトスルヤ、便所ノ設備ガ防疫上至大ノ關係アルヲ以テ、之ニ對スル注意ヲ促ガサ

ンガ爲ニ、同月十六日、小栗衛生部長ハ、同東京市長、東京府内務部長、笹井幷ニ保安部長及ビ三井家救護班ニ對シ、左ノ照會ヲ發シタリ。

避難民收容所ノ厠圊建設ニ關スル件（大正十二年九月十六日衛發第三二號）

震災後ニ於ケル防疫事務ハ最モ緊要ニシテ傳染病流行ノ兆アル今日屎尿ノ處置如何ハ防疫上至大ノ關係ヲ有スルモノニ有之候目下バラック式避難民收容所建設ノ計畫有之趣ニ付テハ斯ノ如キ多數ノ集團地ニ於ケル便所ノ設備ハ最モ注意ヲ要スベキ義ト存セラレ候條之ガ設備ニ就テハ衛生上特ニ御注意相成度候

追テ從來便所ノ設備ハ十五人ニ對シ一ケ所ノ標準ニ致居候間此邊御含ミノ上相當ノ箇數御設備相成樣致度申添候

然ルニ、其後便所建設ノ狀態ヲ見ルニ、往々ニシテ糞池ニセメント空樽ヲ使用セルモノアリシカバ、九月二十六日前記關係當局ニ對シテ、更ニ警告的通知ヲ發シタリ。

(六)　假小屋ト便所取締

九月中旬ニ至リ、罹災者ニシテ、其原住所タル燒跡ニ歸リ、假小屋ヲ建設スルモノ漸ク多キヲ加ヘタレバ、毎戶必ズ便所ノ設備ヲ爲サシムルノ必要ヲ認メ、同月十七日、小栗衛生部長ヨリ各署長ニ對シ、左記通牒ヲ發シタリ。

便所建設取締ニ關スル件（大正十二年九月十七日衛發第三六號）

一時避難セシ罹災者ハ續々燒失倒壞跡ニ歸來シ、假小屋ヲ建設スルモノ漸次增加スルノ情況ニシテ傳染病流行ノ兆アル今日屎尿ノ處置如何ハ防疫上至大ノ關係アルヲ以テ該建物ニハ必ズ便所ノ設備ヲ命ジ、其ノ構造ハ可成衛生上支障ナキ完全ナルモノヲ建設セシムル樣嚴密取締相成度

(七)　共同便所ノ建設

震災前、東京市内ニ存在セル街頭ノ共同便所二百六十三箇所ノ内、二百十一箇所ハ燒失又ハ破損シタリシガ、秩序ノ漸ク恢復スルニ伴ヒ、各方面、殊ニ罹災地域ノ交通頻繁ニシテ、共同便所復舊增設ノ緊急ナルヲ惟ヒ、九月二十二日、東京市ヲ督勵シテ、改修工事ト假便所ノ急設ニ着手セシムルト共ニ、各署長ニ對シテ增設スベキ場所ヲ報告セシメンガ爲ニ、左記通牒ヲ發シタリ。

公共便所取締ニ關スル件（大正十二年九月二十二日衛發第四五號）

街頭公共便所ニシテ破損燒失セシモノハ至急市區當局者ト協議シ恢復方法ヲ講ゼシメ相當取締勵行相成度尙從來公共便所ノ設置ナキ場所ニシテ將來增設又ハ臨時增設ヲ要スヘキ場所アラバ此際左記樣式ニ依リ折返シ報告相成度

倘街頭公共便所ニシテ破損燒失セシモノモ併セテ設置場所御回報相成度

様式

常設臨時ノ別	設置ノ場所	設置ヲ要スル事由	場所ノ街道名稱又ハ辻若シクハ横町ノ名稱等	備考

(八)　屎尿汲取用器具ノ購入

此時ニ方リ、屎尿汲取用器具モ、殆ンド燒失破損セルガ爲、之ガ補充ノ方法ヲ講ズル事亦急務ナルヲ以テ、小栗衞生部長ハ、内務當局ト協議シテ、隣縣ノ援助ヲ求ムル事ト爲シ、九月二十二日、衞生課柴山警部補ヲ埼玉縣廳ニ派遣シテ、肥桶其他附屬品ノ購入ヲ依頼セシメ、尋テ茨城群馬栃木ノ各縣トモ交渉スル所アリシガ、同月下旬マデニ、四縣ヨリ輸送セルモノ、肥桶六千五十五、天秤棒八百本、柄杓千三百本ニ及ビ、辛ウジテ之ヲ補充スルヲ得タリ。

(九)　汲取專業者ノ督勵

屎尿ノ處分ハ、東京市ノ努力ト、近郊農民ノ出動トニ依リ、略ボ其停滯ヲ緩和スルヲ得タレドモ、久シク現狀ヲ維持シ難キガ故ニ、市ニ於テハ、更ニ、東京糞尿肥料組合及ビ東京生肥會社等汲取專業者ヲシテ、市營ノ一部ヲ請負ハシメ、九月二十六日ヨリ之ヲ實行セリ。

(一〇)　屎尿船繫留所ノ假設

九月下旬、河川ノ航行漸ク恢復シ、屎尿ノ輸送ニ關シテ船舶ヲ利用シ得ルニ至リシカバ、從來指定シタル糞尿船繫留所ヲ復活セリト雖、ナホ、地勢其他ノ關係ニ依リ、必ズシモ之ニ準據スル能ハザル場合多カリシヲ以テ、必要ニ應ジテ指定地域外ト雖、之ヲ使用スルヲ許ス事トナシ、九月三十日、各警察署長ニ對シ、左ノ通牒ヲ發シタリ。

糞尿船繫留所ニ關スル件（大正十二年九月二十日　衞發第七五號）

從來指定セル糞尿船繫留所以外ノ地ニシテ屎尿搬出上必要アリト認メタル時ハ當分ノ内區當局者ト協議シ其署ニ於テ一時衞生上支障ナシト認ムル市有地ニ限リ假ニ默許相成度此段及通牒候也

(一一)　屎尿處分ノ勵行ト其取締

本廳衞生課ニ於テハ、常ニ各方面ニ課員ヲ派シ、屎尿處分ノ情況ヲ視察セシメ、極力其取締ヲ勵行セリ、其一斑ヲ擧グレバ左ノ如シ。

（一）九月二十六日上西枝手等ハ芝離宮内罹災者收容所ヲ視察セルニ、排水設備不充分ニシテ汚水停滯シ、且ツ便所内ニモ浸入スル等、不潔ノ狀態ナリシヲ以テ、經營者タル内務省ニ對シテ其改善ヲ促シタリ。

（二）九月二十七日國分警部ハ麴町區内ヲ視察セルニ、日比谷公園避難者收容所及ビ舊音樂堂前ノ便所ハ、何レモ不潔ヲ極メタレバ、市ニ對シ、其清潔保持ヲ督勵セリ。

（三）九月二十八日、國分警部ハ麴町區内ヲ視察セルニ東京糞尿汲取會組合ト、區當局ノ連絡充分ナラズ、之ガ爲ニ、同組合ハ區ノ命ヲ待タズシテ隨時任意ノ汲取ヲ爲シ、人夫出動ノ數モ不明ナリシカバ、區當局ノ注意ヲ促スト共ニ、組合ニ對シテ警告スル所アリシガ、其後漸ク統一ヲ保ツヲ得タリ。

（四）十月二日、麻上警部補ハ本所、深川、日本橋、京橋各區内ヲ視察セルニ、共同便所ノ工事進捗セズシテ、不潔ノ狀ヲ呈シ、就中、本所陸軍被服廠跡、築地本願寺附近ハ最モ甚キモノアリシカバ、速ニ工事ニ着手スベキ事ヲ關係各區ニ促セリ。

（五）十月五日、日暮警部、上西枝手等ハ芝區内ヲ視察セルニ、增上寺境内罹災者收容所附屬便所二箇所ハ、急斜面ノ場所ニ建設セルガ爲ニ、汲取困難ニシテ附近ノ不潔甚シキモノアリシカバ、經營者タル三井家ニ對シテ其改善ヲ促シタリ。

（六）十月五日、麻上警部補ハ本所陸軍糧秣廠倉庫跡避難者集團地ノ情況ヲ視察セルニ、約百二十箇所ノ便所ハ、概ネ構造不完全ニシテ、溝又ハ低地ニ踏板ヲ渡セルノミナレバ、潮ノ干滿、雨水ノ浸入等ニヨリ、屎尿ヲ附近ニ浸潤セシムルノ虞アルヲ以テ、市ニ對シテ其改善ヲ促シタリ。

第四、塵芥ノ處分

災前ニ於テ、東京市ニ於ケル掃除設備ハ、手車千二百臺、曳船六隻、傳馬船百四十六隻ヲ有シ、人夫千二百人ヲ使役シテ約二十万貫ヲ搬出シタリシガ、火災ノ爲ニ手輓車九百臺ト、自動車二臺傳馬船四十一隻トヲ燒失セルノミナラズ、殘存船及ビ人夫等ハ屍體ノ收容避難者ノ救護等ニ流用セラレ、加フルニ市内ノ混雜ハ又之ニ從事スルヲ容サザルモノアリテ、一時全ク休止ノ狀態ニ陷リタレドモ、斯ノ如キハ保健衞生上等閑ニ附スベカラザルヲ以テ、物情稍〻鎭定スルニ及ビ、速ニ其處分ヲ講ゼントシ、九月七日、小栗衞生部長ハ市當局者ヲ招キテ協議ノ結果、翌八日以來市ニ

於ケル殘存舟車ノ外、更ニ車輛及ビ人夫ヲ增加シテ掃除搬出ノ事業ニ着手ス、然ルニ災後ノ塵芥ハ其ノ性質著シク變化シテ多量ノ壁土、瓦片等ヲ含ミ、其容積ノ如キモ亦從來ニ倍加シタルガ上ニ、往來ノ雜沓、道路ノ粗惡ハ相俟チテ作業ノ困難ヲ促シ、更ニ各所ノ塵芥船繫留所及ビ橋梁ノ燒失、破損ト漂流物ノ障碍トハ舟行ヲシテ不可能タラシメタレバ、已ムヲ得ズ從來ノ方針ヲ一變シ、各區ニ於テ適當ナル空地ヲ選定シテ之ヲ燒却スル事ト爲シタレドモ、土砂ノ混合多キニ依リ、燒却充分ナラズ、是ニ於テ、內務當局ト謀リ、運搬用ノ自動車十數臺ヲ市ニ交附シテ、銳意其搬出處分ニ努メシメタルト、九月二十五日頃ヨリ、滿潮時又ハ迂回路等ノ利用ニ依リ河川ノ舟行漸次復活セルヲ以テ、漸ク之ヲ緩和スルヲ得タレドモ、燒殘地域タル山ノ手方面、就中、本鄕、小石川、牛込等ハ河岸地等トノ聯絡不便ニシテ作業容易ニ進捗セズ、加フルニ倒潰破損家屋ノ多カリシ動坂、掃除町方面、江戶川筋ノ如キハ瓦、煉瓦、壁土、屋根板等到ル所ニ堆積セラレ、更ニ住民ノ塵芥ヲ投棄スル者アリテ其取締ニ關シテモ亦苦心ヲ要シタリシガ、十月下旬ニ至リテ漸ク其處分ヲ完了シ、淸潔ヲ保持スルヲ得タリ。

(一)　市部塵芥ノ掃除

塵芥ノ掃除ハ屎尿ノ處分ト同ジク、災後一週間ノ久シキニ亘リテ全ク休止ノ已ムナキニ至リ、其停滯甚シキヲ以テ、九月七日小栗衞生部長ハ東京市當局者ヲ招致シテ協議ヲ重ネ、物資ノ配給、屍體ノ處置等ニ流用セル人夫及ビ車輛ヲ塵芥掃除ニ復舊シ、同八日ヨリ主要ナル道路及家屋ノ殘存地域ニ於ケル作業ニ從事セシムル事ト成リタレバ、卽日其燒却場ノ選定ニ關シテ市部各署長ニ左記通牒ヲ發シタリ。

塵芥燒却ニ關スル件（大正十二年九月七日衞發急第一號）

明日ヨリ東京市ヲシテ主要ナル道路及家屋殘存地域ニ於ケル塵芥ヲ蒐集セシムルコトニ決定セシニ就テハ市區當局者ハ燒却場ノ選定ニ關シ協議スヘキ筈ニ有之候條相當配慮相成度此段及通牒候也。

(二)　郡部塵芥ノ掃除

隣接郡部ノ各町村モ亦、塵芥ノ掃除ニ就キテ注意ヲ怠ラザリシト雖モ、財政其他ノ關係上、之ヲ直營事業ト爲スモノ稀ナリシ而已ナラズ、災後避難者ノ寄寓ス

ルモノ多數ナリシヲ以テ、自ラ其停滯ヲ促シ、之亦衞生上等閑視ス可カラザルヲ認メ、九月十二日、關係各署長ニ對シテ左記通牒ヲ發シ、應急措置ヲ講ゼシメタリ。

汚物ニ關スル件

罹災民ノ大部分ハ東京市隣接町村ニ避難シ、其ノ數頗ル多キヲ以テ一般屎尿、塵芥ノ排出ニ關シテハ不衞生狀態ニ陷ルノ傾向アリ、各位ハ既ニ相當取締方法ヲ講セラレツヽアリト信ズルモ稍緩慢ナリトノ非難アルヲ以テ、此際各當局者團體等ト協議シ應急措置ヲ講ズル樣其實行ニ努メラレ度

追而其ノ情況ハ隨時報告相成度

然レドモ、其措置ヲ講ズルニハ、關係各郡長ノ助力ヲ要スルガ故ニ、之ヲ督勵セシガ爲ニ、九月十四日、小栗衞生部長ハ、福永東京府內務部長ト連名ニテ左記通牒ヲ發シタリ。

汚物掃除ニ關スル件（大正十二年九月十四日衞發第十九號）

震災後ニ於ケル汚物掃除ハ目下ニ於ケル最モ緊要ナル問題ナルヲ以テ此ノ際町村長ヲ始メ他關係團體ヲ督勵シテ特ニ適當ナル方策ヲ講セシメ其完全ヲ期セラレ度尙ホ左記ノ向ハ東京市ニ應援スル等其ノ活用方法ヲ考慮相成度

追而警察署長ニ對シテモ同樣通牒致置候間申添候

（三）　視察班ノ編成ト其活動

塵芥及ビ屎尿ノ處分並ニ淸潔保持ノ事ハ斯クノ如ニシテ、漸ク其緖ニ着クニ至リシカバ、九月十三日ニ至リテ視察班ヲ編成シ、市郡各方面ニ出動シテ汚物掃除ノ執行狀態ヲ視察スルト共ニ警察署又ハ市・區・町・村等ヲ督勵セシメタリ、今其組織ヲ示セバ左表ノ如シ。

主任	係員	擔當區域
日下警部	警部補二、防疫監吏一	本鄕區、小石川區、牛込區
國分警部	巡査一、防疫監吏一	下谷區、淺草區、麴町區、神田區
日暮警部	巡査一、技手一	芝區、四谷區、赤坂區、麻布區
麻上警部補	巡査部長一、防疫監吏一	本鄕區、深川區、京橋區、日本橋區
各主任協同	各係員協同	郡部

斯クテ各視察班ハ、卽日ヨリ其任務ニ就キテ擔當區域ヲ巡視シ、關係者ヲ指導督勵シ、取締上ノ著シキ効果ヲ奏シタルガ、今其重ナルモノヲ列擧シ、活動ノ一斑

ヲ述ブベシ。

(A) 九月二十六日、日下警部ハ、小石川區内ヲ視察セルニ、戸崎町・柳町・指ケ谷町方面ニ於テ電車軌道其他附近一帶ニ塵芥ノ堆積セルヲ發見セシカバ、區當局者ヲ督勵スルト共ニ、更ニ市ニ對シテモ其處分ヲ促シタリ。

(B) 同日國分警部ハ、淺草公園ヲ視察セルニ、園内ノ混雜甚シキニモカヽハラズ、共同便所ニハ燈火ノ設備ナク、且頗ル不潔ナリシカバ、市ヲ督勵シテ電燈ノ設備ヲ爲サシメタリ。

(C) 九月二十七日、日暮警部ハ麻布區内ヲ視察セルニ、家屋ノ倒潰區域ニ於テハ他區ト比較スルニ著シク不潔ナリシカバ、區當局者ニ注意スルト共ニ、市ニ對シテ其掃除ヲ勵行セシメタリ。

(D) 九月二十八日、國分警部ハ、麹町區ヲ視察セルニ、馬場先門内楠公銅像ノ南方及ビ日比谷公園内道路ニハ塵芥堆積シテ不潔ノ狀態ナリシヲ以テ市ニ對シテ其掃除ヲ促シタリ。

(E) 九月二十九日、皇后陛下、近ク日光ヨリ還啓シ給フ可キヲ以テ、國分警部ハ

御道筋タル下谷・神田・麹町ノ各區ヲ視察シ、區當局ヲシテ特ニ掃除隊ヲ組織シ其清潔保持ニ努メシメタリ。

(F) 九月三十日、國分警部ハ麹町・神田・下谷・淺草ノ各區ヲ視察セルニ、塵芥隨所ニ堆積シレタルバ、區當局ヲ督勵スルト共ニ又之ヲ市ニ通牒セリ。

(G) 九月三十日、麻上警部補ハ、深川區内ヲ視察セルニ、假小屋ノ建設漸次增加スルニ從ヒ、道路其他ニ塵芥ヲ投棄スルモノ尠ナカラザルヲ以テ、其取締ヲ各警察署ニ促シタリ。

(H) 十月二日、皇后陛下、傳染病研究所及ビ濟生會病院ニ行啓アラセラルベキヲ以テ、日暮警部ハ、御道筋ヲ視察シ、區當局ヲ督勵シテ清潔ノ保持ニ努メタリ。

(I) 十月三日、日暮警部等ハ、四谷區ヲ視察セルニ、明治神宮外苑ナル避難者收容所ニハ、塵芥容器ノ設備ナキガ爲ニ、之ヲ隨所ニ投棄スルモノ多ク、又區内ノ塵芥ヲ蒐集シテ四谷見附外濠ノ埋立ヲ實行シツヽアレドモ、作業亂雜ニシテ現場ノ不潔甚シキモノアリシカバ、區當局者ニ注意スルト共ニ、市當局及ビ所轄四谷警察署長ニモ其取締ヲ促シ、ナホ罹災者收容所ニ於ケル　水ノ設備ニ關

シテハ内務省衞生局ニ通牒セリ。

(J)　郡部ニ於ケル塵芥ノ掃除ハ、未ダ概シテ不備ノ狀態ニアルヲ認メ、十月四日、小栗衞生部長ヨリ郡部各署ニ對シ、左記通牒ヲ發シテ之ヲ督勵セリ。

塵芥掃除ニ關スル件（大正十二年十月四日　衞發第九〇號）

標記ノ件ニ關シテハ客月十二日衞發急第十一號ヲ以テ通牒致置候間之ガ取締ニ付テハ相當努力中ト信ズルモ今尙塵芥隨所ニ山積シ頗ル不衞生ノ狀態ニアルノ聞有之候間、特ニ町村長ト協議シ、青年團其他ノ團體ノ援助ヲ求メ、適當ノ場所ヲ選定シ燒却又ハ低地埋立ニ利用スル等ノ方策ヲ講ジ速ニ緊急ノ措置相成度

(K)　十月四日、日下警部ハ、本郷區ヲ視察セルニ、根津須賀町・千駄木町・林町一帶ハ倒潰破損ノ家屋多數ニシテ、瓦、壁土等ノ路上ニ堆積セラレシモノ多キノミナラズ、更ニ附近民衆等ノ塵芥ヲ投ズルアリテ、益不潔ノ狀ヲ呈シタレバ、其取締ヲ驅行センガ爲ニ、十月五日、小栗衞生部長ヨリ市部各署長ニ對シテ、左記通牒ヲ發シタリ。

塵芥掃除ニ關スル件（大正十二年十月五日　衞發第八九號）

震災後ニ於ケル塵芥掃除ニ關シテハ緊急擬出ノ方策トシテ當局者ハ一時路上ニ塵芥ヲ集積セシムル樣宣傳シタル結果ハ現在各戶ノ容器ハ空虛ナルニ拘ラズ依然トシテ路上ニ投棄スルノ風尙熄マサルヲ以テ此際之ヲ止メサレハ掃除ノ目的ヲ達スル能ハサルヲ以テ市當局者ト協力シ之ヲ防止スルコトニ協定致候條右樣方針ニテ之カ取締ノ徹底ヲ期スル樣嚴重取締相成度

(四)　衞生思想ノ普及

塵芥ノ處分ニ就キテ、本廳ガ市區當局者其他ヲ督勵シテ、幾多ノ施設ヲ試ミタル事斯ノ如シ、然レドモ其完備ヲ期セントセバ一般民衆ノ公德心ニ俟タザル可カラズ、就中罹災者收容所ニ於テ其必要ヲ感ジタレバ、衞生思想ノ普及ヲ圖リテ情弊ヲ一掃センガ爲ニ、十月六日關係各署長ニ對シ左記通牒ヲ發シタリ。

衞生思想普及ニ關スル件（大正十二年十月六日　衞發第一〇五號）

各避難者收容所ノ居住者ハ一時的集團ノ結果ナラムカ一般ニ公德心ニ薄ク衞生思想ノ觀念ニ乏シキ憾アリ現在各收容所內隨所ニ放尿脫糞塵芥投棄ノ弊風ヲ認メラルヽハ各種設備ノ極メテ不完全ナリシカ其一原因ナルコトヲ窺ハルヽモ現在當局ニ於テ相當考慮シ衞生上ノ諸設備逐日完成ニ近付キツヽアルニ拘ラズ、尙如上ノ行爲ヲ敢テ爲スノ實例アリテ

公衆衞生上看過スヘカラサル次第ニ有之候ニ付此際バラツク事務所主任者ト協議シ居住者ニ對シ不衞生ノ行爲ナキ樣衞生思想普及方適當方法ヲ講セラレ、其ノ結果報告相成度

第五、薬品其他救療材料ノ蒐集及ビ配給

九月一日本廳衞生部ニ於テハ幾多ノ危險ヲ冒シ辛ウジテ救療材料ヲ倉庫中ヨリ搬出シタレドモ、其量ハ以テ需要ヲ滿タス可クモアラズ今次ノ如キ未曾有ノ災變ニ當リテハ巨額ノ材料ヲ蒐集スル必要ヲ見タレドモ、其唯一ノ市場タル日本橋區本町附近ハ悉ク燒失セルヲ以テ野副衞生檢查所長ニ命シ、陸軍省及ビ傳染病研究所等ヨリ配給ヲ仰ギ、或ハ殘存地域ノ藥種舖ヲ點檢シテ購買セルノミナラズ更ニ三共、大日本星、其他ノ製藥會社ト交涉シテ蒐集ノ策ヲ講ジ、尋テ又內務省ト協議ヲ重ネ、各縣ヨリ各種材料ノ輸送ヲ受ケ、更ニ賣藥ノ如キハ所員速日各方面ニ出動シテ購買スル等非ノ常苦心ニ依リ、九月下旬ニ至リテ、漸ク後顧ノ憂ナキヲ得タリ。

(一)　事務ノ分掌

小栗衞生部長ハ九月二日野副衞生檢查所長以下所員全部ヲ以テ救療用材料醫藥品ノ蒐集配給事務ヲ擔任セシメシカバ、翌三日野副所長ハ臨時事務分掌ヲ左ノ如ク定メタリ。

事務分掌

分擔事別	主任	係員
庶務及供給	多紀技手	四、
蒐集配給	川畑技師	四、
調製及調劑	比良野衞生技師	七、
賣藥ノ配給	吉武警察技師	三、
分析及試驗	各主任兼任	技手四、(兼)

(二)　藥品其他衞生材料ノ蒐集及ビ配給

本廳燒失ノ際、倉庫ヨリ搬出セル衞生材料ハ、到底數十萬ニ上レル多數傷病者ヲ救療スルニ足ラザルヲ以テ、九月二日、野副所長ハ、麻布、芝、赤坂、四谷方面ノ藥舖ニ就キ、藥品ヲ蒐集シ、更ニ翌三日以來、部下ノ各技師ヲ星、三共、大日本ノ三製藥會社ヲ始メ、吾嬬町東京製藥會社、落合村小松製藥會社及ビ千代田製藥會社、高田町

綿業社等ヘ派遣シテ、藥品及ビ衛生材料ヲ購入セシメ、又陸軍、海軍、內務ノ各省、東京衛生試驗所、傳染病研究所等ト交涉シテ其供給ヲ仰ギ、專ラ火傷藥、點眼水、石炭酸、硼酸水、沃度丁幾等ノ蒐集並ニ其製劑ニ從事シテ之ヲ各救護所及ビ一般避難者其他ニ配給シ、又毛布五百枚ヲ陸軍省ヨリ借用シテ收容所ニ於ケル重病患者ニ交附セシガ、九月十二日、巡回消毒班ノ設置セラレテ、假性石灰七千罐及ビ石炭酸二千封度購入ノ必要ヲ生ズルヤ、石炭酸ハ三共製藥會社ヲシテ製造セシメタレドモ、假製石灰ハ東京ニ於テ之ヲ求ムルニ由ナク、遂ニ栃木縣ニ依賴シテ漸ク之ヲ辨ズルヲ得タリ。

尙星製藥會社、大阪、京都ノ各賣藥同業組合、三井物產會社、靜岡藥劑師會、及ビ德島、富山、岐阜ノ各縣及ビ個人ヨリ寄贈セラレタル賣藥ハ百五十四萬六千餘箇ニ上リタレバ、九月十一日以後、市、郡ニ亘リテ、各警察署及ビ區、町、村役場ニ頒チ、更ニ其手ヲ介シテ之ヲ罹災者ニ配給セリ。今救療又ハ配給シタル藥品及ビ衛生材料（賣藥ヲ除ク）ヲ徵發、購入、受入、寄贈別ニ擧グレバ左表ノ如シ。

（一）徵發藥品衛生材料調

品目	單位	數量	金額
藥品			
同	瓦	一三五	八四、八七〇 円
同	弓	二、一三五	二八、一七〇
同	個	七〇	四二、九八〇
同		一、〇六八	五九六、九八〇
計			七五三、〇〇〇

（二）購入藥品及衛生材料調

種別	單位	數量	金額
藥品			
同	本	三、〇八三	四、一六六、二二〇 円
同	磅	三一、三八四	八、七二三、九五〇
同	瓦	一二、五五六	二四四、六五〇
同	弓	二、二六六	一、八〇八、六六五
同	瓶	四、一三三	五、九五二、七二〇
同	個	六五四	三四三、九一〇
同	箱	二、二九六	三、六六五、〇八〇

受入藥品及衛生材料調

種別	單位	數量	金額
合計			五一、六三〇、二〇〇 円
雜品計			八〇、四〇〇
同	鐘	一	六九、三〇〇
同	匁	四二	五五六、六四〇
同	斤	六一	一、八〇三、二六〇
同	折	三、一八九	七九、〇四四、九九五
同	升		三〇、八一八、三三〇 円
醫療器械計		一四、二八七	三、二二三、二七〇
同	個	一、九七六	二四、五五〇
同	本	四九	一、六三〇、六〇〇
同	枚	六五	一六、〇〇〇
同	臺	三	四、八〇〇
同	丁	一	三五、七一七、五五〇
同	卷	三三種	四三、二〇〇、一〇五
藥品計			一五七、九六二、六五〇
同	個	一、四七三、九〇六	一七六、八六八、七二〇 円
同	磅	六五、三八四	九七、八二四、四五〇
醫療器械其他計			二七四、六九三、一七〇
同	臺	一、九九一	二一、〇三〇、〇〇〇
同	箱	一、〇五一	六、七四一、一〇〇
同	個	七、五八七	一二、八四八、三〇〇
同	枚	七、〇〇九、四七一	八一、〇八八、〇〇〇
同	張	二〇〇	四〇、〇〇〇、〇〇〇
同	包	二〇	一、五〇〇、〇〇〇
同	本	一〇、七一三	二、三二二、四〇〇
同	組	一〇三	一六〇、六〇〇
同	籠	七二	一、八〇〇、〇〇〇
同	瓶	一六八	四五、〇〇〇
同	足	五九	一七七、〇〇〇
同	挺	一六	三五、〇〇〇
同	具	一	八、〇〇〇

同			一六〇
同			二二
同			三七
同			三四一
同			二
合計			
計			

備考、受入先ハ内務省、陸軍省、他府縣其他公益團體等ナリ

（三）寄贈藥品及ビ衛生材料調

種別	單位	數量	金額
藥品	個	七二、一八一	二一、九一一・七五〇
同	磅	一一、二四〇	一五、八五九・五三〇
計			三七、七七一・二八〇

第六、飲食物ノ取締

震火災ノ後幾モナク、鮮人暴動ノ流言都鄙ノ間ニ宣傳セラレテ、イタク民心ヲ刺戟スルヤ、其毒藥撒布ノ說モ亦之ヲ信ズルモノ多ク、遂ニ飲食物及ビ飲料水ヲ本廳又ハ各警察ニ持參シテ、其調査ヲ要求スルニ至リシガ、本廳衛生部衛生檢査所既ニ燒失セルヲ以テ、鑑定ノ設備ヲ有セズ、卽チ內務省東京衛生試驗所ニ托シテ分析其他ノ試驗ニ從事スルト共ニ、技術員又ハ警察官ヲ現場ニ急派シテ、其除害豫防ニ努メ、更ニ世人ノ疑惑ヲ一掃センガ爲ニ、各警察署長ヲ督勵シテ、流言ノ取締ヲ勵行セシメタリ。然ルニ日ヲ經過スルニ從ヒ、避難者集團地附近及ビ市內各所ノ路傍ニ假設飮食物販賣店激增シ、不潔ナル容器食器等ヲ使用スルモノ尠ナカラズ、殊ニ覆蓋驅蠅ノ設備ニ至リテハ、殆ンド之ヲ缺クノ有樣ニシテ、衞生上等閑ニ附スベカラザルヲ以テ、衞生部ニ於テハ、技術官ト警察官トヨリ成ル檢查班ヲ組織シテ、其檢查取締ヲ勵行セシガ、從事員ノ努力ニ依リ防疫上ニ及ボセル効果尠カラザリキ。

（一）飮食物ノ檢查鑑定

鮮人毒藥撒布ノ流言ニ刺戟セラレ、九月四日ニハ、神田區佐柄木町市設撒水用井戶ニ毒物混入ノ疑アリトテ、錦町警察署ヨリ、同五日ニハ上野公園ノ避難者中ニ配給セル握飯ニ毒物混入ノ疑アリトテ、上野警察署ヨリ、軍用麵麭中ニ亞砒酸含有ノ疑アリトテ、六本木警察署ヨリ、井戶ニ毒物投入ノ疑アリトテ板橋

警察署ヨリ、或ハ井水ヲ送付シテ分析ヲ請ヒ、或ハ之ヲ報告シテ臨檢ヲ求メタリシガ、井水ニ毒藥ヲ投入セリト稱スルモノニ至リテハ、同八日ニハ上野警察署ヨリ、同十三日ニハ高輪、巢鴨ノ兩警察署ヨリ、同十四日ニハ世田谷警察署ヨリノ報告ヲ始メ、其他ニモナホ尠ナカラズ。而モ嚴密ナル分析ノ結果、悉ク、何等ノ異常ヲモ認メザリシカバ、各警察署ニ其旨ヲ傳フルト共ニ、更ニ市・郡ノ各署長ヲ督勵シ、震災ノ影響トシテ井水ノ性質ニ多少變化ヲ生ズルハ當然ノ結果ナル事ヲ宣傳シ、一般民衆ノ誤解ヲ一掃スルニ努メタリ。

此時ニ方リ、本廳衛生部衛生檢査所ハ既ニ燒失セルヲ以テ、飲食料品ノ檢査鑑定ハ、常ニ之ヲ內務省東京衛生試驗所ニ依賴セシモ、不便尠ナカラザルヲ以テ、九月十四日以來、該事務ヲ擧ゲテ同所ニ囑託セシガ、衛生部ノ設備稍復舊スルニ及ビ、改メテ之ヲ東京市衛生試驗所ニ托シ、同所內ニ衛生部技術員ヲ派遣シテ分析其他ノ檢査ニ從ハシムル事トナシタリ。

(二)　飲食物販賣者ノ取締

罹災者ノ避難狀態漸ク固定シ、復興ノ氣分次第ニ橫溢スルニ及ビ、飲食物露店並ニ假設賣店等所在ニ續出シタリシガ、概ネ其設備ヲ怠リ、原料ノ選擇、調理ノ方法、容器ノ洗滌等亦完カラズ、或ハ不正ノ手段ヲ弄スルモノナキニ非ルヲ以テ、九月十三日小栗衛生部長ハ各署長ニ對シ其取締方ニ關スル左記通牒ヲ發シタリ。

飲食物取締ノ件（大正十二年九月十三日衛發急第一五號）

現在隨所ニ各種飲食物ノ販賣ヲ營ムモノ漸次續出シ殊ニ露店、行商者ノ數ハ頗ル多數ナルヲ以テ此際腐敗又ハ不正ノ飲食物ノ取締ヲ嚴密ニ勵行相成度

是ニ於テ各警察署モ亦專ラ意ヲ玆ニ效セシモ、完全ニ其目的ヲ達セントセハ、飲食物ニ對スル技術的檢査ヲ行フノ必要アルヲ認メ、九月十九日、衛生部勤務ノ技術官及ビ警察官ヲ以テ、飲食物檢査班ヲ組織シ、卽日ヨリ比良野技師日暮警部指揮ノ下ニ、技手三名及ビ巡査六名ヲ淺草上野日比谷芝ノ各公園及ビ本郷四谷ノ各主要方面ニ派遣シテ檢査ニ着手セリ。同二十一日ニ至ル三日間ニ於ケル成績ハ左表ノ如シ。

飲食物檢査成績

種別	良				不良				發見數計
	十九日	二十日	二十一日	計	十九日	二十日	二十一日	計	
覆蓋	五七五	四九一	五八六	一、六五二					一、六五二
容器及其ノ他器具	三二三	四三三	四〇九	一、一六五					一、一六五

清涼飲料水					一二〇		一〇五		三三五		
果實					一二三		九一		三〇七		
使用水					七二四		五六二		一、四四三		
其ノ他					二八		四一		八四		
合計	一、八九三	一一〇	一〇五	三三五	一、七二八	一、三六五	四、九八六				

成績ノ不良ナル事斯クノ如クニシテ、一般衛生上憂フベキモノアリシカバ、本廳ハ、爾來益〻檢査班及ビ各警察署ヲ督勵シ、其取締ヲ嚴ニセリ。今九、十兩日間ノ成績ヲ擧グレバ左表ノ如シ。

大正十二年九月、十月飲食物檢査成績表

區別	種別	不良發見店舗數			廢棄分			訟件數			合計
		九月	十月	計	九月	十月	計	九月	十月	計	
覆蓋		二、七六	二、〇六八	四、七四	—	—	—	二、七六	二、〇六八	四、七四	四、七四
容器其他器具		一、九五六	一、一五八	三、一一四	一、九五六	一、〇七九	三、〇三五				三、一一四
使用水		二、一四九	二、一一三	四、二六二	一、八六八	八四九	二、七一七				四、二六二
清涼飲料水		九八三	六八四	一、六六七	九九四	四〇三	一、三九七				一、六六七
牛乳		二	一五	一七	二	一二	一四				一七
果實		一、〇〇三	二六八	一、三〇一	五二九	二六八	六七二	五〇九	二六八	七七九	一、三〇一
其他一般飲食物		四三	一、一七	一、一六〇	一、一五八	一、一三六	二、二九四	一、一三五	一、一三六	二、二七一	一、一六〇
合計		九、二五九	七、五八四	一六、八四三	一、四〇二	二、一五〇	三、六五二	七、七五八	五、四三四	一三、一九二	一六、八四三

第七、 衛生情況ノ調査

災後ニ於ケル衛生醫療施設ノ完備ヲ期シ、其効果ヲ擧ゲントセバ、須ラク常ニ一般ノ情況ニ注意シ、之ニ順應シテ計畫ヲ定メザル可カラズ、是ニ於テ、本廳ハ九月一日、衛生課國分警部ヲ主任トシ、巡査二名、技手一名、防疫監吏三名ヲ隷屬セル情況調査機關ヲ特設セリ。國分警部等劫火未ダ已マズ、市内混亂中ノ困難ヲ排シテ、卽日其活動ヲ開始シ、應急救療ニ關スル、本廳ノ施設ニ支障ナカラシメタルノミナラズ、更ニ引續キテ、救護本部ノ諸計畫實施ノ結果、並ニ一般衛生狀態ヲ視察シテ新施設ノ參考ニ資シ、或ハ常設傳染病院、各傷病者收容所ノ收容餘力ヲ調査シテ、患者收容ノ圓滑ヲ計リ、又罹災者收容所建設豫定地ニ關スル調査ニ從フ等、其貢獻スル所尠カラズ、就中、關係官公署ニ對スル適切ナル督勵ノ如キハ、其効果特ニ顯著ナルモノアリキ。

第八、 浴場建設

一、特設浴場建設

保安部ニ於テハ、九月七日以降、罹災者收容バラック建設ニ伴ヒ、漸次罹災者ノ收容ヲ開始シ、一面罹災者ニシテ自ラバラックヲ建設スル者少カラザルモ、浴場ヲ開設スルモノ殆ンドナキ爲罹災地居住者ハ入浴不能ノ情況ニ陷リ、不潔甚シキヲ以テ浴場ヲ開設スルハ保健衛生上最モ緊要ナルヲ認メ、先左記條件ニ依リ、浴場營業者中ノ罹災者ニ對シ、假設浴場設置ヲ許可スルノ方針ヲ定メタリ。

(一) バラック收容所又ハ其附近ニ設置スルコト。

(二) 浴場營業者中ノ罹災者ニ對シテ特許ノコト。

(三) 向三週間以內ニ開設セシムルコト。

(四) 存續期間ハバラック存立期間トスルコト。

但シ時機ニ依リ何時ニテモ廢止ヲ命ズルコトアルベシ。

(五) 入浴料ハ大人三錢、小人一錢位トスルコト。

(六) 設備ハ火防、風俗、衛生上相當注意ヲ爲スコト。

(七) 煙突ノ高サハ五十尺以上トスルコト。

(八) 九月二十日迄ニ平面圖ヲ添ヘ出願スルコト。

(九) 浴場組合ヲシテ特許者ノ推薦ヲ爲サシムルコト。

而シテ之ガ實施ハ、浴場組合ニ交渉スルヲ捷徑ナリト認メ、組合幹事長ヲ招致シテ其趣旨ヲ傳ヘタルニ、同組合ニ於テ、之ガ建設經營ヲ諾シ、組合ハ直ニ群馬・茨城・千葉等ニ人ヲ派シテ材料蒐集ニ努メシガ、其運輸極メテ困難ナルヲ以テ、先ヅ鐵道省ニ交渉ノ結果、十月十日、辛ウジテ四箇所分ノ浴場建設材料ヲ搬入スルコトヲ得タルヲ以テ、日比谷・上野・芝・淺草各公園ニ、一箇所宛配置建設スルコトニ決シ、保安部ハ工事ヲ督勵シテ其進捗ヲ計リシガ、淺草公園ハ十一月七日ヨリ、其他ハ十一月十八日迄ニ全部ノ開設ヲ見ルニ至リ、各收容所ノ罹災者ヲシテ入浴セシムルヲ得タリ。

此外救護事務局ニ於テモ浴場建設ノ必要ヲ認メ、東京府及ビ東京市ニ對シテ浴場建設維持費ヲ交付シ、其建設方ヲ委任セラレタルヲ以テ、九月三十日東京市ニ於テ救護事務局、東京府、東京市及ビ本廳ノ關係者協議會ヲ開催シ、特設浴場建設場所豫定地ヲ協定シ、東京市ニ於テ、日比谷公園外二十九箇所ヲ、東京府ニ於テ千駄ヶ谷町外九箇所ヲ建設スルコトヽセリ。

二、假設浴場取締規則制定

九月十三日及ビ十七日、假設家屋ニ關スル勅令及ビ內務省令公布セラルヽヤ、保安部ハ更ニ、竹重營業係長ヲシテ假設浴場取締規則ヲ起草セシメ、九月二十七日警視廳令第四十七號ヲ以テ之ヲ發布シ、假設浴場構造制限ヲ容易ニシ、之ガ開設ヲ促進セル結果、九月中十件、十月中五百四十件ノ出願アリテ、所期ノ目的ヲ達スルヲ得タリ。

三、据風呂ノ設置

浴場開設ニ關シテハ、最モ臨機ノ措置ヲ講ジタルモ、材料ノ搬入至難ノ爲、工事遲々トシテ、之ガ竣工迄ハ相當期日ヲ要スルヲ以テ、笹井保安部長ハ、救護事務局ト協議シ、應急施設ノ一部トシテ、殘存地域ヨリ多數ノ据風呂ヲ購入シ、之ヲ罹災地域及ビ多數罹災民ヲ收容セル方面ニ配給シテ以テ、罹災者ノ入浴ニ便センコトヲ協定セリ。

（一）計畫

本施設ノ爲救護事務局ヨリ委托セラレタル豫算左ノ如シ。

豫算總額　八、〇〇〇圓

內譯

据風呂購入費　六、〇〇〇圓

燃料費　二、〇〇〇圓

先ヅ、据風呂ノ急速購入ヲ爲サムガ爲ニハ、各地現存ノ個數ヲ明ニスルノ要アルヲ認メ、九月二十八日、殘存地域ノ各署ニ對シ、當該管內ニ於テ一兩日中ニ購入シ得ラルベキ据風呂（新舊ノ如何ヲ問ハズ）個數ノ調査ヲ依囑シ、翌二十九日、之ガ回答ニ接スルニ及ビ、蒐集シ得ラルベキ風呂桶ノ概數ヲ知ルヲ得タルヲ以テ、玆ニ全市ニ散在セル收容所ニ於ケル罹災者ノ多寡ト、給水其他入浴ノ便否トヲ考慮按配シテ、配給場所及ビ其個數ヲ豫定シ、夫々配給先ノ各署ニ係員ヲ派シ、之ニ關スル協議打合セヲ爲サシメ、尙ホ之ガ維持方法ニ關シテハ、据風呂一個ニ對シ、打チ切リニテ二十圓ノ燃料費ヲ支給シ、該燃料費ノ範圍內ニ於テ、夫々配給ヲ受ケタル署長ヲシテ便宜之ヲ實施セシメ、本施設ノ實効ヲ擧ゲシムルコトトセリ。

（二）實施

九月三十日ヨリ十月三日ニ亘リテ、毎日、早川保安係長外五名ニ對シ、各々擔當區域ヲ定メテ出動セシメ、一面所轄署ノ應援ヲ覓メテ、曩ニ各署ニ依賴調査シ得タル材料ニ依リ、風呂桶ノ蒐集ニ努メ、五、六個ヲ集ムル毎ニ、夫々豫定ノ配給先ニ運搬シ、一兩日ノ間ニ入浴ヲ開始シ得ラルヽガ如キ方法ヲ講ジタルガ、之ガ蒐集ニ方リ、豫定數ト實數トノ齟齬アリテ相當困難ヲ感ゼシガ、同三日略其全部ノ配給ヲ完了スルニ至レリ。

(三)　成　績

大正十二年十二月二十日現在成績左表ノ如シ。

据風呂ニ關スル成績表（大正十二年十二月廿日現在）

署名	配置個數	配置個所	開設延日數	入浴人員	一個一日ノ入浴者數
日比谷	四	日比谷公園内	一八〇	二六、四五七	一四八號
錦町	二	神田三河町四ノ九一、同區新銀町九一、	一五三	六、二九六	四一强
西神田	二	神田區三崎町一ノ三、三崎館内一、同區中猿樂町一一警察署内一	一一〇	七、六〇〇	六九强
外神田	三	龜住町第一四班在鄉軍人會及橋本小學校バラツク一、江川町々會一、大和町々會金澤町芳林小學校バラツク一、	一五七	五、九五〇	三八號

署名	配置個數	配置個所	開設延日數	入浴人員	一個一日ノ入浴者數
久松	六	日本橋高等小學校一、東華小學校一、有馬小學校一、千代田小學校一、久松小學校一、警察署内一、	二六六	二六、九七〇	六四同
堀留	四	日本橋區新材木町一九青島方一、同區長澤町三小池金一郎方一、同區小傳馬上町二三中村銀次郎方一、同東方河岸四六堀留署側一、	二七八	一〇、〇五〇	三六强
新場橋	一	日本橋區城東小學校内一、	六〇	三、五〇〇	五八同
築地	七	木挽町一ノ一一、一同九ノ三〇、一築地二丁目本願寺跡一、南小田原町二ノ二、一新宮町五ノ七、一新港町三ノ三、農商務省地質研究所内一	四三五	八七、六三一	二〇一同
月島	五	新佃島二、月島一號地一、同二號地二、	二九七	一二、八九一	四三同
愛宕	四	芝公園東照宮前二、同大隈銅像前二、	二六八	五、一〇〇	三九同
四谷	五	明治神宮外苑三、同競技場二、	三七九	四四、二三〇	一六同
上野	一二	下谷區御徒町二ノ一六、一同二長町九、一同車坂町々會一、同御徒町四ノ四七、一同竹町バラツク一、同上野署内一、同池ノ端バラツク三號一、同池ノ端バラツク一號一、同同四號二、同同ほ號一、	五四三	四七、三〇五	八七强
坂本	四	(同善小學校、金曾木小學校、萬年小學校バラツク三、淺草公園バラツク一、淺草公園市ノ會丁一、同富士小學校二、象潟署内一、淺草區金龍小學校バラツク及待乳山公園バラツク二、入谷小學校、千手院一、臺東小學校一	一六八	一〇、〇一〇	六〇强
象潟	八		一九二	三一、〇一〇	一五一强

七軒町	四	淺草區東本願寺バラック二、同新堀小學校バラック二、	二八	四二、一〇〇	一九三强			
相生	八	本所區安田バラック三、本所小學校一、中和小學校一、林町三丁目町會一、菊川町二丁目町會一、德右衞門町々會一、	三六	三〇、一四四	八九同			
原庭	三	本所區番場町六九、一北新町七八警察署內一、外手町八九外手町小學校一、	一四三	六、八二〇	四七同			
西平野	五	管內巡回三、管內岩崎別邸跡一、警察署內一、	二九三	三、七四〇	七七同			
扇橋	七	警察署內二、深川區扇橋小學校內一、同富川町勞働者合宿所一、同町々會一、猿江町々會一、同本村町々會一、	四三九	三三、四四四	五一同			
洲崎	一二	深川區洲崎辨天町一、同西平井町一、東陽學校跡バラック一、同木場町一、入舟町一、同古石場町一、同大島町一、越中島町一、同平久町一、同平富町一、蛤町一、警察署內一、	四一五	一七、九〇〇	四三强			
千駄ヶ谷	四	千駄ヶ谷町千駄ヶ谷バラック四、						
計	一〇九		五、一八九	四五七、一八八	八八强			

第五節　大震火災ト精神病

震火災ガ精神界ニ及ボシタル影響ハ頗ル重大ナルモノアリ。就中、其精神病ト關係ノ如キハ、警察上特ニ注意スベキ問題ナルヲ以テ、本廳衞生部ニ於テハ、精神病者ノ救護收容ニ從事スル傍、金子技師ニ命ジテ研究調査ヲ遂ゲ、將來ノ參考資料タラシムルニ努メタリ。然レドモ、統計材料ノ蒐集ナホ未ダ完カラズ、漸ク災後公費入院ノ精神病患者ニ關スル統計ヲ得タルニ過ギズ、殊ニ患者ノ職業、教育、結婚關係、遺傳等ノ調査ヲ缺キタル等、不備ノ點多ケレドモ、暫ク之ニ據リテ其一斑ヲ略說セントス。

第一、震火災ト精神病トノ關係

一　精神生活ニ及ボセル影響

震火災ノ爲ニ、頭部及ビ神經系統ノ傷害ヲ受ケタルモノ多數ニ上リタルト、火災ニ因ル酸化炭素ノ吸入、火熱ニ因ル異常高溫度ノ壓迫等トハ、直接神經系統ニ影響シテ精神病ノ發生ヲ促シタルノミナラズ、鮮人ノ暴行、大震ノ再襲ニ關スル流言、血族、知友ノ慘死及ビ行方不明並ニ財貨ノ燒失、飮食料ノ缺乏、營養ノ不足、過度ノ疲勞等モ亦、精神生活ニ影響セル所多ク、又一般ニ暗示、感受性興進シテ、神經衰弱症狀ヲ呈スルニ至レル等、孰レモ精神病ノ發病的傾向ヲ昂メタルモノニ似タリ。

二　精神病的素質者ニ及ボセル影響

公費入院精神病者ニ表ハレタル統計ニ據レバ、黴毒ニ原因スル麻痺性痴呆著ルシク增加シ、更ニ精神性精神病ノ如キ、平素稀ニ見ル所ノ精神病モ亦續發セリ。斯ノ如キハ震火災ガ精神的素質者ニ及ボシタル影響ノ如何ニ大ナルモノアリシカヲ證明スルモノト言フベシ。又斯種ノ精神病的素質者ニシテ發病スルニ至ラザレドモ、輕微ナル精神的異常ノ爲ニ、犯罪者及ビ蜚語ノ流布者ヲ生ジタルモノ亦尠ナカラズ。

三　精神病者ニ及ボセル影響

震火災ハ又、輕症ナル精神病者ニモ影響シテ、其症狀ヲ昂進セシメタルガ如シ、コレ公費入院患者ノ病歷ニ徵シテ明カナルノミナラズ、更ニ一般精神病者ニシテ、震火災ニ關聯セル特殊ノ色彩ヲ帶フルニ至リシト、社會的危險性ヲ有スル妄想幻覺ガ、災後ニ於テ發シタルモノ多キニ依リテ推知スルヲ得ベシ。

第二、震火災ト精神病院

一　精神病院ノ被害

震災ノ爲ニ、各精神病院ハ悉ク建物ノ損壞ヲ招キシガ、就中、府立松澤病院ノ如キハ慘狀最モ甚シク、全潰六棟、半潰五十四棟ニ及ビ、其倒潰ヲ免レタルハ僅カニ三棟アルノミ。之ガ爲メ不幸ニシテ四名ノ死傷者ヲ出シタリシガ、根岸病院、加命堂腦病院、青山腦病院等ノ損害モ亦尠ナカラズ、管內十二箇所ノ精神病院ノ被害見積額約五千萬圓ニ上レリト言フ。然レドモ避難ノ處置宜シキヲ得テ、松澤病院以外ニハ遂ニ一名ノ死傷者ヲモ出サヽリキ。今各病院ノ被害ヲ擧グレバ左表ノ如シ。

精神病院被害

病院名	大正十二年九月一日在院病者	死者	負傷者	逃走者	建物全潰	建物半潰	其他建物損傷
府立松澤病院	七二一	二	四	三	六	五四	屋根壁等ノ損傷セシモノ殆ンド全建物ニ及ブ
代用精神病院井村病院	一四九	同	同	同	同	同	同
同戸山腦病院	二八二	同	同	同	同	同	同
同加命堂腦病院	二〇六	同	同	同	同	同	同
同根岸病院	三八八	同	同	同	同	同	同
同王子腦病院	二七八	同	同	同	同	同	同
同青山腦病院	二六九	同	同	同	同	同	同

同保養院	四三二	一	一	一	一	一	一	同
東京腦病院	九六	一	一	一	一	一	一	同
巢鴨腦病院	八三	一	一	一	一	一	一	同
晉羽養生所	二三	一	一	一	一	一	一	同
大久保腦病院	四四	一	一	一	一	一	一	同
計	二、九七一	二	四	四	一〇	五八		

二　火災ト精神病院

管内公私立精神病院ハ火災ノ爲ニ燒失セルモノ無カリシト雖モ、下谷區下根岸町ナル代用精神病院根岸病院ノ如キハ、一時猛火ノ包圍スル所トナリ危險ニ瀕シタリシガ、構内ニハ樹木繁茂シ、且相當空地アリシヲ以テ消防ニ努力セル結果幸ニシテ類燒ヲ免ルヽヲ得タリ。

第三、精神病者ノ救護

一　精神病院ノ監督

震災ニ因ル精神病院ノ被害前述ノ如クナリシガ、時恰モ流言蜚語頻リニ宣傳セラレテ其從事員等皆不安ノ念ヲ抱ケリ。此間若シ監視ヲ怠リ、患者ヲ逃走セシムルガ如キ事アラムカ、其生命ノ安全亦期ス可クモアラザルノミナラズ、之ガ爲ニ更ニ流言ノ擴大ヲ促スノ虞アルヲ以テ、特ニ精神病院ノ監督ヲ嚴ニシ、各從事員ヲ督勵ノ結果、松澤病院ニ於テ三名加命堂腦病院ニ於テ一名ノ逃走者ヲ出セルノミニシテ二千有餘ノ患者ノ保護ヲ完クスルヲ得タリ。

二　精神病院ニ對スル食料品ノ配給

由來精神病者ハ、概シテ自己保存ノ本能ニ基ク營養慾極メテ强烈ナレバ、多數患者ヲ收容セル精神病院ニシテ、食料ノ缺乏ヲ來サバ、病者ヲ興奮セシメテ事端ヲ惹起スルノ虞アリ。然ルニ、加命堂腦病院其他二、三病院ガ貯藏ノ食料品缺乏シテ、數日ノ後ニハ患者開放ノ止ムナキニ至ルベシトノ報告ニ接スルヤ、本廳衞生部ハ、直ニ所轄警察署及ビ關係當局ト協議ヲ遂ゲ、食料配給ノ途ヲ講ジタリ。

三　精神病者巡回救護班ノ組織

災害ニ依リ、本廳ガ一般救療事務ニ執掌スルノ際、犯罪關係精神病者續出シ、一般精神病者ノ病症モ亦震火災ニ基ク特殊ノ色彩ヲ帶フル等專門精神病醫ノ檢診ヲ要スル者增加セルノミナラス、罹災中ニモ精神病者ノ入院ヲ乞フモノ尠ナカラザ

リシカバ、本廳衞生部内ニ特ニ精神病者巡回救護班ヲ設置シ、各署管内ヲ巡回シテ、通信、交通機關ノ杜絶等ニ依リ、入院ノ機會ヲ失シタル精神病者ヲ各精神病院ニ收容シテ、之ヲ救護スルト共ニ、公安ノ保持ニ努メタリシガ、九月三十日マデニ巡廻救護班ニ於テ檢診入院セシメタル精神病者ハ九十六名ニ及ベリ。

四　精神病者ニ關スル人事相談

震火災ノ後、罹災監護義務者等ノ本廳ニ來リテ精神病者ノ診察、入院手續、費途變更手續等ヲ質問スルモノ勘ナカラズ、本廳ハ公安ノ維持ト、患者ノ救護トヲ徹底センガ爲ニ、保安部人事相談課ニ於テ其相談ニ應ズルト共ニ、他ノ社會事業關係者當局ニモ紹介ノ勞ヲ執リタルモノ、十二月未日迄ニ百二十六件アリシガ、ナホ又患者ノ行方不明其他ノ捜索願九十八件ノ内之ヲ發見セルモノ九件ニ及ベリ。

五　精神病者ノ輸送

交通機關ノ杜絶セルガ爲ニ、精神病者ノ送致ハ一時不能トナリ、加フルニ各警察署ニ於テモ亦、概ネ保護室ノ滿員ヲ見タレバ、本廳ハ至急入院ヲ要スル同患者ニ就テハ、各署ノ要求ニ應ジ、救護班用自動車ヲ以テ病院ニ送致スルコトヽシタリシガ、

九月三十日マデニ送、院セルモノ七十八名ニ及べリ。

六　救護所及ビ集團バラックノ視察

天災地變ニ際シ、常ニ流言ノ本源トナリ、蜚語ノ發頭人タルモノハ精神病者ナリトノ記錄アリ。更ニ斯ル時機ニ於テ、煽動其他公安上ノ危險ヲ醸成セシムルモ亦概ネ妄想性精神病者ナリトノ說アルヲ以テ、本廳ハ特ニ玆ニ注意スル所アリ、避難者集團バラック及ビ救護所等ニ專門技師ヲ派遣シテ視察ヲ勵行シ、以テ社會的危險性精神病者ノ早期發見ニ努力シタリシガ、東京市上野臨時救護所、日本赤十字社病院、大學病院、濟生會病院其他ニ於テ之ヲ發見シ、事故豫防ノ爲ニ精神病院ニ轉院セシメタルモノ九十六名ヲ算シタリ。

七　臨時精神病者救護所ノ增設

精神病者ノ公費收容者數ハ、震災以前既ニ定員ヲ超過セントシタルニ、今又、府立松澤病院及ビ代用精神病院タル青山腦病院、加命堂腦病院、根岸病院等ノ被害甚シク、到底災後續發スベキ精神病者ヲ收容スル能ハズ。是ニ於テ本廳ハ適當ナル私設社會事業團體ヲシテ臨時精神病者救護所ヲ建設セシムルノ必要ヲ認メ、精神病

者救治會ト交涉ノ結果、同會ニ於テ其任ニ當ル事ト爲リタレバ、內務省ニ申請シテ助成金二萬圓ノ下附ヲ仰ギ、府立松澤病院構內ニ定員百六人ノ臨時救護所三棟ヲ設立セシメタリ、

第四、統計的考察

一　統計ノ範圍

震火災ガ、精神病的原因トシテ影響スベキ期間ニ就テハ、學者ノ意見必ズシモ一致セズ。然レドモ、之ヲ直接原因トスル或ル種ノ精神病ハ、災後短時日內ニ發病スベキモ、ナホ又、一箇年乃至二箇年半後迄ノ間ニ、發病又ハ病症ノ昂進スル精神病者ニ對シテハ、災害ト關係アリトスルヲ至當トスルモノアリ。從ツテ、未ダ震火災ト精神病トノ關係ヲ說クベキ時期ニ到達セリトハ稱シ難ケレドモ、試ニ九月一日ヨリ十二月三十一日マデニ入院セル、公費精神病者ニ就キテ、精神病學的考察ヲ加ヘントス。

二　公費入院精神病者ノ增加

大正十二年九月一日ヨリ十二月三十一日マデニ、精神病者看護法及ビ精神病院法ニ依リテ公費入院ヲ許可シタル精神病者ノ總數ハ五百三十四名ニシテ、之ヲ前年度同期間ニ於ケル公費入院患者二百九十四名ニ比較スレバ、二百四十名(八一・六%)ヲ增加シ、更ニ大正十二年九月一日ヨリ十二月三十一日マデト、大正十一年九月一日ヨリ大正十三年三月三十一日マデトノ各七箇月間ニ於ケル公費入院患者數ヲ比較スルニ、災前四百六十六名、災後八百三十名ニシテ、實數三百六十四名(七八・一%)ヲ增加セリ、此增加率ハ災後三箇月間ノ入院增加率(八一・六%)ニ比較シテ三・五%ヲ減率シ、災後時日ノ經過ト共ニ公費入院ヲ要スル精神病者ガ漸次減少ニ傾ケルヲ示セリ。ナホ又大正十二年一月一日ヨリ三月三十一日マデト大正十三年一月一日ヨリ三月三十一日マデトノ各三箇月ノ公費入院患者數ヲ比較スルニ、二百二十六名ニ對スル二百九十六名ニシテ、大正十三年度ハ前年度ニ比較シテ實數七十名(三〇・九%)ノ增加率ヲ示セルノミ。以テ精神病者發病情況ノ常態ニ復シツヽアルヲ察スルニ足ラン。今大正十一・二年度ニ於ケル公費入院患者數ヲ對照スルニ左表ノ如シ。

震災前後、公費精神病者入院比較表

(三)　入院申請警察署別ヨリ觀タル精神病者

月別	年別	入院病者數
九月	大正十一年	七〇
	大正十二年	一二九
十月	大正十一年	七二
	大正十二年	一五八
十一月	大正十一年	八一
	大正十二年	一二四
十二月	大正十一年	七一
	大正十二年	一二三
一月	大正十二年	六〇
	大正十三年	九九
二月	大正十二年	七〇
	大正十三年	九四
三月	大正十二年	九六
	大正十三年	一〇六

震火災以來、十二月末日マデノ公費入院申請精神病者ノ總數ハ、市部三百二十五名〇・三%)郡部二百九名(三九・七%)合計五百三十四名ヲ算セシガ、各署ニ、公費入院ノ申請ナカリシモノハ、市部ノ日本橋堀留淺草日本堤、東京水上ノ三署郡部目黒、八王子、田無、青梅ノ四署及ビ島嶼ノ各署ニシテ、十八(一・八七%)以上ノ公費入院ノ申請アリシモノハ、市部ニ十署、郡部ニ九署アリ、此内二十名(三・七四%)以上ニ上レルモノヲ擧グレバ下谷上野署ノ八十三名(一五・五四%)麹町日比谷署ノ二十九名(五・四三%)世田谷署ノ二十二名(四・一一%)ナリトス。コレ下谷上野署ノ管内ニハ、上野驛及ビ東京市臨時救護所アリ、日比谷署ノ管内ニハ東京驛及ビ諸官廳アルガ爲ニシテ、世田谷ノ郡部第一ヲ占メタルハ、府立松澤病院ヲ所轄シ、其入院患者ニシテ等級ヲ變更シ、公費トセルモノヲ便宜上世田谷署ニ計上セルニ依ルナリ。今十八以上ノ公費入院精神病者ノ署別、分布情況ヲ按スルニ左ノ如シ。

市部	
本郷本富士警察署	
四谷警察署	

十二月十一日	八	小石川富坂警察署
	八	麹町麹町警察署
	八	牛込神樂坂警察署
十二月十一日	八	下谷坂本警察署
	八	日本橋久松警察署
	八	小石川大塚警察署
		郡部
十二月十九日	八	澁谷警察署
十二月十八日	八	南千住警察署
	八	龜戸警察署
十二月十五日	八	巢鴨警察署
十二月十八日	八	王子警察署
十二月十四日	八	寺島警察署
	八	板橋警察署
十二月十三日	八	

卽チ市部ニテハ燒殘地域ノ各署ニ於テ激增シ、就中郡部各署ノ申請多數ナルニ依リテ考フルニ、公費入院精神病者申請分布ノ情況ハ蓋シ罹災者ノ避難移動狀態ト一致スルモノヽ如シ。

(四)　震災當時ノ住所ヨリ觀タル精神病者

公費入院精神病者五百三十四名ニ就キテ、震災當時ノ住所ヲ見ルニ、市部百九十名(三五・六%)郡部百三十三名(二四・九%)、住所不明及ビ他府縣二百十一名(三九・五%)ニシテ、淺草區ノ二十八名ヲ最トシ、本所深川ノ二區ノ二十一名之ニ次ギ、其十五名以上ヲ出シタルハ神田・芝・本郷・下谷ノ四區ナリトス。之ニ依レバ精神病者ノ入院數ハ災前ニ於ケル住民ノ密度及ビ經濟狀態ニ影響セル所尠ナカラザルベシト雖モ概ネ震火災ノ被害程度ト比例スルガ如シ。

公費入院精神病者震災當時住所表

區別 / 月別	九月	十月	十一月	十二月	計
麹町	一	二	三	二	七
神田	一	二	四	五	一八
日本橋	一	三	三	三	七

(五)　發病原因ヨリ觀タル精神病者

	男	女	計
京橋	一	一	二
芝	三	四	七
麻布	一	一	二
赤坂	二	四	六
四谷	二	四	六
牛込	一	三	四
小石川	二	二	四
本郷	六	二	八
下谷	六	五	一一
淺草	五	五	一〇
本所	四	六	一〇
深川	八	五	一三
市部計	四七	四九	九六
郡部計	二五	三四	五九
住所不定及他府縣	五七	三九	九六
合計	一二九	一二二	二五一

精神病ノ發病原因ハ極メテ復雜ナルモノナレバ、震後公費入院精神病者ノ如キモ、其發病原因ヲ明カニスルコト能ハザレドモ、試ニ各種ノ報告ニ依リテ分類スレバ左表ノ如シ。

公費入院精神病者發病原因調査表

原因	性	男	女	計
梅毒		九八	三四	一三二
遺傳		二五	二一	四六
高年及動脈硬化		二〇	一九	三九
震火災ニ依ル精神的刺戟		一七	一二	二九
酒精及ビモルヒネ中毒		六	一	七
身體病及傳染病		一	一	二
不明		一六二	一一七	二七九
計		三二八	二〇六	五三四

本表ハ精神異狀ヲ惹起セル主因ニ依リ、精神病學的ニ分類セルモノニシテ震火災ガ其發病ト重大ノ關係ヲ有スル事ヲ察スルニ足ラン。

(六)　發病時ヨリ觀タル精神病者

公費入院精神病者五百三十四名ニ就キテ、其發病時ヲ災前ト、災後トニ區別スレバ左表ノ如シ。

公費入院精神病者發病時調査表

區別	性	男	女	計
震災前發病		二一五	一三一	三四六
震災後發病		一一三	七五	一八八
計		三二八	二〇六	五三四

本表ハ專ラ各精神病院ノ報告ニ基ヅケルモノナレバ、多少警察調査ト一致セザルモノアレドモ、暫ク之ニ依リテ、稽フルニ、災後四箇月間ニ於ケル發病率ハ、男性三〇·九%、女性三六·四%ニシテ、公費入院精神病者ノ三三·三ハ災後ノ發病ニ係リ、而シテ女性ノ發病率ハ男性ノ夫レニ比シ五·五%ノ高率ヲ示セリ。

(七)　性ヨリ觀タル精神病者

公費入院精神病者五百三十四名ヲ性ニ依リテ區別スルニ、男性二百二十八名、女性二百六名ナリ。之ヲ百分率ニ表示スレバ、男性六一·二%、女性三八·八%トナリ、明治十二年ヨリ同四十四年迄ノ東京巢鴨病院ノ退院患者八千二十一名ノ男性六四·八%女性三五·二%ト比較スルニ約三·六%ノ高率ヲ示セリ。

(八)　年齡ヨリ見タル精神病者

公費入院精神病患者五百三十四名ノ年齡別ヲ入院申請警察署ニ依リ市、郡兩部ニ分チテ調査スルニ左表ノ如シ。

本表ニ依レバ公費入院精神病者ノ一〇·〇%以上ヲ占ムル年齡ハ、三十一歲ヨリ四十歲マデハ二六·二%(百四十八人)四、十一歲ヨリ五十歲マデハ二二·一%(百十八人)、二十一歲ヨリ三十歲マデハ二一·三%(百十四人)、五十一歲ヨリ六十歲マデハ一一·二%(六十人)ニシテ三十一歲ヨリ四十歲マデノ年齡者最高ヲ占メ、平素ノ同年齡期間罹病率二四·七%ヨリ約一·七%高率ヲ示セリ。

更ニ男女兩性ノ各公費入院病者ノ二〇·〇以上ナルハ、男性ニ於テハ三十一歲ヨリ四十歲マデハ三〇·一%、四十一歲ヨリ五十歲マデハ二三·一%、女性ニ於テハ二十歲ヨリ三十歲マデハ二五·七%ニシテ、性ニ依リ入院率並ニ年齡期ヲ異ニシ、其最高率

ハ男性三十歳ヨリ四十歳マデ、女性二十一歳ヨリ三十歳マデナレドモ兩者ノ差四・四%アリ。

(九)　病名ヨリ觀タル精神病者

公費入院精神病者五百三十四名ヲ病名ニ依リテ分類スレバ左表ノ如シ。

公費精神病者病名調査表

病名	性	男	女	計
痲痺性痴呆		九八	三四	一三二
緊張病		四四	四〇	八四
早發性痴呆		二七	二六	五三
破瓜病		二七	二〇	四七
痴愚及白痴		二〇	一六	三六
躁鬱病		一八	一七	三五
妄想性痴呆		一八	一〇	二八
精神性精神病		一七	九	二六
老衰性精神病		八	一四	二二
變質性精神病		七	四	一一
腦出血性精神病		八	三	一一
其他精神病		三六	一三	四九
計		三二八	二〇六	五三四

本表ニ依レバ精神病中第一位ニアルハ梅毒ヲ原因トスル痲痺性痴呆ニシテ、百三十二名アリ、總入院者五百三十四名ノ二四・七%ヲ占メ、殊ニ男性ニ於テハ、入院病者三百二十八名ニ對シ、九十八名(二九・八%)ナルニ、女性ニ於テハ、入院病者二百六名ニ對シ、三十四名(一六・五%)ニシテ、痲痺性痴呆ノ罹病率男性ニ比シ一三・三低下セルヲ見ル。

ハ特ニ注意スルニ足ルベシ。ナホ本表ニハ其他精神病ト言ヘル項目ヲ設ケシガ、震火災ニ因ル精神病ニシテ、未ダ特殊ノ病名ナク、他書ニハ恐怖性精神病(九名)感動性精神病(四名)疲憊性精神病(十三名)等ト記載セルモノヽ如キハ、公費精神病者トシテ平時入院スルコト極メテ稀ナルモノナリキ。

(一〇)　症狀ヨリ觀タル精神病者

災後ニ入院セル公費精神病者ノ症狀ニハ、幻覺及ビ妄想ニ震火災ノ色彩ヲ帶ブルモノ勘ナカラズ。或ハ震火災ノ豫防法ヲ發見セリト稱シ、或ハ帝都復興資金ノ

成案我ニ在リナド、言フガ如キ、誇大妄想アリ、或ハ大震火災ノ責我ニ在リトスルガ如キ罪業性妄想病者アリシモ、之ヲ概括シテ觀察スルニ、災禍ノ直後ニ於テハ、興奮爽快的精神病者多ク、災後時日ヲ經過スルニ從ヒ、悲觀沈鬱的病型ノ增加セルハ注意スベキ現象ニシテ、震火災後十二月末日マデニ入院セル躁鬱病者三十五名中二十九名ガ、躁病狀態ナル興奮病型ヲ呈シ、沈鬱的病型ノ僅ニ六名ナルノ事實ニ徵シテモ一般精神病者ノ症狀ヲ類推スルヲ得ベシ。

（一一）經過ヨリ觀タル精神病者

公費入院精神病者五百三十四名ニ就キテ、大正十三年三月十日マデノ經過ヲ調査スルニ左表ノ如シ。

公費精神病者經過調査表

病名	性	死亡退院	全治退院	輕快退院	不治退院	入院中	計
痲痺性痴呆	男	七二	一	一	二	三	七三
	女	一三	一	一	一	一	一七
緊張病	男	三	一	一	三	三	一一
	女	六	四	二	三	八	二三
早發性痴呆	男	九七	一	一	八五	九	一四
	女	一	一	一	一	一	五
破瓜病	男	三	一	一	二	三	一〇
	女	六	一	一	一	一	一〇
痴愚及白痴	男	七	一	一	一	一	一一
	女	五	一	一	一	一	一一
躁鬱病	男	一	二	二	二	八	一五
	女	二	七	二	一	九	一九
妄想性痴呆	男	一	一	一	二	一	五
	女	二	一	一	一	一	六
精神性精神病	男	一〇	一	一	二	六	二〇
	女	四	六	四	二	六	二六
老耄性精神病	男	七	一	一	一	一	一一
	女	二	一	一	一	一	六
變質性精神病	男	一	一	一	一	一	五
	女	一	一	一	一	一	五
腦出血性精神病	男	七	一	一	一	一	一一
	女	二	一	一	一	一	五
其ノ他ノ精神病	男	五	一	一	一	一	一〇
	女	一	一	一	一	一	五
合計	男	一三三	一四	一四	一八	一三	一七二
	女	九七	一三	一一	一一	一三	一三六

本表ニ依レバ、震火災以後ノ公費入院者中、死亡セルモノ三六・〇%（百九十三名）、全治退院セルモノ四・四%（二十五名）、輕快退院セシモノ二・七%（十四名）、不治退院セシモノ七・〇%（三十七名）ニシテ他ノ四九・九%（二百六十六名）ハ大正十三年三月十日ニ於テ猶ホ在院セリ。本表ノ豫後ヨリ觀ル時ハ、震火災後入院セル公費精神病者ノ豫後ニ於テモ、痲痺性痴呆、老耄性痴呆、腦出血性精神病ハ不良ニシテ、躁鬱病ニ於テ全

治多ク、平時ノ豫後ト大差ナキモ、男性痲痺性癡呆ニ於テ、特ニ、全經過日數短縮シ、死亡率頗ル高ク、緊張病ノ全治又ハ輕快稍高率ナルハ平素ト異ナル處ナリトス。

第六節　集團的バラックノ衞生概況

集團的バラックハ災後住宅ナキ多數罹災民ヲ收容セムガ爲、應急救護施設トシテ、多クハ初冬ノ際之ヲ急速建設セル假長屋ニシテ、構造、設備共ニ完全ヲ期スルコト能ハザリシニモカヽハラズ、其居住人員ハ總計約八萬有餘ニ及ビ、且豫想ニ反シテ永住ノ傾向ヲ呈シ、自ラ貧民化スルノ情況ナキニアラズ、加フルニ其衞生狀態ノ如キモ、傳染病其他ノ罹病誘發ノ原因タルベキ處アルモノ少カラザルヲ以テ、本廳衞生部ハ災後引續キテ集團バラックノ衞生狀態ヲ視察セシメ、衞生思想ノ普及並ニ防疫施設ノ實行ニ努メシガ、其一斑ハ既ニ述ベタルガ如シ、然レドモ集團的バラックノ衞生概況ヲ記錄スルハ將來ノ規箴タルベキヲ以テ、左ニ大正十三年十二月ヨリ翌十三年二月迄ニ於ケル施設ノ概要ヲ述ベントス。

第一、敷地及ビ構造

(一)　敷　地

集團的バラックノ敷地ハ公園、神社、佛閣、小學校燒跡等ノ空地ヲ利用セルモノ多ク、土地高燥ニシテ衞生上良好ノ場所ナルト共ニ、本所、深川兩區ノ大部分下谷區ノ一部(上野公園池ノ端)ノ如ク濕潤ノ土地ナキニアラズ、就中深川區內ノバラックニ至リテハ、大雨後海水ノ床下ニ浸入スル等敷地トシテ適當ナラザルモノ亦尠ナシトセザルナリ。

(二)　構　造

バラック建造物ハ、悉ク、木造平家建ニシテ、屋根ハ亞鉛板ニテ葺キ、壁ハ概ネ泥土ヲ用キザル板張ノモノ多ク、大抵幅四、五間長サ四、五間乃至十數間ヲ以テ一棟ヲ爲シ、之ヲ數戶又ハ數十戶ニ分ツニ、一戶ノ坪數平均三坪內外ナリ、各戶ノ障壁ハ板又ハアンペラ等ヲ用キタレドモ、全ク障壁ナク、居住者ガ家財ヲ利用シテ間仕切ヲ作リタルモノモナキニアラズ天井ハ大部分之ヲ張ラズ、床ハ極メテ低ク、又或ハ地上直ニ之ヲ作レルモノアリ

第二、防寒暑ノ設備

バラックノ構造ハ極メテ粗雑ニシテ、防寒暑設備ノ方面ヨリ考察スレバ缺陷尠ナカラズ、其主ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ。

(一)　屋根ノ多クハトタン板又ハ便利瓦ナルガ故ニ、熱ノ傳導大ナルノミナラズ、天井ヲ有セザル爲ニ室内ノ溫度ハ寒暑共ニ著シ。

(二)　屋根裏ト板壁トノ間隔ヲ爲セル板及ビ床板相互ノ間ニ間隙ヲ有スルモノ多ク、又木材ノ大部分ハ多數ノ節穴ヲ有スル等外氣ノ室内ヲ襲フコト多シ。

(三)　バラック建設當時ニハ、各室ノ間ニ區劃ヲ設ケザルモノ多カリシモ、其後漸次改造シテ障壁ヲ設ケシガ、ナホ其障壁ハ天井ニ達セズシテ、防塞ノ方面ヨリ考フルトキハ不完全ナリト認メラルヽモノ多シ。

(四)　床ノ高サハ建設當時ニハ低キニ過ギタルモノ多ク、中ニハ土地ニ密着セルモノスラアリシガ、之亦相當改良セラレテ、地上二尺以上ヲ占ムルモノ多キニ至レルモ、ナホ不完全ニシテ改良ヲ要スルモノ尠ナカラズ。

(五)　床上ニ疊ヲ敷キタルモノナキニ非ルモ、大部分ハ、荒莚、菰又ハアンペラヲ敷ケルニ過ギズ。

(六)　衣服、寢具ノ供給ハ漸次潤澤ノ狀ヲ呈セシガ未ダ充分ナリト言フベカラズ。

第三、採光

棟ト棟トノ間隔短キニ過ギタル爲、屋内ニ日光ノ入ラザルモノアリ、殊ニ窓ハ押出式ニシテ、入口ニモ扉ヲ用キタレバ、障子ヲ有セザル家屋ニハ、採光不良ナルノミナラズ、夜間電燈ノ設備ノ如キモ不充分ニシテ、甚シキハ四戸ニ一燈ヲ點ズル等改善ノ餘地極メテ多シ。

第四、飲料及ビ雜用水

飲料水ハバラック所在地ノ大部分ガ市内タル關係上、概ネ水道ニ依リ、其井水等ヲ使用スルモノハ極メテ稀ナリ、但深川區ノ一部、京橋區月島方面ニハ水道未ダ通ゼザル所アリ、舟車ヲ利用シテ之ヲ運搬セルモノナキニアラズ、斯ノ如ク給水ヲ要スル場所ニ於テハ、運搬操作上、萬一病菌ノ浸入セムコトヲ虞レ、東京市及ビ其他町村ト交涉シ、クロール石灰消毒ヲ行ヒタル後、給水セシメタリ。又水道栓ノ敷設セル場所ニ於テモ、給水栓不足ノ爲ニ朝夕炊事ノ際ニハ甚シク混雜スルノ情況ニアリキ。

第五、炊事場　バラックニハ概ネ炊事場ノ設ナシ、又稀ニ共同炊事場ヲ特設セルモノアリト雖モ設備ノ不完全ナル爲ニ、之ヲ利用スル者尠クシテ、各自室内ニ於テ調理スルモノ大多數ヲ占メタリ。

第六、下水　下水溝ノ多クハ、流シ場又ハ軒下等ヲ堀下ゲタルニ過ギズシテ溝ノ兩側ニ板ヲ張リタルモノスラ稀ナリ、且其大部分ハ排水量トノ關係、勾配、排泄口又ハ吸込ミノ適否等ヲ考慮セルモノ尠ナク、從ウテ汚水ノ停滯セル箇所モ甚ダ多カリシガ、本所深川兩區ノ如キハ、地盤ノ關係上完全ナル排水ヲ望ムハ寧ロ不可ナルヲ以テ、此方面ニハ當時下水氾濫シテ土地濕潤セリ。

第七、塵芥　塵芥ノ處分ハ、或ハ石油箱、酒樽等ヲ利用セル塵芥箱ヲ二、三戸毎ニ配布シ、或ハ一坪大ノ土地ニ亞鉛板又ハアンペラ等ヲ用ヒテ塵芥捨場ト爲シ又或ハ穴ヲ堀リタルニ過ギザルガ如キモノアリテ、一樣ナラザレドモ其構造概ネ居住者ノ數ニ比シテ小ナルガ故ニ、不潔ナル箇所甚ダ多シ。

第八、便所　便所ノ構造モ亦甚ダ不完全ニシテ、屎尿ノ停滯セル箇所多カリシガ、蓋シ左ノ諸因ニ依ルナリ。

(一) 便所ノ數居住者數ニ比シテ尠キコト。

(二) 便所ノ位置一方ニ偏セルガ爲ニ、或箇所ニハ使用者多クシテ速ニ充滿スルコト。

(三) 便池ノ小ナルコト。

(四) 便壺ハ桶ノ如キモノヲ用ヰタル箇所多ク、不滲透性質ニ非ザルコト。

(五) 扉等ノ開放的ナルコト。

(六) 掃除ノ行屆カザルコト。

斯ル有樣ナレバ、夜間等ニハ便所以外ノ場所ニ屎尿ヲ排スルモノアリテ、益々其不潔ヲ助長セリ。

第九、浴場

バラック中ニハ一人又ハ二人ヲ入ルベキ小規模ノ浴槽ヲ有スル箇所ナキニアラザリシガ、設備不完全ニシテ、數枚ノ板又ハアンペラヲ以テ周圍ヲ圍ヒタルニ過ギズシテ、嚴寒ノ際ニハ其使用ニ堪ヘザルベシ、殊ニ燒失區域ニハ公衆浴場ノ開設容易ナラザレバ、災後數ケ月間入浴セザルモノ多クシテ、精神上及ビ保健上憂慮スベキ狀態ニアリ。

第十、醫療機關

九月十二日、本廳診療班ヲ編成スルヤ、專ラ之ヲ集團的バラックノ存在セル方面ニ配置シ、尋テ十一月中旬漸次其整理ニ着手スルニ及ビテハ、東京市、赤十字社、恩賜財團濟生會等ノ診療機關之ニ代リシガ、ナホ夜間診療ノ施設充分ナラザル箇所アルニ似タリ。

第十一、傳染病發生ノ情況

バラック內ニ於ケル傳染病患者ノ發生數ハ、震火災以後十一月十三日マデニ五百五十二名ニ及ビ、患者總數六千六百六名ニ比較スル時ハ八分强ニ相當シ、又之ヲ在來住宅居住者一戶建、假小屋居住者ニ對照シ、人口對比ニ觀察スルトキハ既記ノ如ク發生率甚ダ多ク、バラックノ居住ハ防疫上ノ成績不良ナリト斷ズルコトヲ得ベシ。

第十二、統計的觀察

本廳ガバラック居住者ニ對シテ、每旬健康診斷ヲ施行シタル成績統計ニ依ル概括的觀察ハ左ノ如シ。

（一）自大正十二年十二月一日至大正十三年一月十日健康診斷ノ成績ニ依ル概括的觀察

（a）大數ヨリ觀タル罹病率

種別 ＼ 旬別	大正十二年十二月 自一日至十日	同上 自十一日至二十日	同上 自二十一日至三十一日	大正十三年一月 自一日至十日
集團バラック居住人員	八〇、四四六	八五、〇三三	八三、九七七	七七、七五五
同　檢診人員	四〇、三七四	四八、六八四	五〇、六七九	四三、〇六九
同　罹病人員	一、六二九	二、一三五	二、一九七	一、六八五
罹病百分率　對現住人員	二・〇三	二・六二	二・六三	二・一七
罹病百分率　對檢診人員	四・〇四	四・三四	四・二四	三・九一

說明

(イ)集團バラックニ於ケル居住人員ハ、十二月上旬著シク其數ヲ增加セシガ、同月下旬ヨリ翌十三年一月上旬ニ亘リテ減少セリ。此現象ハ學校、寺院等ニ滯在セル者ノ退出ニ依リテ一時增加セシガ、寒氣ノ劇烈、居所ノ確定等ニ依リテ漸次減少セルモノナルベシ、而シテ居住人員ニ對スル罹病率ヲ觀ルニ、十二月上旬最モ低ク、中旬、下旬ニハ共ニ同率ヲ保チテ而モ最高ヲ示シ、翌年一月上旬ニ至リテハ前旬ヨリ〇・五%ノ低率ヲ示セルモ、前月ノ上旬ニ比シテハ高率ニアリ。

(ロ)檢診人員ハ十二月上旬ヨリ漸次其數ヲ增シ、翌一月上旬稍〻其數ヲ減ゼシハ、蓋シ休日等ノ關係ニ依ルモノナルベシ。而シテ罹病率ヲ觀ルニ、十二月中旬ニアリテハ、上旬ニ比シ、一躍シテ、〇・五%以上ヲ示セルモ、後漸ク遞減シ、一月上旬ニアリテハ、遙ニ十二月上旬ノ夫レ以下ニ減少セリ。

(ハ)以上ヲ通觀スルニ、集團バラック居住者ノ罹病率ハ、幸ニ漸減ノ趨勢ニアルモノトス。

(b)　旬別ニ觀タル疾病

疾病ノ觀察ニ當リテハ、便宜別表ノ如キ分類ニ從ヒ、更ニ主要ナリト思料スルモノヽミヲ揭グルニ止メタリ。

(統計表參照)

旬別疾病調査

病類別	旬別	大正十二年十二月 自一日至十日	同上 自十一日至二十日	同上 自二十一日至三十一日	大正十三年一月 自一日至十日	計
法定傳染病		六	一七	一九	一四	五六
消化器疾患		三七	三三	二七八	二九一	一、一〇八
呼吸器疾患	感冒	二四六	四〇八	四六〇	三九九	一、三〇九
	氣管支加答兒	一四四	一六七	一八九	一二九	六一九
	肺炎	三三	二三	二二	一八	八四
	流行性感冒	一	五	三	四	一三
	其ノ他	七	一二三	一七七	一六七	五三三
	計	四九	七一五	八三〇	七〇三	二、七三七
循環器疾病		九三	九九	九六	九六	三六四
泌尿器疾患		七	五	七	四四	一九二
新陳代謝疾患		四六	五二	六四	四四	二〇五
精神神經系疾患		一四九	一五三	一五一	一三五	五八八

眼疾患	一四一	一八六	一三八	六八	三三
皮膚疾患	八七	二三	八三	三三	二六四
外科的疾患	一九	一四九	一四〇	八一	五四九
合計	一、六二一	一、五五〇	一、八六九	一、四〇八	六、六二八

（但シ其ノ他ノ疾患ハ省略ス）

說明

（イ）法定傳染病　十二月上旬ヲ最高トシ、漸次減少シテ翌年一月上旬ニ至リテハ前月上旬ノ半數トナレリ。

（ロ）消化器疾患　主ナルモノハ胃腸加答兒ニシテ、是亦著シキ減少ヲ示セリ。

（ハ）呼吸器疾患　氣管支加答兒、肺炎、流行性感冒等ハ多少ノ增減アルモ、大體ニ於テ一定數ニアリ。然レドモ感冒ハ、十二月上旬ヨリ毎旬其數ヲ增加シ、下旬ニアリテハ最高ナリシモ、一月上旬ニ至リテ俄ニ減少ヲ來セリ。惟レ個人抵抗力ノ增加ト、溫暖裝置ノ設備其他ノ事由トニ依ルモノナル・ベシ。

（ニ）循環器系　泌尿器、新陳代謝、精神經系等ノ疾患ニアリテハ、一高一低アルモ著シキ增減ヲ認メザリキ。

（ホ）眼疾患（主トシテ結膜炎）外科的疾患ニアリテハ著シキ減少ヲ來セリ。

（ヘ）皮膚疾患（主トシテ濕疹）一月上旬ニ至リテ著シキ減少ヲ示セリ。蓋シ治療機關及ビ浴場設備ノ潤澤トナレルガ爲ナルベシ。

（ト）以上ヲ通觀スルニ、氣候ノ關係上、感冒患者ノ增加セルハ已ムヲ得ザル事ナレドモ、而モ之ヲ前々旬ニ比スレバ減少ノ勢ヲ示シ、且傳染病、其他消化器病、眼病等、一般ニ病數ノ減少セルハ共ニ良好ナル傾向ト謂フベシ。

（c）概括的批判

（イ）集團バラック居住人員ハ漸次減少ノ傾向ヲ示セリ。

（ロ）集團バラック居住者ノ罹病率モ亦減率ヲ示スモノヽ如シ。

（ハ）感冒患者ハ增加シタレドモ、其他ノ疾病ハ減少セリ。

（ニ）法定傳染病ノ發生ハ著シカラザレドモ、散發ノ情況ニ在ルハ看過スベカラズ。

（ホ）永續性ノ集團バラックニ在リテハ公私協力シテ衞生施設ノ完全ヲ期シ傍

衞生思想ノ發達涵養ニ努ムルノ必要アリ。

（二）　自大正十三年一月二十一日至大正十三年二月二十八日健康診斷ノ成績ニ依ル概括的觀察

（a）　居住人員ト罹病數

種別	句別	大正十三年一月中旬	同下旬	同年二月上旬	同中旬	同下旬
集團バラック居住人員		八一二〇八	七七、四八七	七八、五二四	七七、七三六	七六、八七五
同檢診人員		四六、三二五	四六、〇二六	四三、七一八	四六、七三五	
同罹病人員		一、六四八	一、九二二	一、五〇一	一、九四一	
罹病百分率	對現住人員	二・〇三	二・四四	一・九三	二・三四	
	對檢診人員	三・六五	四・一九	三・四四	四・一八	三・八三

（ロ）　罹病者ノ比率ハ旬ニ依リ、一張一弛ヲ免レズ、而シテ其原因ハ概ネ氣候ノ變

說明

（イ）　集團バラックノ居住人員ヲ、大正十二年十二月中旬ニ比較スルニ、約一萬ノ差アリ。而シテ、二月上旬ノ居住人員ガ、一月下旬ニ比シテ、約一千名ヲ增加シタルハ、鳥居坂、瀧野川兩署管內ニ新設セルバラックニ收容セラレシモノアルガ爲ナルベシ。

化ニ依ルモノヽ如シ。然レドモ・大體ニ就キテ觀察スレバ、居住者ノ罹病率ハ漸減シツヽアリテ、十三年二月下旬ニ在リテハ、大正十二年十二月中旬ニ比シ約半數ニ降リタルヲ見ル。

（b）　旬別ニ觀タル病類別

病類別	旬別	大正十三年一月中旬	同下旬	同年二月上旬	同中旬	同下旬	計
法定傳染病		三	三	九	六	三	三五
消化器疾患		一七〇	一五五	一九〇	一四〇	一六〇	八一五
呼吸器疾患	感冒	四〇八	二九二	二七二	一三七	一四四五	一、四四五
	氣管支加答兒	一六六	一四五	一五四	一一〇	一四四	七一九
	肺炎	三〇	三三	四〇	三四	三三	一五九
	流行性感冒	一	三	二	一	一	六
其ノ他の疾患	痲疹	二〇二	一八五	二七二	一五九	一八四	九三七
	其ノ他	二〇二	一八五	二七二	一五九	一八四	九三七
	計	八〇七	六四七	六九五	五二四	六一七	三、二九〇
循環器疾患		一〇二	一〇六	九二	一〇五	一〇七	五〇七
泌尿器疾患		八六	七九	六一	七二	七二	三七九

新陳代謝疾患	三二	四九	四二	三三	三九	三四			
精神神經疾患	一六八	一九五	一九三	一九七	一八六	八六三			
眼疾患	公六	七五	三四	九一	一六	四九二			
皮膚疾患	四六	四〇	六六	六六	公六	三〇六			
外科疾患	九四	大	一〇五	九六	一四	四八七			
其ノ他ノ疾患	二七七	二四五	三〇	三五	二九六	一、三六三			
合計	一、九〇四	一、六四八	一、九二	一、五〇一	一、七九四	八、七六八			

說明

(イ) 法定傳染病　其數ハ著シク減少シ、大正十三年二月下旬ノ三名ヲ大正十二年十二月上旬ノ二十八名ニ比較スル時ハ九分ノ一ニモ充タザルナリ。

(ロ) 呼吸器疾患　全患者數ノ三分ノ一ヲ占ム、就中感冒、氣管支加答兒ハ其主ナルモノナリ尙、特ニ注意スベキハ、流行性感冒患者ノ漸減シテ、二月下旬ニ入リテ痲疹シ激增ノタル點ナリトス。

第五章　治安保持

第一節　流言蜚語ノ取締

震火災ニ依リテ、多大ノ不安ニ襲ハレタル民衆ハ、殆ンド同時ニ、又流言蜚語ニ依リテ戰慄スベキ恐怖ヲ感ジタリ、大震ノ再來、海嘯ノ來襲、鮮人ノ暴動ナド言ヘルモノ卽ソレナリ。大震、海嘯ノ流言ハ、深キ印象ヲ民衆ニ與フル程ノ力ヲ有セザリシト雖モ、鮮人暴動ノ蜚語ニ至リテハ、忽チ四方ニ傳播シテ、流布ノ範圍亦頗ル廣ク、且民衆ノ大多數ハ概ネ有リ得ベキ事ナリトシテ之ヲ信用セシカバ、纔ニ震火災ヨリ免レタル、生命、財產ノ安全ヲ確保センガ爲メニ、期セズシテ、各々自警團ヲ組織シ、不逞者ヲ擊滅スベシトノ標語ノ下ニ、鮮人ニ對シテ猛烈ナル迫害ヲ加ヘ、勢ノ激スル所、終ニ同胞ヲ殺傷シ、軍隊警察ニ反抗スルノ慘劇ヲ生ジ、帝都ノ秩序將ニ紊亂セントス。而シテ、之ガ爲ニ、罹災地ノ警戒及ビ避難者ノ救護上ニ非常ナル障碍ヲ生ジ

タルノミナラズ、延テ朝鮮統治上ニ及ボシタル影響モ亦甚ダ多ク、誠ニ聖代ノ一大恨事タリ。然レドモ非常時ニ於ケル民衆ガ、單純ナル集團ヨリ變ジテ、所謂心理的群衆トナルヤ、全ク外界ノ刺戟的諸原因ニ支配セラレテ、其個性ヲ失ヒ、平時ニハ何等ノ感化ヲモ受ケザルベキ言辭、又ハ現象ニヨリテ、輒チ鼓舞激勵セラレ、以テ自己ノ本性ト、習慣トニ相反セル行動ニ出ヅル事アルハ、歷史ノ敎フル所ニシテ、自警團ノ態度ノ如キモ、畢竟カヽル群衆心理ノ作用ニ基ケルモノニ似タリ。ソレ流言蜚語ノ發生、並ニ其發展ニ關シテハ、今尙不明ノ點多ク、其正確ナル事實ノ闡明セラルルハ後日ノ調査ニ待タザル可カラズト雖、今試ニ、各種ノ報告ヲ綜合シテ考察ヲ加ヘ、併セテ本廳ノ採リタル對策ヲ述ベントス。

第一　集團ヨリ群衆ヘノ轉化

震災ニ際シ、民衆ノ殆ンド總テハ再震ヲ恐レテ屋內ニ入ラズ、道路、庭園其他ノ空地、廣場ニ避難シ、數日ニ亘リテ露宿スルモノモ亦多ク、到ル處多數ノ集團ヲ成セリ、就中、猛火ニ襲ハレタル人々ハ、燒殘地區ナル丸ノ內ヨリ山ノ手一帶、或ハ芝三田ヨリ品川方面及ビ上野以北、並ニ江東方面ノ郡部ニ遁レ、其道路、公園、廣場等、苟モ餘地

アル場所ニハ必ズ數千乃至數萬ノ大集團ヲ見タリ。斯クノク、如震火災ニ依リテ生ジタル集團ハ、未ダ數時間ヲ出デズシテ、心理的群衆ニ變化スルニ至リシガ、其動機ト認ムベキモノヲ擧グレバ、凡ソ左ノ如クナルベシ。

民衆ハ震火災ノ爲ニ、極度ノ恐怖ヲ感ジタル事其一ナリ。

殆ンド同時ニ、且同一場所ニ多數密集セル事其二ナリ。

衣食住共ニ窮乏シテ、刻々飢渴ニ襲ハレ、心身共ニ疲勞セル事其三ナリ。

交通機關杜絕シテ、集團ノ分散容易ナラザリシ事其四ナリ。

通信、報道機關全滅シテ、確實ナル報道ヲ得ザリシ事其五ナリ。

震火災ノ爲ニ警察力著ルシク障碍ヲ受ケ、其ノ運用一時困難ヲ極メタリシ事其六ナリ。

不逞鮮人來襲ノ流言發生シタル事其七ナリ。

蓋シ此時ニ方リ、一般民衆ハ、間斷ナキ餘震ニ戰々競々トシテ、今後尙大地震ノ襲來アルベキヲ疑ヒ、又猛烈ナル大火災ヲ望ミテハ、當然來ルベキ衣食住ノ窮乏ヲ憂ヒ、爆音ノ轟々タルヲ聞キテハ、何者カノ投ゼル爆彈ノ炸裂ニ非ルカヲ疑ヒ、更ニ燒

殘地區ニ於ケル住民及ビ避難者等ハ、物資ニ窮セル暴徒ノ來襲ニ就キテ杞憂ヲ懷キ、極度ノ不安ニ襲ハレタリト雖、遠ク地方ニ避難セント欲スレバ、交通機關不備ニシテ、行ヲ果シ難ク、事變ノ眞相ヲ知ラント欲スレバ、通信報道ノ機關殆ンド全滅シテ之ヲ確ムルニ由ナシ、加フルニ警察力ノ分布亦頓ニ衰頽セルヲ目擊スルニ及ビ、不安ノ情ハ時々刻々ニ其度ヲ加ヘ、周圍ノ情勢自ラ之ヲ助長スル傾向ヲ有シタレバ、斯ノ如キ刺戟ト衝動トヲ受ケタル民衆ガ、激烈ナル感情ニ依リテ支配セラレ、遂ニ各自ノ意識的個性ヲ消失シ、集合的心意ノ發生ヲ促シタルハ、決シテ怪シムニ足ラズ、是ニ於テ、單純ナル集團ニ過ギザリシモノ、イツシカ變ジテ心理的群衆ニ變ジ、同一ノ思想及ビ感情ヲ有スル有機體トナルヤ、個人トシテノ意志並ニ辨別力ハ全ク存在ノ意義ヲ失ヒ、タヽ群衆ノ一部トシテノ無意識的ノ行動ヲ敢テスルニ至リ、想像又ハ臆測ノ結果タル、流言蜚語ノ一度發生スルニ及ビテハ、恰モ燎原ノ火ノ如ク、忽チ群衆ノ間ニ傳播シテ、而モ群衆ノ之ヲ盲信スル事、水ノ低キニ就クガ如シ。

鮮人暴動ノ流言ガ、非常ナル勢力ヲ以テ群衆ノ意志ヲ左右シ、愼思、熟慮ヲ缺クニ至ラシメタル亦故ナキニアラズト言フベシ。

第二　流言ノ發生及ビ其原因

(一)　流言ノ發生

流言蜚語ノ、初メテ管內ニ流布セラレシハ、九月一日午後一時頃ナリシモノヽ、如ク、更ニ二日ヨリ三日ニ亘リテハ、最モ甚シク、其種類モ亦多種多樣ナリ。

今本廳及ビ各署ニテ偵察聞知セル、流言蜚語ノ大要ヲ、日時ヲ逐フテ列擧スレバ左ノ如シ。

(a)　九月一日午後一時頃

「富士山ニ大爆發アリテ今尙大噴火中ナリ」

「東京灣沿岸ニ猛烈ナル大海嘯襲來シテ人畜ノ死傷多カルベシ」

「更ニ大地震ノ來襲アルベシ」

同日午後三時頃

「社會主義者及ビ鮮人ノ放火多シ」

(b)　二日午前十時頃

「不逞鮮人ノ來襲アルベシ」

「昨日ノ火災ハ、多ク不逞鮮人ノ放火又ハ爆彈ノ投擲ニ依ルモノナリ」

「鮮人中ノ暴徒某神社ニ潜伏セリ」

「從來官憲ノ壓迫ニ不滿ヲ抱ケル大本教ハ、其教書中ニ於テ、今回ノ大火災ヲ豫言セシガ、今ヤ其實現セラレシヲ機トシテ、密謀ヲ企テ、教徒數千名上京ノ途ニアリ」

同日午後二時頃

「市ヶ谷刑務所ノ解放囚人ハ、山ノ手及ビ郡部ニ潜在シ、夜ニ入ルヲ待テテ放火スルノ企アリ」

「鮮人約二百名、神奈川縣寺尾山方面ノ部落ニ於テ、殺傷、掠奪、放火等ヲ恣ニシ、漸次東京方面ニ襲來シツツアリ」

「鮮人約三千名、既ニ多摩川ヲ渉リテ洗足村及ビ中延附近ニ來襲シ、今ヤ住民ト闘爭中ナリ」

同日午後二時五分頃

「横濱ノ大火ハ、概ネ鮮人ノ放火ニ原因セリ。彼等ハ團結シテ到ル所ニ掠奪ヲ行ヒ、婦女ヲ辱シメ、殘存建物ヲ燒毀セントスルナド、暴虐甚シキヲ以テ、全市ノ青年團、在鄉軍人團等ハ、縣警察部ト協力シテ、之ガ防止ニ努力セリ」（横濱方面ヨリノ避難者ノ流言）

「横濱方面ニ於ケル鮮人ノ集團ハ、數十名乃至數百名ニシテ、漸次上京ノ途ニ就ケルヲ以テ、神奈川・川崎・鶴見各町村ニ於テハ、全力ヲ擧ゲテ警戒ヲ嚴ニセリ」（横濱方面ヨリ避難者ノ流言）

「横濱方面ヨリ襲來セル鮮人ノ數ハ、約二千名ニシテ、銃砲、刀劍等ヲ携帶シ、既ニ六鄉ノ鐵橋ヲ渡レリ」

「軍隊ハ六鄉河畔ニ機關銃ヲ備ヘテ、鮮人ノ入京ヲ遮斷セントシ、在鄉軍人、青年團員等亦出動シテ軍隊ニ應援セリ」

「横濱方面ヨリ東京ニ向ヘル鮮人ハ、六鄉河畔ニ於テ軍隊ノ沮止スル所トナリシヨリ、轉ジテ矢口方面ニ向ヘリ」

同日午後三時四十分頃

「高田町雜司ヶ谷ナル○○○○ハ、向原○○○○方ヘ放火セシムトシ現場ニ於テ民衆ノ逮捕スル所トナレリ」

同日午後四時頃

「大塚火藥庫襲撃ノ目的ヲ有スル鮮人ハ、今ヤ將ニ其附近ニ密集セントス」

「鮮人原町田ニ來襲シテ、靑年團ト鬪爭中ナリ」

「原町田ヲ襲ヘル鮮人二百名ハ、更ニ相原、片倉ノ兩村ヲ侵シ、農家ヲ掠メ、婦女ヲ殺害セリ」

同日午後四時三十分

「鮮人二、三百名横濱方面ヨリ神奈川縣ノ溝ノ口ニ入リテ放火セル後、多摩川二子ノ渡ヲ越エ、多摩河原ニ進撃中ナリ」

「鮮人目黑火藥庫ヲ襲ヘリ」

「鮮人鶴見方面ニ於テ婦女ヲ殺害セリ」

同日午後五時

「鮮人百十餘名寺島署管内四ツ木橋附近ニ集リ、海嘯來ルト連呼シツヽ、戎兇器ヲ揮ヒテ暴行ヲ爲シ、或ハ放火ヲ敢テスルモノアリ」

同日午後五時三十分

「戸塚方面ヨリ多數民衆ニ追跡セラレタル鮮人某ハ、大塚電車終點附近ノ

ニ毒藥ヲ投入セリ」

同日午後六時頃

「鮮人等ハ豫テヨリ、或ル機會ニ乘ジテ、暴動ヲ起スノ計畫アリシガ、震火災ノ突發ニ鑑ミ、豫定ノ行動ヲ變ジ、夙ニ其用意セル爆彈及ビ劇毒藥ヲ流用シテ、帝都ノ全滅ヲ期セントス、井水ヲ飲ミ、菓子ヲ食スルハ危險ナリ」

「上野精養軒前ノ、井水ノ變色セルハ毒藥ノ爲ナリ、上野公園下ノ井水ニモ異狀アリ、上野博物館ノ池水モ亦變色シテ金魚悉ク死セリ」

「上野廣小路松坂屋ヘ爆彈二個ヲ投ジタル鮮人二名ヲ逮捕セシガ、其所持セル二枚ノ紙幣ハ、社會主義者ヨリ得タルモノナリ」

「上野驛ノ燒失ハ、鮮人二名ガ麥酒瓶ニ容レタル石油ヲ注ギテ放火セル結果ナリ」

「鮮人約二百名、品川署管内仙臺坂ニ襲來シ、白刃ヲ翳シテ掠奪ヲ行ヒ、自警團ト鬪爭中ナリ」

「鮮人約二百名、中野署管内雜色方面ヨリ代々幡ニ進撃中ナリ」
「代々木上原方面ニ於テ鮮人約六十名暴動ヲ爲シツヽアリ」
同日午後七時
「鮮人數百名、龜戸署管内ニ闖入シ暴行ヲ爲シツヽアリ」
「鮮人四十名、八王子署管内七生村ヨリ大和田橋ニ來襲シ、青年團ト鬪爭中ニシテ銃聲頻リニ聞ユ」
(c)三日午前一時
「鮮人約二百名、本所向島方面ヨリ、大日本紡績株式會社及ビ隅田驛ヲ襲撃セリ」
同日午前四時頃
「鮮人數百名、本郷湯島方面ヨリ上野公園ニ來襲ノ狀アルヲ以テ、速ニ谷中方面ニ避難セヨ、荷物等ハ持去ルノ要ナシ、後日富豪ヨリ分配スル樣取計フベシ」
同日午前十時
「兵士約三十名、鮮人暴動鎭壓ノ爲、月島ニ赴キタリ」
(d)四日午後三時四十分頃
「鮮人、警察署ヨリ解放セラレタレバ、速ニ之ヲ捕ヘテ殺戮スベシ」
同日午後六時三十分頃
「鮮人市内ノ井戸ニ毒藥ヲ投入セリ」
同日午後九時頃
「青年團員ガ取押ヘテ、警察署ニ同行セル鮮人ハ、卽時釋放セラレタリ」
「上野公園及ビ燒殘地域内ニハ、警察官ニ變裝セル鮮人アレバ注意スベシ」
右ニ擧グル所ハ、流言中ニ於テ最モ人心ヲ刺戟シ傳播力ノ激甚ナリシモノナリ、今之ヲ觀察スルニ、震災當日ニアリテハ、極メテ單純ナル内容ヲ有シ、大地震ノ再來大海嘯ノ襲來ナド言ヘル、恐怖心ニ基ケルモノニ過ギザリシニ、翌日ニ至リテ鮮人暴動ノ流言蜚語之ニ代ルト共ニ、時ノ經過ニ從ヒテ、次第ニ擴大セラレタルヲ知ルベシ、斯クテ一般民衆ノ耳目ハ之ガ爲ニ聳動シ、人心頓ニ不安ヲ感ジタルノ結果、遂ニ鮮人ニ對スル憎惡ノ念ハ極度トナリ、之ト對抗センガ爲ニ、武器ヲ執リテ自ラ衞リ、甚ダシキハ不逞鮮人中、警察官ノ服裝ヲ爲スモノアリトノ流言ニ迷ヒ、制服ノ軍人警察官等ヲ道ニ要シテ逮捕尋問スルノ暴行ヲ敢テスルニ至ル。以テ鮮人暴動

ノ蜚語ガ如何ニ民衆ヲ刺戟シ、人心ヲ險惡ナラシメタルカノ情勢ヲトスルニ足ラン。

(二)流言ノ原因

流言蜚語ノ中、多大ノ刺戟ヲ民衆ニ與ヘ、人心ヲシテ險惡ナラシメタルモノハ、實ニ鮮人暴行ノ件ニ係ル事、上文ニ述ベタルガ如シ。果シテ然ラバ鮮人ニ關スル流言ハ、如何ニシテ發生シタリシカ、正確ナル事實ナホ未ダ闡明セラレザルノ際、容易ニ論ズベキニアラズト雖、今日マデニ知リ得タル事實ヲ基礎トシテ考察スレバ、遠因、近因二要素ヲ有セルモノニ似タリ。

a)遠因

朝鮮ハ明治四十三年八月二十九日、日韓合邦ノ條約ニ依リ、我國ニ併合セラレテヨリ以來、朝鮮民族ト、大和民族トノ同化作用行ハレ、以テ今日ニ及ビタルモ、鮮人中往々ニシテ誤解ヲ抱キ、併合ヲ快トセザルモノアリ、又或ハ他ノ煽動スル所トナリテ、徒ラニ反抗セントスルモノアリ、之ガ爲ニ種々ナル暴行ノ演ゼラレシ事モ尠カラズ。

是ヨリ先、明治四十二年十月、哈爾賓停車場ニ於ケル伊藤博文ノ遭難ヲ始メ、爾後朝鮮内ニ於ケル頻々タル破壞運動、並ニ爆彈事件等ハ言フモ更ナリ、内地ニ在リテモ東京驛ニ於ケル閔元植ノ横死、府下大久保ニ於ケル李判能ノ邦人慘殺等ハ、世人ノ商鑑未ダ遠カラザル所ナリ、是ニ於テ、一部不逞鮮人ニ對シテ自ラ戒心ノ情ナキコト能ハズ、此時ニ際シテ、九月一日ノ震火災起ル、コレ實ニ陰謀野心ノ徒ノ乘ジ得ベキ好機會ナレバ、豫テヨリ鮮人暴動ノ杞憂ヲ抱ケル民衆ガ、直覺的ニ其ノ實現ヲ恐レタルモ亦謂ナキニ非ズ、而シテ、斯ル思想ノ具體的ニ表現セラレタルハ、九月二日午後六時頃、上野公園内ニ行ハレタル流言ニシテ「鮮人中ノ一團ハ豫テ〇〇〇〇〇〇〇〇ヲ機トシテ〇〇〇〇ヲ爲スノ計畫ナリシガ、震火災ノ突發ニ鑑ミ、豫定ノ行動ヲ變ジ、夙ニ其用意セル爆彈及ビ劇毒藥ヲ流用シテ、帝都ノ全滅ヲ期セントス、井水ヲ飲ミ、菓子ヲ食スルハ危險ナリ」ト言ヘルニ徴シテモ、流言發生ノ遠因蓋シ茲ニ存スルニ似タリ。

(b)近因

震火災ノ當時、東京及ビ横濱方面ニ居住セル鮮人勞働者ノ多數ハ、之ガ爲メニ衣

食住ノ缺乏ヲ感ジタルノミナラズ、其職業ヲモ失フノ窮境ニ陷レリ、就中横濱方面ノ鮮人ニアリテ最モ甚シ、是ニ於テ孰レモ東京ニ出デ、活路ヲ求メントシ、相率キテ東上セリ、其途饑渴ニ迫リテ食ヲ求メントスルモ物資ノ購入容易ナラズ、救濟ヲ仰ガントスルモ言語通ゼス、窮餘或ハ盜ミ、或ハ奪掠スルモノ亦ナキニアラズ、彼等ノ實狀ヲ察スレバ、眞ニ同情ニ値シ、竊盜、掠奪トハ言ヘ、實ハ輕微ノ犯罪ノミ、若シ平常ナリセバ、何等ノ影響ヲ世上ニ與フルコトナカルベシト雖、時、將ニ未曾有ノ災變ニ遭遇シテ人心頓ニ不安ニ陷リ、而シテ一般民衆ノ鮮人ニ對スル杞憂之ニ伴ヒテ擡頭セントスル折柄ナリシカバ、斯ル輕微ナル犯罪ヲモ輕視スル能ハザルノミナラズ、却テ此機ニ乘ジテ豫テ、杞憂セル所ノ實現セラルベキニアラザルヤヲ慮リ、疑心ハ自ラ暗鬼ヲ生ジテ、事物ノ觀察正平ヲ失シ、茲ニ始メテ鮮人暴動ノ流言ヲ生ジタルモノニ似タリ。這般ノ流言ガ、最初九月二日午後二時前後ニ於テ、横濱方面ヨリ上京セル避難者ニ依リテ唱導セラレ、且專ラ神奈川縣下ニ於ケル事件ヲ傳ヘタルヲ見ルモ之ヲ推測スルニ足ラン。

斯ノ如クニシテ、流言蜚語ノ發生スルヤ、鮮人ガ一般民衆ノ迫害ヲ恐レ、或ハ同志ヲ誘引シテ四方ニ遁走シ、或ハ本廳及ビ警察署ニ來リテ保護ヲ求メントスレバ、民衆ハ更ニ之ヲ目シテ鮮人ノ來襲ナリト誤解シ、戎兇器ヲ執リテ追擊ヲ試ムルニ及ビ、鮮人モ亦已ムヲ得ズシテ抵抗鬪爭ヲ爲スモノアリ、是ニ於テカ流言ノ一部ハ事實ヲ釀成シテ益々民衆ヲ興奮セシムルニ至レリ。

第三　流言ノ發展

是ヨリ先、流言蜚語ノ起ルヤ、其當初ニ於テハ極メテ單純ナル內容ヲ有シタルニ過ギズト雖、幾モナク心理的群衆ノ思想及ビ感情ト相觸ルヽニ及ビテハ、斯ノ如キ假想幻影ヲモ亦直ニ事實ナリトシテ之ヲ肯定セルノミナラズ、更ニ其特性タル衝動性、被誘性及ビ輕信性ニヨリテ、曲折變化ヲ重ネ、或ハ又新シキ流言浮說ノ創製セラルヽニ至ル、九月一日午後ニ傳ヘラレタル「社會主義者ト鮮人ガ放火ス」トノ流言ハ二日午前ニ至リテ「或ハ不逞鮮人來襲スベシ」トノ流言ニ變態シ、又或ハ「昨日來ノ火災ハ多ク不逞鮮人ノ放火ト、爆彈投擲ニ因ルモノナリ」トノ流言ノ創製セラレシガ如キハ其一例ナリ。

斯ノ如クニシテ或ハ變態セラレ、或ハ創製セラレタル流言ニヨリテ、刺戟ト、暗示

トヲ受ケタル民衆ハ、自已防衛ノ爲メニ、戎兇器ヲ執リテ自警團ヲ組織シ、各々町村ノ出入口ヲ扼シテ、不逞鮮人ノ來襲ニ備ヘ、且探索ヲ開始セリ。此時ニ方リ、東京市内ハ避難者其他ノ來往雜閙ヲ極メ、形勢既ニ常ナラザルニ加ヘ、內地人ト鮮人トノ區別困難ナリシガ爲ニ、言語不明瞭ナル者アラバ、認メテ以テ鮮人トナシ、集團ヲ成セル避難民ヲ見テハ、不逞者ノ團體ナリト速斷シ、鮮人勞働者ガ其ノ雇主ニ引率セラレテ作業場ニ赴ケルヲ望ミテハ、鮮人團體ノ來襲ナリト誤認セルガ如キ事尠カラズ、且又軍隊及ビ警察ガ萬一ノ變ヲ慮リテ警戒ノ爲ニ出動セルヲバ、來襲鮮人ニ應戰スルモノト思惟シ、戰々競々トシテ其堵ニ安ンズル能ハズ、斯クテ恐怖ノ眼ニ幻覺セル謬見ハ、更ニ幾多ノ流言ヲ生ムニ至レリ。當時ニ於ケル民衆ノ誤解、錯覺ガ如何ニ甚シカリシカハ、左ニ掲載セル二、三ノ實例ニ徵シテ其一斑ヲ知ルベシ。

九月二日午後三時頃、自警團員ガ、爆彈及ビ毒藥ヲ所持セリトテ、駒込警察署ニ伴ヒ來レル鮮人ヲ調査スルニ、爆彈ト思ヘルモノハパイナツプルノ罐詰ニシテ、毒藥ト考ヘシモノハ砂糖ナルヲ知レリ。

同日午後七時、市內ヨリ品川署管內ニ避難シ、八ツ山附近ニ差蒐レル一鮮人ガ火災ノ爲メニ焦ゲタル、牛肉罐詰四個ト、レッテルノ剝落セシ、四合入麥酒瓶二本トヲ携ヘ居ルヲ見タル、同所ノ自警團員等ハ、疑ヒモナク、爆彈並ニ石油ナラントテ取調ヲ開始セルニ、鮮人ハ團員ノ氣勢ヲ見テ、危險ノ迫レルヲ感ジタルモノノ如ク、忽チ拋棄シテ逃走セントセシカバ、團員ハ之ヲ追捕シテ暴行ヲ加ヘタリ。

同六時頃、品川署ハ管內仙臺坂方面ニ約二百名ノ鮮人白刃ヲ翳シテ掠奪シツヽアリトノ情報ニ接シ、卽時之ヲ取調ベタルニ、七名ノ鮮人橫濱方面ヨリ避難上京ノ途次自警團ノ重圍ニ陷リテ爭鬪ヲ開キ、混亂ノ狀ヲ呈セルガ爲ニ、自他ノ區別明カナラズ、遂ニ此一群ヲ誤認シテ不逞鮮人團トナシ、更ニ拔刀掠奪ノ流言ヲ創製セルモノナリ。

又市部各所ニ、鮮人ガ暴行、襲擊、放火ノ計畫ヲ同志ニ示サンガ爲メニ記シ置ケル暗號アリ、トノ情報頻リナレバ、本廳ハ各署ニ命ジテ調査セシメタルニ、肥料汲取人、新聞、牛乳ノ配達人等ガ得意先ニ對スル目標トシテ、各橫町ノ路次、角等ニ白墨ニテ記シタル記憶ノ符合ニ過ギザリシナリ。

同日午後九時頃、府中署管內西府村中河原ニ居住シテ鮮人勞働者ヲ使用セル土

木請負人二階堂友治ガ、京王電車笹塚車庫ノ修理ニ從事セントシ、鮮人十八名ト共ニ貨物自動車ニ乘ジ甲州街道ヲ辿リテ、當時淀橋署管內千歲村烏山字中宿ニ來レル折シモ、自警團員七、八十名ハ鮮人ノ襲來ト誤認シ、自動車ヨリ引降シテ暴行ヲ加ヘ多數ノ負傷者ヲ出スノ慘事ヲ生ジタリ、

更ニ二日ノ夕ニ至リテ、毒藥流布ノ說傳ハルヤ、其疑アリトテ井水、菓子等ノ鑑定ヲ各署ニ申請スルモノ尠カラズ、固ヨリ無根ノ事柄ニシテ、鑑定ノ結果亦明カニ之ヲ證明セルニモ拘ラズ、一般民衆ノ疑念ハ容易ニ解ケズ、是ニ於テ早稻田署長ノ如キハ、同日午後二時毒藥ヲ投入セル井戶水ナリト稱シ、清水一ポンド入ノ瓶ヲ携ヘ來レル其人ノ面前ニ於テ之ヲ飮ミ、流言ノ信ズルニ足ラサルヲ示シタリト言フ。

三日午前十時三十分頃月島署ニ持參セル、鮮人所持ノ爆發物ナリト言ヘルモノハ唐辛シノ粉末ニシテ、四日午後五時頃巢鴨三丁目二十六番地路次內ニテ拾得セリト言フ直經約三寸位ノ圓形爆彈樣ノ物ハ、硬質護謨球ナリキ。

斯ノ如キハ多數ノ實例中ヨリ代表的ノモノ數種ヲ摘記スルニ過ギズト雖、民衆ノ神經ガ如何ニ過敏トナリシカヲ察スルニ足ラン、蓋シ心理的群衆ナルモノハ、事實上暗示ニ依リテ支配セラレ、群衆ノ心意中ニ喚起セル假想幻影ハ、直ニ事實トシテ容認セラルヽガ爲ナリ、サレバ今日ヨリ當時ヲ回想セバ、罐詰ヲ以テ爆彈ト爲シ砂糖ヲ以テ毒藥ト爲セル等、殆ンド兒戲ニ類スルモノアリトハイヘ、無意識ノ境地ニ彷徨シテ、直チニ暗示ニ盲從シ、又理性ノ判斷ニ慾フル事能ハザリシ群衆心理作用ノ最モ活躍セル際ニ於テハ、寔ニ已ムヲ得ザル現象ナリ謂フベシ。

第四　流言防止ノ方策

(一)一般的方針

流言傳播ノ結果、人心ノ動搖甚シク、就中、鮮人ニ對スル民衆ノ行動ハ常軌ヲ逸スルモノアリ、帝都治安ノ保持、或ハ之ガ爲ニ破壞セラレントスルノ虞アルヲ以テ、赤池總監ハ九月二日午後三時ニ至リ、流言ノ防止ト、民衆ノ指導取締トニ關シ、左ノ方針ヲ決定セリ。

(a)流言防止人心安定ヲ策スベキ大宣傳ヲ實施スルコト。

(b)流言ノ由來、徑路、眞相ヲ嚴密探査シ流言者ハ嚴重取締ルコト。

(c)眞相判明スル迄ハ應急警戒ヲ實施スルコト

(d)朝鮮人、內地人ノ如何ニ不拘、不逞行動ヲ爲スモノハ嚴重取締ルコト。

(e)朝鮮人ノ收容保護ヲ迅速ニシ、且ツ內鮮人間ノ融和ヲ計ルコト。

(f)自警團ヲ善導シ、戎兇器携帶ヲ禁ジ、其暴擧ニ對シテハ斷乎タル取締ヲ爲スコト。

蓋シ此時ニ際シ、鮮人ニ關スル流言ノ眞相、ナホ未ダ明カナラザルガ故ニ、萬一ノ變ヲ慮リテ、豫メ之ニ備フルト共ニ、事實ニ對スル偵察調査ニ關シテモ亦十分ナル注意ヲ拂ヒ、併セテ、流言ニ基因スル人心ノ不安ヲ鎭定センコト、本廳ノ最モ苦心セル所ナリキ。然ルニ民衆ノ傾向ハ漸次惡化ノ兆アルヲ以テ、九月三日、總監ハ、流言ノ內容及ビ民衆惡化ノ實狀ヲ水野內務大臣ニ報告シ、且內務大臣ト共ニ閣議ニ陪シテ其取締ニ關スル意見ヲ陳述シタリシガ、流言ハ概ネ臆測揣摩ノ結果ニ出デ、就中、鮮人暴行ノ蜚語ニ至リテハ全ク誤解ニ過ギザルノ事實、漸ク確認セラレタレバ速ニ善後策ヲ講ジテ、一ハ民衆ノ反省ヲ促シ、一ハ鮮人同化ノ障碍ヲ除カントシ、其後屢〻政府ト交涉スル所アリ、政府亦所見ヲ同ジクシ、同月五日ニ至リ、內閣告諭ヲ發シテ民衆ニ戒告セリ。

內閣告諭第二號

今次ノ震災ニ乘ジ一部不逞鮮人ノ妄動アリトシテ鮮人ニ對シ頗ル不快ノ感ヲ抱ク者アリト聞ク鮮人ノ所爲若シ不穩ニ亙ルニ於テハ速ニ取締ノ軍隊又ハ警察官ニ通告シテ其處置ニ俟ツベキモノナルニ民衆自ラ濫リニ鮮人ニ迫害ヲ加フルガ如キコトハ固ヨリ日鮮同化ノ根本主義ニ背戾スルノミナラズ又諸外國ニ報セラレテ決シテ好マシキコトニアラズ事ハ今次ノ唐突ニシテ困難ナル事態ニ基因スト認メラルヽモ刻下ノ非常ニ當リ克ク平素ノ冷靜ヲ失ハズ愼重前後ノ措置ヲ誤ラズ以テ我國民ノ節制ト平和ノ精神ヲ發揮セムコトハ本大臣ノ此際特ニ望ム所ニシテ民衆各自ノ切ニ自重ヲ求ムル次第ナリ

大正十二年九月五日

內閣總理大臣　伯爵　山本權兵衞

(二)流言ノ防止並ニ人心ノ安定ニ關スル宣傳

流言ニ基因スル人心ノ不安ハ、最初先ヅ大震ノ再來、海嘯ノ襲來ト言ヘル形式ヲ以テ現ハレシ事、既ニ述ベタルガ如シ。是ニ於テ本廳ハ流言ノ發生ト殆ンド同時、卽チ九月一日午後三時官房文書課員ヲ各署ニ派遣シ、

「今村博士ノ發表ニ依レバ今回ノ震源ハ東京ヲ去ル約西南約二十六浬伊豆大

島附近ノ海底ニ在ルガ如ク、今後餘震頻發スベキモ、被害ヲ蒙ル程度ノモノニアラザルベシ」

トノ口頭傳達ヲ爲シテ之ヲ一般民衆ニ周知セシメ、更ニ午後五時三十分左記二通ノ宣傳ビラ各五千枚ヲ謄寫印刷シテ市内ニ撒布セリ。

「中央氣象臺ノ報告ニ依レバ今後大地震無シ、火災ハ漸次鎭靜シツヽアリ」

「中央氣象臺ノ報告ニ依レバ東京灣内ニ於テ海嘯ノ虞ナキ見込」

然レドモ當時民衆ヲシテ不安ヲ抱カシメタルハ啻ニ大震ノ再襲海嘯ノ襲來ナド言ヘル流言ノミニアラズ、物資ノ缺乏、警察力ノ不備ノ實狀ニ基ケル事モ亦極メテ大ナリ、未ダ幾バクモナク鮮人暴行ノ流言ガ冲天ノ勢ヲ以テ瀰蔓セルガ如キ、之ニ負フ所多シ、是ニ於テ本廳ハ其凡テニ通ジテ民衆ノ諒解ヲ得ルニ非レバ人心ノ安定ヲ得ル能ハズトナシ、大規模ノ宣傳ヲ試ムルノ方針ヲ決定セリ。是ヨリ先キ本廳警戒班ハ、九月一日、警務課警務係員ヲ以テ宣傳隊ヲ組織セシガ、其後必要ニ應ジテ次第ニ規模ヲ擴張シ、同十二日ニ至ルヤ名實共ニ組織的活動ヲ續行シ、偉大ナル効果ヲ奏シタリ、今宣傳隊ノ組織宣傳ノ方法並ニ其内容等ニ就キテ細說セントス。

(a) 宣傳隊ノ組織

總務部中、文書課員ヲ以テ組織セル宣傳隊ハ白井文書課長統率ノ下ニ、同課中、電信係ヲ除キタル祕書、審査、記錄、統計、往復ノ各係長以下二十五名之ニ當リタレドモ、同課ハ兼テ又繁劇ナル物資徵發ノ事務ニ從事スル關係上、動モスレバ澁滯ノ虞アルガ故ニ、一時廣瀨外事課長ニ命ジ、應援巡査ヲ指揮シテ之ニ代ラシメタリ。然ルニ宣傳ノ必要ハ益々急ヲ要スルモノアレバ、全然事務ヲ警戒班ニ移シ、警務係山内警部ヲ主任、後藤、堀兩警部補ヲ補助トシ、巡査一名、應援警部補二名、巡査部長三名、巡査三十六名及ビ帝國大學々生、明治大學々生各一名ノ來援ヲ得、合計四十八名ヨリ成ル宣傳隊ヲ組織シテ活動ヲ開始シ、事務分掌ヲ左ノ如ク定メタリ。

(1) 内務省震災事務局、海軍省、戒嚴司令部、東京府廳、東京市役所、司法省、協調會等トノ聯絡、
(2) 新聞記者其他ノ一般應接、
外交、審査、立案
(3) 宣傳材料ノ審査、
(4) 宣傳文ノ立案、

印刷分配、發送撒布
- (1)宣傳文ノ印刷、
- (2)各方面ヘノ分配、及ビ發達
- (3)宣傳ビラノ撒布、及ビ掲示、
- (4)メカホン使用ノ口頭宣傳、

管理、監督、庶務
- (1)自動車ノ管理、
- (2)係員及運轉手監督、
- (3)人事、
- (4)其他ノ庶務、

(b)宣傳ノ方法

市内及ビ隣接郡部ヲ五方面ニ分チ、五臺ノ自動車ニ隊員ヲ分乘セシメ、凡ソ四種ノ方法ニ依リテ宣傳ヲ實行セリ。

(イ)掲示

大形模造紙ニ宣傳文ヲ墨書シ、各警察署及ビ派出所其他民衆ノ目ニ觸レ易キ場所ニ掲示ス。

(ロ)貼付

藁半紙一枚又ハ半枚ニ謄寫又ハ活版セルヲ、民衆ノ目ニ觸レ易キ場所ニ貼付ス。

(ハ)貼布

民衆ニ對シ撒布ス。

(ニ)口頭宣傳

自動車一臺ニ二本ヅヽ、備ヘタルメカホンヲ使用シ、通行人ヲ集メテ口頭宣傳ヲ爲ス。

(c)宣傳文

宣傳文ハ人心ノ安定ト流言ノ防止トヲ目的トシテ起草セルモノナリ、而シテ震災後、最モ民衆ニ苦痛ヲ與ヘタルハ、食料ト住宅トニアリシカバ、本廳ハ專ラ此點ニ注意シ、食料ノ移入、配給及ビ住宅ノ設備ニ關スル宣傳ニ全力ヲ傾注スルト共ニ、警備ニ就キテノ不安ヲ除カンガ爲メニ、戒嚴令下ニ於ケル軍隊出動ノ情況並ニ其配置ヲ報道セルノミナラズ、更ニ民衆ヲシテ戰慄セシメタル鮮人暴動ノ流言ニ對シ

テモ、其課傳ニ出ヅルコトヲ宣傳スル等、苦心容易ナラザルモノアリ、今宣傳文中ノ重ナルモノヲ列記スレバ左ノ如シ。

宣傳文ノ一　（九月二日午前）

「大阪方面ヨリ六十萬石ノ米ヲ取寄スルコトニ手配セリ。其他近縣ヨリモ明日ヨリ續々到着スルニ付安心セラレヨ、災害ハ東京、横濱方面ノミニシテ他ハ至極平穩ナリ」

（宣傳ノ理由）

當時、治安保持上ニ於ケル最大ノ急務ハ、食料ノ供給ニアリ、然ルニ市内及ビ隣接地ニ殘留セル物資ハ數日ヲモ支フルコト能ハズ一般民衆生活上非常ノ不安ヲ感ジタルハ蓋シ之ガ爲メニシテ、若シ一歩ヲ誤ラバ掠奪暴動ヲ惹起スルノ虞アルヲ以テ本廳ハ内務省ニ對シテ速ニ大阪方面ヨリ六十萬石ノ糧米ヲ移入センコトヲ申請シタル結果、同省ト大阪府トノ交渉成リ、且附近ノ諸縣ヨリモ食料廻送ノ手段整ヒタレバ、普ク民衆ニ報道シテ其意ヲ安ンゼントスルナリ。

宣傳文ノ二　（九月三日午前六時頃）

「不逞鮮人妄動ノ噂盛ナルモ、右ハ多クハ事實相違シ訛傳ニ過ギズ、鮮人ノ大部分ハ順良ナルモノニ付濫リニ之ヲ迫害シ、暴行ヲ加フル等無之樣注意セラレ度シ」

（宣傳ノ理由）

鮮人暴行ノ流言ガ概ネ信ズ可ラザル事、刑事部及ビ特別高等課内鮮係勞働係等ニテ極力探査ノ結果漸ク明カトナリタレバ、以テ民衆ノ誤解ヲ解キ、鮮人ニ對スル迫害ヲ防止セントスルナリ。

宣傳文ノ三　（九月三日午前十時頃）

「東京市ハ只今六十臺ノ自動車ヲ以テ各方面ニ白米ノ配給ヲ爲シツヽアリ、戒嚴令施行ノ結果警視廳管下各所ニ軍隊ノ派遣アリ警戒嚴重ナリ」

宣傳文ノ四　（九月三日午後）

「聯合艦隊ハ横須賀ヨリ食糧ヲ多量ニ積ミ、一度品川ニ陸揚ゲシタル後、大阪方面ノ米ヲ運輸實施中」

宣傳文ノ五　（九月三日午後）

「吳軍港ヨリ軍艦扶桑、平戸、龍田及驅逐艦四隻ニ多量ノ食糧ヲ積ミ、品川ニ向ヒツヽアリ、佐世保軍港ヨリ軍艦利根ハ同ジク食糧ヲ多量ニ積ミテ東京ニ向ケ航行中」

宣傳文ノ六（九月三日午後）

「海路大阪ヨリ移入スルコトニ確定シ居ル六十萬石モ漸次入荷シツヽアリ」

尙列車ノ運轉情況ノ改善ニ從ヒ、本日埼玉縣ヨリ八百石ヲ移入シタルニ依リ、直ニ配給セリ。栃木縣ヨリ移入スルコトニ確定シ居ル十萬石ハ、明日ヨリ着荷ス、其他ハ近縣ヨリ續々着荷ノ筈ナリ。」

宣傳文ノ七（九月四日）

「今回ノ災害ニ依リ最モ必要ナル物資ニ付テハ計畫圓滿ニ進行シ、既ニ市民各位ニ對スル配給ヲ着々實行シツヽアリ、此際最モ重大ナルハ人心ノ平靜ヲ得ルニアルヲ以テ不逞鮮人ノ暴動、强震ノ再來等ノ風說ニ惑フコトナク、軍隊警察ニ事ノ眞否ヲ質シ、平靜裡ニ行動セラレンコトヲ望ム」

宣傳文ノ八（九月四日）

「關西地方ノ糧米ハ海軍省ニテ四十萬石、其他郵船ニテ二千石ヲ輸送到着シツヽアリ。

東京地方ヨリノ糧米ハ二千石、埼玉縣巖驛ニ到着シ自動車ニテ輸送シツヽアリ水道ハ漸次復舊シ給水ヲ始メタリ、各所ニ水道管破壞ノ爲漏水シツヽアルモ危險ナシ」

宣傳文ノ九（九月四日）

「東京警戒ノ爲、宇都宮師團昨夜來着、高田師團本日到着シ、尙仙臺師團ハ出動準備ヲ爲シアリテ警戒充實セルニ付安心セラレ度。」

（宣傳ノ理由）

宣傳文ノ二乃至九ニ擧ゲタル食糧ノ移入並ニ配給ノ情況及ビ戒嚴令實施、軍隊出動ノ事實ヲ民衆ニ周知セシムルハ掠奪騷擾ノ豫防及ビ人心安定ヲ期スル上ニ於テ最モ適切緊要ナリシニヨルナリ。

宣傳文ノ十（九月五日）

「毎日午後一時東京灣芝浦ヨリ橫須賀ニ航路開始セリ」

（宣傳ノ理由）

市内ノ罹災者其他ガ地方ニ避難センコトヲ欲シナガラ交通機關ノ不備ニ依リテ目的ヲ達シ得ザルモノ當時頗ル多カリシカバ、其復舊ニ從ヒ之ヲ民衆ニ報ズル必要アリシト共ニ、市内ノ人口ヲ一人ニテモ多ク減少シテ一ハ群集化セル集團ノ勢力ヲ殺ギ、一ハ物資缺乏ノ情勢ヲ緩和セン事亦最大ノ急務ナレバ努メテ管外ニ放散セシメントスルナリ。

宣傳文ノ十一　（九月五日）

「三日東京府、神奈川縣ニ戒嚴令ヲ執行セラルヽト共ニ戒嚴司令官（陸軍大將福田雅太郎）ノ隷下ニ屬セラレタル軍隊左ノ如シ。

近衞師團（千葉縣習志野部隊ヲ含ム）

第一師團（佐倉甲府聯隊ヲ含ム）

第十四師團ノ歩兵第六十六聯隊（宇都宮）

同師團ノ歩兵第十五聯隊（高崎）

第二師團ノ歩兵二個聯隊（仙臺）

第十三師團ノ歩兵二個聯隊（高田）第十四（水戸）ノ各大隊、野戰重砲兵第二

工兵第二（仙臺）第九（金澤）第十三（高田）第

旅團（三島）

歩兵學校、騎兵學校、野砲兵學校ノ各教導聯隊各諸部隊中、千葉、佐倉、水戸、宇都宮、高崎、甲府ヨリハ三日中ニ東京、横濱、小田原附近ニ到着シテ警戒配置ニ就キ、其他ノ部隊モ四日以後續々到着スベク、尚陸軍大臣ハ全國各師團長（朝鮮屯在ノ師團ヲ除ク）ヘ多數ノ衞生材料並ニ人員ヲ、至急東京ニ輸送派遣シ、傷病者ノ救護ヲ爲サシムベキ旨命令セリ」

宣傳文ノ十二　（九月五日）

「一、愛知縣ヨリ玄米三千俵、白米三千俵、味噌二萬貫、梅干四十貫、食鹽百俵發送セラル。」

一、名古屋市ヨリ白米二千石、晒木綿六千反、味噌一萬貫、漬物一萬貫目發送セラルル」

宣傳文ノ十三　（九月五日）

「一、四日午前十一時四萬人分ノ軍用パン到着シ、既ニ罹災者ニ配付シタルガ、更ニ

五日及六日ニ八十萬人分ノ軍用パン到着ノ筈ナリ。

一、農商務省ノ持米ノ横濱倉庫ニアルモノ、一部東京ニ廻送セラル。

一、戒嚴司令官ノ指揮ニ依リ十五萬人分ノ天幕ヲ供給シ、之ガ設備ヲ爲スコト、セリ」

宣傳文ノ十四　（九月五日）

「電信ハ中央郵便局ヨリ東北及大阪ヘ通ズ、大阪方面ニ毎日芝浦ヨリ軍艦發航ス、同方面ニ避難シタキモノハ芝浦ノ救濟事務所ニ至リ申込マルベシ。

尚全部無賃ニシテ大阪・神戸方面ニ於テモ相當救濟シ呉ルヽ筈」

宣傳文ノ十五　（九月五日）

「九月五日夜ヨリ鼠賊ノ潜入ヲ防グ爲警察ト軍隊ト協力シ市内外ノ各要所ニ檢問所ヲ設ケ、一々通行人ヲ査問シ、嚴重ナル警戒ヲ加フルコト、ナリタルヲ以テ、一般民衆ハ可成夜間ハ戸外ニ出デザル樣セラレタシ。」

宣傳文ノ十六　（九月五日）

「關東戒嚴司令官令第二號

軍隊ノ增加ニ伴ヒ、警備完備スルニ至レリ、依ッテ左ノ事ヲ命令ス。

一、自警ノ爲團體若クハ個人毎ニ所要ノ警戒方法ヲ執リアルモノハ豫メ最寄警備隊憲兵又ハ警察官ニ届出其指示ヲ受クベシ。

二、戒嚴地域内ニ於ケル通行人ニ對スル誰何、檢問ハ軍隊憲兵及警察官ニ限リ之ヲ行フモノトス。

三、軍隊憲兵又ハ警察官憲ヨリ許可アルニ非ザレバ地方自警團及一般人民ハ武器又ハ兇器ノ携帶ヲ許サズ。」

宣傳文ノ十七　（九月六日）

「門柱、板塀等ニ記セル符合ニ就テ

12a 2Ⓟ 1B Ⓚ 1m ○ W_3 ケ r u ◎ ﾍ ﾙ Ⓟ

先日來各所ノ門柱板塀等ニ右ノ如キ符合ヲ記シアルヲ以テ鮮人ノ不正行爲ノ暗號ナラムト、一般ノモノ非常ニ不安ノ念ヲ抱キ居タルトコロ、當廳ニ於テ調査ノ結果右ハ中央清潔會社ノ人夫等ガ得意先ノ心覺ヘ及便所所在地ノ方向個數等ノ符合ニ用ヒタルモノナルコト判明セリ」

宣傳文ノ十八　（九月七日）

「有リモセヌ事ヲ言觸ラスト處罰サレマス」

「朝鮮人ノ狂暴ヤ、大地震ガ再來スル、囚人ガ脫監シタナゾト言傳ヘテ處罰サレタモノハ多數アリマス」

「時節柄皆樣注意シテ下サイ」

宣傳文ノ十九　（九月七日）

「本七日左ノ緊急勅令ガ出マシタ」

出版、通信其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハズ、暴行、騷擾其他生命、財產、身體ニ危害ヲ及ボスベキ犯罪ヲ煽動シ、安寧秩序ヲ紊亂スルノ目的ヲ以テ治安ヲ害スル事項ヲ流布シ、又ハ人心ヲ惑亂スルノ目的ヲ以テ、流言浮說ヲ爲シタルモノハ十年以下ノ懲役、若クハ禁錮、又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス。

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

宣傳文ノ二十　（九月七日）

「罹災ヲ免レタル市民諸君ニ告グ、今回多數ノ罹災者ハ大震後七日ニ及ベル今日、尙雨露ヲ凌グベキ場所ナク路頭ニ彷ヒ居ル、狀態ニアツテ其慘苦ノ狀痛心ニ堪エマセヌ。

殊ニ雨模樣アル昨今、一層悲慘デアリマス、幸ヒ燒失ヲ免レタル市民諸君ニシテ、住居ノ餘裕アルモノハ、此際罹災者ニ同情セラレ、其邸宅ノ一部ヲ提供セラレタシ。「若シ宏大ナル邸宅ヲ閉ジ、同情ヲ吝ム者多キ場合ハ法規ノ力ヲ借リテ非常徵發セラルヽヤモ知レマセヌ」

宣傳文ノ二十一　（九月八日）

「大音響ヲ發スルモ驚ク勿レ。本所業平橋ヲ修理スル爲、工兵隊ハ今夜午前二時ヨリ四時頃迄其殘リノ部分ヲ爆破スル爲音響ヲ發スルモ驚カザル樣注意アレ」

宣傳文ノ二十二　（九月八日）

「小石川區大塚署管內高等師範學校其他ノ學校及工場ヲ罹災者ノ收容ニ充ツ降雨ノ模樣モアルニ依リ警察署ニ問合セノ上成ベク利用セラレ度シ」

宣傳文ノ二十三　（九月八日）

「三田署管内芝浦埋立地、横川毛織工場及高等工藝學校ヲ罹災者ノ收容所ニ充ツ、降雨ノ模様アルニヨリ成ルベク利用セラレ度シ。」

九月九日以後ニ於テハ、官房文書課及ビ高等課協力シテ專ラ避難民收容所並ニ勞働者紹介ニ關スル宣傳ニ從事スルコトヽナシ、流言ノ防止、人心ノ安定ニ關スル宣傳ハ八日ヲ以テ略ボ其任務ヲ了シタリ。

(d)宣傳ノ効果

群衆指導者タルモノハ群衆ト同一體トナル事ヲ最大ノ要件ト爲ス、斯クテ始メテ能ク其目的ヲ達スルヲ得ベシ、故ニ群衆ノ指導者ハ概ネ群衆中ヨリ出ヅルヲ常トス、サレバ群衆ヨリ、異分子トシテ目セラルヽモノハ、如何ニ巧妙ナル手段ニ依ル ト雖、容易ニ群衆ヲ指導スル事能ハザルナリ。此點ニ於テ、本廳ハ群衆ノ指導者タルニ不適當ナル地位ニ在リシモノト言フベシ、蓋シ一般民衆ハ既ニ流言ヲ事實ナリト確信シ、之ヲ否定スルモノヲ排斥セントスルヲ以テナリ。是ニ於テ本廳ハ民衆中、其最モ狂暴ナルモノニ對シ、法規ニ基キテ斷乎タル檢擧取締ヲ實行スルト共ニ、民衆ヲシテ多大ノ不安ニ陷ラシメタル素因ヲ除ク事ニ苦心シ、努メテ正確ナル報道ヲ周知セシメンガ爲ニ、大宣傳ヲ試ミタルガ如キハ其一例ナリ、而シテ其宣傳セル事項ハ、孰レモ民衆ガ之ヲ知リ、之ヲ聞カントセル所タリシノミナラズ、時ハ將ニ報道交通機關全滅ノ際ナリシカバ、大ニ歡迎セラレ、宣傳用自動車ハ到ル處民衆ノ包圍スル所トナリ、數千乃至數萬ノ宣傳ビラハ忽チニシテ民衆ノ手ヨリ手ニ移サレタリ。

斯クテ民衆ハ又所謂群衆心理ノ導クガマヽニ、之ヲ讀ミ、之ヲ聞キ之ヲ信ズルモノ次第ニ多キヲ加ヘ、九月七日頃ニ至リテハ流言ノ内容殆ンド虛傳ナリトノ輿論ハ、漸次力ヲ得ルニ至リ、未ダ幾バクモナクシテ、一時民心ヲ惑亂セシメタル流言モ全ク其迹ヲ絶テリ。コレ戒嚴令ニ依ル兵力ノ配置、警察力ノ逐次恢復、物資供給ノ施設等幾多ノ原因ニ基クヤ勿論ナリト雖、宣傳ノ効力モ亦顯著ナルモノアリ。之ニ依リテ考フルニ、非常時ニ際シテ穩健且適切ナル宣傳ヲ試ミル事ハ肝要ニシテ、又或程度マデ流言ノ發生ヲ未前ニ豫防シ、然ラザルモ其傳播ヲ沮止スルノ力ヲ有スルニ似タリ。

(三)　流言者ノ檢擧取締（警察犯處罰令及治安維持令ノ實施、）

本廳ハ宣傳ニ依リテ流言ノ信ズベカラザルヲ周知セシメ、民衆ノ反省ヲ促セルト共ニ、流言ノ出所並ニ其發展ノ徑路、及ビ事實ノ內容ニ就キテ嚴密ナル調査ヲ遂ゲンガ爲ニ、九月二日偵察班タル刑事部ニ於テハ、木下刑事部長統率ノ下ニ、小泉捜査課長躬ラ部下ヲ指揮シ、有松、中村兩係長以下課員全部ノ活動ヲ開始シ、更ニ各署ヨリ本廳ニ同行セル鮮人、朴秉薫外百六十八名ノ取調ニ從ヒ、ナホ又七日ニハ出口警部及ビ刑事巡査二名、十九日ニハ、小泉捜査課長、櫻井警部及ビ巡査部長一名ヲ、就レモ神奈川縣ニ派遣シ、同縣下ニ於ケル流言ノ眞相ヲ探ラシムルナド、努力セル所甚ダ多カリシガ、流言ハイヅクマデモ流言ニシテ、事實ノ捕促スベキモノナカリシハ、既ニ上文ニ述ベタルガ如シ、而シテ流言者ニ對スル取締ハ流言ノ調査ヨリ更ニ急務ナルモノアリ、卽チ總監官房ニ於テモ、正力官房主事統率ノ下ニ守屋特別高等課長ハ山田特別高等立山內鮮西中間勞働、橘檢閱ノ各係長等ヲ督勵シテ、九月二日ヨリ既ニ流言者ノ檢擧ニ努メタリシガ、五日ニ至リテ正力官房主事ト馬場警務部長トノ連署セル左記指示ハ各署長ニ傳達セラレタリ。

今回未曾有ノ災害ニ因リ、人心極度ニ昂奮セルヲ利用シ、或ハ鮮人ニ關シ、各種ノ不逞行爲アルヤ如クニ專ラ宣傳ニ勉メ、大地震、大海嘯ノ再來スルガ如キ事ヲ宣傳シ廻ル者隨所ニアルヤニ聞知スルノミナラズ、右者全市ニ亘リテ系統的ニ內鮮人間ヲ離間セムトスル目的ニ出ヅルニアラザルヤノ疑モ有之ヲ以テ、此際最善ノ努力ヲ用キテ、之等宣傳者ノ檢擧ニ努メ、以テ人心ノ安定ヲ圖ルニ努メラルベク、尙之ニ關シテハ左記事項ヲ參考セラルベシ。（後略）

更ニ又、不穩宣傳文ノ印刷、及ビ安寧秩序ヲ紊ス記事アル出版物、新聞紙ノ取締ニ關シテハ、橘檢閱係長之ニ當リ、內務大臣ノ指揮ヲ承ケテ、發賣頒布ノ禁止、差押處分ノ執行ヲ爲シ、取締ノ徹底ヲ期セリ、然ルニ九月二日以降七日ニ至ル迄ハ、未ダ治安維持令ノ發布ナカリシカバ、內務省令警察犯處罰令第十二條第十六號ヲ適用シテ流言者ノ檢擧ヲ爲シ、說諭又ハ拘留處分ニ處シタルモノ三十二件ニ及ベリ。

九月七日ニ至リテ、治安維持ノ爲ニスル罰則ニ關スル緊急勅令發布セラレタレバ、翌八日木下刑事部長ハ各署長ニ對シ、之ガ實施心得ニ關スル指示ヲ發シ、執行ノ圓滿ヲ期セリ。

勅令ノ公布セラルヽヤ、本廳刑事部ハ小泉捜査課長ヲ主任トシ、恒岡、前田、土屋各

警部、山口警部補以下ノ各部署ヲ定メテ、流言者ノ捜査ヲ開始シ、各署ニ於テモ亦勅令ノ主旨ヲ民衆ニ周知セシムルト共ニ、流言者ノ有無ニ關シテ嚴密ナル各戸調査ヲ行フ等周到ナル取締ヲ實施セルヲ以テ、新法令ノ威嚴頓ニ加ハリ、流言ハ次第ニ其影ヲ潛メ、九月七日以降十一月末日迄同令ニ依リ檢擧セルモノ僅カ十一件ニ過ギズ、コレ他ノ諸原因ト相俟チテ然ラシメタルモノナリト雖、豫防警察ノ活動亦與リテ力アリト言フベシ。

第二節　朝鮮人ノ保護

鮮人ニ關スル流言ヲ眞ニ事實ナリトシテ受ケ入レタル一般民衆ハ、憤激ノ餘リ暴力ヲ用ヒテ、鮮人ヲ迫害スルモノ所在ニ起リ形勢次第ニ惡化セントスルノ傾向ヲ有シ、鮮人保護ノ必要急務タルニ至リシカバ、本廳ハ九月二日ヲ以テ左ノ方針ヲ決定セリ。

(a)、朝鮮人ヲ速カニ各署又ハ適當ナル場所ニ收容シ、其身體ヲ保護檢束スルコト。

(b)、朝鮮人ノ保護ヲ確實ナラシムル爲、其移動ヲ沮止スルコト

(c)、內鮮人相互ノ融和ヲ圖ル爲朝鮮人勞働者ヲシテ、社會奉仕的事業ノ開始ヲ勸誘スルコト。

斯クテ此方針ニ從ヒテ施設セル概略ヲ擧グレバ左ノ如シ。

第一　鮮人收容ニ關スル應急措置

鮮人ヲ適當ナル場所ニ收容シテ危地ヨリ脫セシムル事ハ、第一ノ要件ナレバ、警務部ニ於テハ、九月二日各署長ニ指示シテ、其收容ヲ開始セルニ、鮮人自ラ來リテ保護ヲ請ヘルモノト、犯罪嫌疑者トシテ民衆ノ伴ヒ來レルモノトヲ合セ、各署共ニ忽チ鮮人ヲ以テ充滿セラレシノミナラズ、本廳ノ如キモ、府立第一中學校內ノ假事務所ニ收容セルモノ、未ダ數時間ヲ出デズシテ、百六十八名ノ多數ニ達シタリ。是ニ於テ同日ノ夜、刑事部鑑識課ハ市ケ谷刑務所ト交涉シ、東京地方裁判所及ビ同區裁判所構內ナル同刑務所假監使用ノ承諾ヲ得、卽夜保護鮮人ノ全部ヲ此處ニ移シ、警務部ヨリ派遣セル巡査ヲシテ警戒保護ノ任ニ當ラシメタリ。

斯クテ九月五日迄ニ、本廳及ビ市內各署ニ保護收容セル鮮人ノ總數實ニ六千百十八名ヲ算シ、其內本廳ニ收容セル人員二百九十四名ヲ示セリト雖、當時本廳及ビ

各署共ニ、罹災者ノ救護其他諸警戒取締ノ爲ニ連日忙殺セラレ、マタ收容場所ニ於ケル設備ノ完全ヲ期スルニ遑アラズ、加之保護鮮人ノ多數ハ、犯罪嫌疑者タリ、且其業態ヲ見ルニ學生アリ、勞働者アリ、行商人アリ、千差萬樣ニシテ、婦人小兒サヘ之ニ交リ、日本語ヲ解セザル者モ亦甚ダ多シ、而モ一般民衆ノ鮮人ニ對スル誤解ハ容易ニ解ク由モナク、之ガ保護ニ任ズル警察官ニ對シ、却テ反感ヲ有スル者尠カラズ、斯ル難局ニ際シテ、一方ニハ風俗習慣、人情ヲ異ニセル鮮人ヲ保護シ、一方ニハ感情ノ昂奮其極ニ達シテ行動常規ヲ逸シタル民衆ヲ慰撫シ、二ツナガラ其目的ヲ達セントスル本廳及ビ各署ノ苦心眞ニ言フ可カラザルモノアリ、サレバ小松川署ノ如キハ、萬一ノ變ヲ慮リ軍隊ト交涉シテ、九月五日ヨリ同十日ニ亘リ、收容鮮人ヲバ悉ク千葉縣習志野ニ護送シ、尋テ龜戸、寺島ノ兩署モ亦七日八日ノ兩日ニ其大部分ヲ同所ニ移セルノミナラズ、本廳モ亦九日早朝收容鮮人三百五十一名ト青山署其他ヨリ依囑セラレタル百八十七名ヲ騎兵第十六聯隊ニ交付シ、亦之ヲ同所ニ移シタリ

第二　鮮人收容所ノ設置

本廳及ビ各署ニ於テ鮮人ノ保護收容ヲ開始セル事、上文ニ述ベタルガ如シ、此時ニ方リ、震火災ニ因ル警察活動ノ最モ多事多難ヲ極メシガ爲ニ、多大ノ警察力ヲ割カザル可カラザリシハ、非常ナル苦痛ニシテ、就中、經濟、物資共ニ缺乏セル各署ノ如キハ甚シキ窮境ニ陷レリ、故ニ大規模ノ收容所ヲ設ケテ各署ノ負擔ヲ輕減スル事焦眉ノ急務ナリシト雖、習志野ニハ既ニ三千有餘名ヲ收容シテ、ソレ以上ノ餘地ヲ有セズ、勢之ヲ他ニ求ムル外ニ手段ナキヲ以テ、刑事部ニ於テハ種々調査ノ結果、辛ウジテ世田谷警察署管內目黑競馬場內ノ建物ノ最モ適當ナルヲ發見シ、競馬倶樂部代表者安田常務理事ト交涉シテ其快諾ヲ得タリ、則チ同所ヲ以テ警視廳保護鮮人收容所ト爲シ、九月十一日、十二日ノ兩日ニ巢鴨署ノ三百名、千住署ノ二百名其他各署ノ百四十二名ヲ收容シ、食料、薪炭、毛布等ハ府及ビ市當局ヨリ受クルト共ニ、戒嚴司令部ニ依賴シテ、中尉以下下士卒數名ノ派遣ヲ請ヒ本廳ヨリモ刑事部鑑識課員門田薪部、加藤警部補以下及ビ山形長野兩縣ノ應援巡査等三十五名警部一、警部補二、巡査部長四、巡査二十八)ヲ派遣シテ、保護ノ任ニ當ラシメ、同月二十五日迄ニ亘リ完全ナル保護救濟ノ實ヲ擧ゲ得タリ。

第三　目黑町民ノ同情

是ヨリ先本廳ノ保護鮮人收容所目黑競馬場ニ設ケムトスルヤ目黑町民ハ强硬ナル反對ノ氣勢ヲ示シ、世田谷・大崎兩警察署長ノ諭告ニヨリテ纔カニ其目的ヲ達シタレドモ、町民中ニハナホ未ダ之ヲ諒解セザルモノアリ、殊ニ恐怖ト不安トノ餘リ自警團ノ警戒亦頗ル嚴重ヲ極メタレバ、本廳ハ町民ノ疑惑ヲ一掃シ、諒解ヲ得ル事ノ必要ナルヲ感ジ、九月十四日岩藤鑑識課長躬ラ同地ニ赴キ、町民有志ト相會シテ善良ナル鮮人ノ窮狀ヲ陳述シ、速ニ誤解ヲ去リ、彼等ニ對スル深甚ノ同情ヲ垂レンコトヲ懇談セルニ、町民モ亦始メテ流言ノ信ズ可カラザルヲ曉リ、前日ノ反感ハ一變シテ美シキ同情心ノ發露トナリ、同十六日町民一同ハ手拭六百二十本、梨六百二十五箱其他多數ノ食料品ヲ寄贈シ、町内ノ自警團、消防組等ノ各種團體モ亦各種ノ慰問品ヲ寄贈スル等、其好意感ズベキモノアリ。更ニ其保護衞生ニ關シテモ、町醫三名及ビ消毒班ヲ收容所ニ派出シテ、傷病者ノ診療、投藥並ニ便所其他ノ消毒等ヲ爲サシメタレバ、食料給與ノ豐カナルハ、却テ一般罹災者ニ優リ、保健、衞生亦遺憾ナカリシヲ以テ、遂ニ一人ノ病者モ出サズ、之ガ爲メニ彼我感情ノ融和上極メテ良好ナル結果ヲ齎シ、收容鮮人ノ殆ンド凡テハ官憲ノ待遇ト、民衆ノ好意トヲ喜ビ、當初懷抱セル危惧ノ念ヲ一掃シ何レモ其意ヲ安ンズルニ至レリ。

第四　鮮人歸國ノ沮止

鮮人ニ對スル保護ノ完璧ヲ期セムトセハ、先ッ之ガ收容上ノ施設ヲ爲スト共ニ一時彼等ノ旅行ヲ制限スル事亦肝要ナリ、斯ノ如キハ一面治鮮上ニモ亦重大ナル意義ヲ有スルヲ以テ、本廳ハ九月四日、特別高等課內鮮係ニ命シ、鮮人ノ上京沮止ニ關スル依賴ノ電報ヲ朝鮮總督府ニ發セシメ、同八日更ニ馬場警務部長、正力官房主事ノ連名ヲ以テ各署長ニ對スル通牒ヲ傳達セシメタリ。

鮮人歸國說ニ關スル件（九月八日號外）

今次ノ災害ニ關シ、鮮人中歸鮮セムトスルモノ簇出スルヤモ計リ難キニ付テハ、此際鮮人ヲシテ歸國セシムルハ政策上甚ダ弊害アリ、且ツ內地人ノ鮮人ニ對スル感情モ漸次緩和セラレ、鮮人在住ニ何等支障ナキ現狀ナレバ努メテ歸鮮セシメザルヲ得策ト認メラルルニ付、其署管內在住者ト雖トニ拘ラズ苟クモ鮮人ニシテ歸國セントスル者アルトキハ徐ニ說示納得セシメ努メテ歸鮮セザル樣取計ハルベシ。

然レドモ鮮人ノ保護ヲ完クシ、其歸國ヲ沮止スルハ容易ノ業ニアラズ、管內各署ノ努力ヲ要スルモノ多キガ故ニ、九月九日湯淺總監ハ木下刑事部長ヲシテ重ネテ

各署長ニ對シ、左記通牒ヲ傳達セシメタリ。

鮮人保護ニ關スル件（九月九日）（號外）

今回ノ災害ニ際シ在京鮮人不逞ノ徒輩ニシテ兇暴ノ擧ヲ敢テ爲シタル者アルヤノ流言蜚語著リニ喧傳セラルルヤ、慘澹タル被害ノ爲極度ニ昂奮セル民衆ニ於テ、何等兇行ナキ溫順ナル多數鮮人殊ニ忠良ナル親日鮮人ニ對シテモ甚シキ迫害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルモノ簇出スルニ至リタルハ極メテ遺憾トスル所ナリ。　此時ニ方リ、警察官憲ニ於テ之等無辜ノ被迫害者、憐ムベキ新附ノ民ヲ保護シ、救濟スルハ人道上、將又國際上喫緊當然ノ儀ニシテ、更ニ内鮮融合ノ上ニ於テモ多大ノ努力ヲ拂フベキハ自明ノ理ナリ。然ルニ署ニヨリテハ之等被保護者ニ對シ保護ノ責ヲ盡サズ、又ハ自己ノ所轄内ニ居住セシムルヲ壓フカ如ク感セラルヽ向アリ。此ノ如キハ甚ダ其處置ヲ誤レルモノト謂ハザルベカラズ、殊ニ一部ノ消息早ク既ニ朝鮮ニ傳ヘラレ、同地ノ統治上惡影響ヲ起スノ虞アリト認ク。就テハ此際成ルベク彼等ヲ引止メ歸鮮セシメザル樣仕向クルノ必要アリ、各位ハ克ク事ノ顚末竝影響スル所ヲ稽ヘ、彼等ノ保護ニ關シ、萬善ノ注意ト努力トヲ以テ毫未ノ過誤ナキヲ期セラルルベク、處理上疑アルル場合ハ本廳ノ指揮ヲ受ケラルヽ樣致度此段依命及通牒候也

是ニ於テ管内各署ハ、本廳ノ命令ニ基キテ、一時鮮人ノ旅行ヲ阻止シ、只管其保護ヲ完全ナラシムルニ努力セシガ、他府縣ニ於テモ亦本廳ト同一ノ方針ヲ採リタルモノヽ如シ。

第五　内鮮人間ノ融和措置

鮮人ヲ保護シテ其歸鄕スル所ヲ知ラシムル事ハ、當時ニ於ケル焦眉ノ急務ナリカトモ、元コレ應急ノ手段ニ過ギズ、更ニ進ミテ其根柢ニ横ハレル一般民衆ノ誤解ヲ除キ、禍根ヲ一掃スルハ、更ニソレ以上ノ急務タリ。　本廳ハ之ガ爲メニ、或ハ各種ノ宣傳ヲ行ヒ、或ハ流言其他ノ取締ヲ嚴ニスル等、善後策ニ苦心セシガ、尙又此際鮮人ノ眞情ニシテ内地人ニ知ラルルアラバ、彼我感情ノ融和上、最モ適切ナルモノアルベキヲ認メ、鮮人勞働者ノ社會奉仕的事業ヲ試ミン事ヲ希ヒ、九月四日朝鮮人勞働團體相愛會長李起東、同副會長朴春琴ヲ本廳ニ招ギ、立山内鮮係長ヨリ之ヲ慫慂シタルニ、李、朴ノ兩氏モ亦大ニ喜ビ、立所ニ當時民衆ノ最モ困難セル燒跡及ビ道路ノ灰燼除去事業ニ當ルベキヲ快諾シタレバ、翌五日、立山係長ハ、東京市役所ニ赴キ、事業實施ノ區域及ビ順序、鮮人人夫ノ指導方法並ニ糧食器具ノ貸給與ニ關シテ協議ヲ重ネ、又戒嚴司令部ヲ訪ヒテ諒解ヲ求メタル後、其保護ニ就キテハ、巡査二名ヲ派遣スルコトト爲シ、準備漸ク整フ。　是ニ於テ、正力官房主事ハ、九月十日先ヅ其趣

旨ヲ記シタル通牒ヲ各署長ニ發シタリ。

鮮人保護其他ノ件（九月十日　鮮高祕丙第一號）

朝鮮人ニ關スル保護方ニ付テハ、昨九日刑事部長通牒ノ次第モ有之通流言未ダ其跡ヲ絕ザルニ付、充分ノ保護ヲ加ヘ、歸國希望者ニ對シテハ能ク諭示シテ之ヲ沮止スルト共ニ人心ノ安定情況如何ニヨリテハ之ヲ利用シ、朝鮮人ニ關スル思想緩和ノ方途ヲ講セラレ度。

後略、

斯クテ同日內鮮係永山警部補外巡査一名ハ、豫テ計畫セル燒跡路面灰燼除却作業ニ使用スベキ鮮人勞働者百二十名ヲ、日本橋區蛎殼町二丁目一番地日鮮企業株式會社ニ收容シテ、相愛會事務所ニ充テ、直チニ作業ヲ開始シ、尋テ上野、兩國兩驛附近ノ路面整理ニ從フ、成績極メテ良好ナリ。卽チ新聞紙ニ依リテ之ヲ社會ニ發表シタルニ、一般民衆モ亦深ク其好意ヲ喜ビ、彼我ノ感情自ラ融和セラレ、最早鮮人ヲ迫害シ、或ハ其作業ヲ妨害セントスルガ如キ、不穩ノ行動ニ出ヅルモノナキニ至リタレバ舊ノ如ク鮮人勞働者ヲシテ其業ニ服セシメントス、然ルニ若シ其雇傭主ガ世上ノ物議ヲ憚リテ解雇センニハ、鮮人ヲシテ益々窮境ニ陷ラシムルノ恐アルガ故ニ、九月十三日正力官房主事ハ各署長ニ通牒ヲ發シテ之ヲ戒飭セリ。

鮮人ノ移動沮止其他ノ件（九月十三日　鮮高祕丙第三號）

今回ノ災害ノ善後策トシテ、可成鮮人ノ移動ヲ沮止スルノ必要有之候處、鮮人ノ雇傭者ニシテ今直ニ解雇スルニ就テハ、鮮人益々窮境ニ陷リ、移動ノ止ムナキニ立至ラシムルト共ニ保護取締上ニモ多難ノ結果ヲ招來スベキニ付、事業主ヲ諭示シ、濫リニ解雇スルガ如キ事ナキ樣努力スルト共ニ、一面鮮人ノ就業ニ努力シ、之ガ移動ヲ沮止シ、人心ノ安定ヲ講セラルベク、尙之ト關連シ鮮人ノ止宿主同居主等ニモ其處遇上誤解ナキ樣努力相成度依命此段及通牒候也

追テ管內ニ於ケル鮮人利用ノ情況調査至急報告相成度候

各署ニ於テハ此通牒ニ接スルヤ、直ニ之ヲ鮮人雇傭主、同居主等ニ示達シ以テ保護ノ貫徹ヲ期シタリ。

第六　保護鮮人ノ引渡

震火災後二週日ヲ經テ人心漸ク安定シ、鮮人ニ對スル誤解モ亦次第ニ消失セントスルヤ、本廳ハ一日モ早ク鮮人ヲシテ其生業ニ就カシメン事ヲ希ヒ、種々施設スル所アリシ一斑ハ、上文ニ述ベタルガ如シ、從ウテ保護鮮人中確實ナル引取人アルモノニ對シテハ之ヲ解放シテ其手ニ交付スルノ必要ヲ認メ、九月十五日正力官房

主事ハ各署長ニ對シテ其意ヲ通牒セリ。

鮮人歸國阻止ニ關スル件（九月十五日鮮高祕第五號）

鮮人ノ歸國阻止ハ絶對ニ之ヲ勵行スルト共ニ、一面之ニ對シ就職ノ途ヲ講ズル必要アルニ付テハ、其署保護中ノ鮮人ニ對シ、使用主、同居主、公共團體等身元確實ナルモノニシテ之ガ保護使役ヲ申出ヅル者アリタルトキハ、左記事項ヲ考慮シ、支障ナシト認ムル場合ハ人頭氏名ヲ明カニシ（保護監督ノ方法ニ付充分ノ指示ヲ與ヘ、之ニ引渡シテ爲スモ差支ナク、若シ引取先他署管內ナルトキハ其旨通知スベシ、但引渡前概要ヲ報告シ當廳ノ指示ヲ受ケラルベシ。

記

(1)引取人ノ身元引取ノ理由。

(2)被引取人ヲ收容スベキ場合ハ、保護監督ノ方法ニ於テ民心ノ動搖紛議逃走歸國ノ虞ナキヤ否ヤ。

(3)使役ノ場所、情況ニ於テ內地勞働者ト物議ヲ釀ス虞ナキヤ否ヤ。

(4)學生ヲ引取ラムトスル者ニ付テハ前項ノ事項ヲ考慮スルコト。

追テ其署管內ニ散在セル鮮人ノ動靜ニ付テ、此際充分ノ觀察ヲ加ヘ、情況時々報告相成度申添候。

斯クテ各署ニテハ確實ナル保護者ニ鮮人ヲ交付スルト共ニ、目黑收容所ニ於テモ亦舊雇主或ハ親族友人ノ請願ニ依リテ之ヲ引渡シタルモノ百三十九名ニ及ベリ。然レドモ目黑收容所並ニ各署ニハ尙殘留ノ鮮人アリ、其處分モ亦必要ナレバ、本廳ハ先ヅ朝鮮總督府ト協議ノ結果、各署收容ノ鮮人ヲ總督府ニ交付シ、總督府ニテハ之ヲ靑山明治神宮外苑バラック內ニ保護收容スル事トナリタレバ、九月二十一日馬場警務部長正力官房主事連名ノ指示ヲ各署長ニ達シタリ。

保護鮮人ニ關スル件（九月二十一日警務災第五十一號）

各署ニ於テ保護ノ爲收容シ居ル鮮人ハ朝鮮總督府ニ於テ保護ヲ加フルコトニ決定シタルヲ以テ、其署收容中ノ學生、傷病者（中署）等ヲ除キ、全部靑山明治神宮外苑バラック內總督府出張員ニ豫メ打合セノ上、引渡サルベシ。

同日以降各署ハ右指示ニ基キ其收容中ノ鮮人ヲ續々、總督府出張員ニ引渡シタルガ、九月二十五日ニ至リ各署收容ノ鮮人ハ合計百二十四名ニシテ內拘留者六十一名ヲ除ケバ僅カニ六十三名ヲ殘スニ過ギザリキ。

尋テ、九月二十五日午後朝鮮總督府警務課長國友事務官ヨリ、目黑收容所ノ鮮人全部（當日現在五百三名）引取ノ交涉ニ接シタレバ、本廳之ヲ諾シ、翌二十六日總督府ノ經營セル靑山收容所ニ交附シ、久シク困難ヲ極メタル鮮人保護事務ハ玆ニ其完

了ヲ見ルニ至レリ。

第三節　自警團

自警團ノ指導取締ノ事ハ既ニ前章（第二章參照）ニ述ベタレバ、茲ニハ自警團發生ノ動機及ビ目的其組織、性質、行動並ニ解散ニ至ル迄ノ經過ヲ叙シ、其犯罪行爲ニ對スル司法警察措置ニ就キテ概説セントス。

第一　自警團發生ノ原因及ビ其目的

震火災ノ後、民衆ハ、或ハ從來既ニ各町村ニ組織セラレタル各種ノ自衞團體ニ據リ、或ハ新ニ之ヲ組織シテ其生命、財產ヲ保護セントセリ、而シテ其自衞團體ノ名稱ハ青年團、在鄉軍人分會、安全組合、保安組合、夜警團、町會等種々アリシカドモ、自警團ナル名稱ヲ附シタルモノ最モ多數ヲ占メタルガ故ニ、自ラ自衞團體ノ總稱トナリ大災害ノ生ミタル恐ルベキ一現象トシテ、民衆ノ腦裡ニ深刻ナル印象ヲ殘スニ至レリ。抑モ震火災ノ結果、帝都ノ秩序一時混亂ニ陷レルノ際、平時ニ於ケル警察力ヲ以テシテハ到底其治安ヲ保持ス可カラズト思考セル民衆ガ、自己防衞ノ爲ニ團

體ノ力ヲ恃マントスルハ、寧ロ必然ノ歸結ト言ハザルベカラズ、卽チ自警團設立ノ直接原因ハ左ノ二點ニアルベシ。

一　時警察力ノ充實ヲ缺キタルコト其一ナリ。

鮮人來襲ノ流言傳播セルコト其二ナリ。

震火災ニ依リテ、通信交通機關ノ全滅セルト、各署廳舍及ビ派出所ノ倒潰燒失セルモノ多カリシト、本廳並各署員ガ災後ニ執掌スベキ事務ノ多事多端ナリシトハ自ラ警察力ノ充實ヲ缺クニ至ラシメタレバ、本廳ハ卽時軍隊ノ出動ヲ要求シ、遂ニ戒嚴令ノ實施ヲ見タレドモ一般民衆ハ萬一ノ變ヲ慮リテ警察力ノ充實ヲ俟ツニ遑アラズ、各々自衞ノ手段ヲ講ジテ之ニ備ヘントシ、自警團ヲ組織セルモノ尠ナカラズ、更ニ其翌二日不逞鮮人暴行ノ流言アルニ及ビ、益々危惧ノ念ヲ抱キ市部各町村一齊ニ自警團ヲ組織シテ、或ハ要所ヲ扼シ、或ハ部內ヲ巡行シテ通行人ヲ誰何、訊問シ、苟モ言語、面貌ニシテ鮮人ニ類似セルモノアラバ直チニ之ヲ捕ヘテ本廳又ハ各署ニ同行シ、其間暴行迫害ヲ加ヘタル事モ尠ナカラズ、斯クテ流言ノ發展ニ伴ヒ、狂暴ナル行動ヲ爲スニ至レル一斑ハ、既ニ前章（第二章參照及ビ上文（第一節參照））ニ述

ベタルガ如シ。要スルニ自警團設立ノ目的タル、其當初ニ於テハ各自ノ生命・財産・自由ノ防衞及ビ相互扶助並ニ罹災者ノ救護ニアリタレドモ、流言一度出ヅルヤ、專ラ鮮人ノ來襲ニ備フルヲ以テ最大ノ目的ト爲スモノ多數ヲ占メタルガ如シ、

第二　自警團ノ組織及ビ其箇數

自警團ノ組織ハ必ズシモ一樣ナラザレドモ、概ネ各町村ノ青年團、在鄉軍人團、消防組等ヲ中堅トシ、町會・夜警團・睦會及ビ其他ノ有志ヨリ成ル。九月十六日ノ調査ニ依レバ、市部ニ五百六十二、郡部ニ五百八十三團體アリ、市內ニ於テハ牛込區ノ百十ヲ最高トシテ、芝區ノ百九、四谷區ノ七十四之ニ亞キ、神田區ノ三、淺草區ノ二ハ其最モ少キモノナリ、蓋シ燒失地域ハ戶口未ダ舊ニ復セズ、其少數ナルハ當然ナリト言フベシ、サレバ日本橋・深川ノ兩區ノ如キハ遂ニ其成立ヲ見ザリキ。更ニ郡部ニ於テハ王子ノ七十八ヲ最高トシ、淀橋ノ七十、巢鴨ノ五十五、世田ヶ谷ノ四十六、品川・戶塚ノ各三十七等之ニ亞ギ、田無・五日市ノ各一ヲ最少トス。今十月二十日ノ調査ニ係ル各署管內ニ於ケル自警團ノ數及ビ一組ノ員數ヲ示セバ左ノ如シ。

自警團ニ關スル調査

（市部）

署名	團體數	一組ノ員數
麴町	三〇	自 三〇—二〇〇
日比谷	一	七— 八
錦町		
西神田	三	七八—七五〇
外神田		
久松	一	八
堀留		
新場橋	一	二四
築地		
北紺屋	二	四八
月島		
愛宕	一〇	二一—一三六
三田	四三	四— 一二
高輪	五八	一〇〇

鳥居坂	三九	二〇—二〇〇									
六本木	三八	四—六									
表町	三七	三—二五〇									
青山	二八	三—六									
四谷	八一	三—六									
神樂坂	七一	一〇—七〇〇									
早稻田	五三	一六—四九五									
富坂	五〇	一〇—一五									
大塚	四二	四—一〇									
本富士	五四	八—五二〇									
駒込	七四	一〇—五八五									
上野	一	八—一〇									
坂本											
谷中	四六	二—九									
象潟											
日本堤	一	二〇									
南元町	一	二〇									
七軒町	一	一〇〇									

（郡部）

相生	一	一									
太平											
原庭											
向島	八	二—四									
西野平											
扇橋											
洲崎											
水上											
計	七七四	二二—七五〇									
品川	八〇	一〇—一〇〇									
大崎	八〇	一六—二五〇									
大森											
世田谷	二三	二〇—六〇									
淀橋	一一二	一四—三五〇									
戸塚	四六	八—四〇〇									
中野	一七	五—八									

澁谷	四	三六—一四六
巣鴨	四五	二五—五〇〇
王子	三四	三—一五
板橋	四九	二—三
南千住	二〇	二〇—一〇〇
日暮里	二三	一二—二七一
千住	六一	一八—二六〇
寺島	六〇	一二—五〇〇
亀戸	七	二〇—三〇〇
小松川	四〇	六〇—一五〇
八王子		
町田	三	三—五
府中	一七	二—三〇
田無	八〇	二〇—五〇
青梅		
五日市	一〇	四〇—六〇
計	八一〇	二—五〇〇
合計	一五、八四	二—七五〇

斯ノ如ク、市部七百七十四、郡部八百十、合計千五百八十四團體ノ多數ニ上リタリシガ、其團員ハ、當初概ネ壯年者ナリシモ、一般秩序ノ恢復セラレテ各々其ノ生業ニ就クニ及ビ、團員漸次其負擔ヲ厭フモノ多ク、遂ニ之ヲ補充センガ爲ニ、老・幼・婦女ヲモ加入セシムルモノアルニ至レリ。

自警團中ニハ、在郷軍人ノ如ク、團體的訓練ヲ受ケタルモノアレドモ、之ヲ缺キタルモノモ亦多ク、且其指導者ニ於テモ、團體ニ對スル指導宜シキヲ得テ、事宜ヲ誤ラザリシモノアルト共ニ、其人ヲ得ザルガ爲ニ、團隊トシテノ統制全ク紊レ、過激粗暴ノ行動ニ出テタルモノモ亦尠ナカラズ。今之ヲ概觀スルニ、團體トシテノ機能ヲ完備セザルモノ多數ヲ占メタルガ如シ。

第三 自警團ノ性質及其行動

自警團ガ團體トシテ機能ヲ完備セザルモノ多數ヲ占メタルノ結果、秩序節制ヲ缺キ、遂ニ民衆ヲシテ過激粗暴ノ行動ニ出デシメタル素因ヲ爲セルコトハ、上述ノ如クナレドモ、畢竟スルニ、事ノ玆ニ至レル所以ノモノハ、群衆心理作用ニ基ケルノミ、從ウテ這般ノ現象ヲ觀察スルニ當リ、必ズシモ之ヲ訓練ノ缺乏・指導者ノ不適任

ニノミ歸スベカラザルニ似タリ。

是ヨリ先、九月二日午前、鮮人來襲ノ流言、一度傳播セラルヽヤ、民心頓ニ激昂シ、其日ノ午後ニ至リテ、各町村一齊ニ自警團ヲ組織シテ之ニ備フルト共ニ、單純ナル集團ハ集合的意志ヲ有スル群衆ト化シタリ、是ニ於テ團員ハ各自刀劍・木刀・混棒・竹槍・銃ヲ始メ鳶口・鍬・玄能・熊手・鎌・鋸等、凡ユル兇戒器ヲ執リテ町村ノ要所及ビ出入口ニ非常線ヲ張リ、通行人ニ對シテ嚴重ナル訊問ヲ開始シ、鮮人ノ疑アル者ハ直ニ之ヲ警察署ニ同行セリ、此時ニ方リテ、群衆中、若シ或ハ暴力ヲ揮ヒ、或ハ煽動的暗示ヲ爲スモノアラバ、直チニ附和雷同シテ、狂暴ナル行動ヲ敢テスルニ至ル、蓋シ群衆化セル民衆ハ殆ンド無意識ノ境地ニ彷徨スルモノナレバ、忽チ暗示ニ盲從シテ理性ノ判斷ニ訴フル事能ハザルヲ以テナリ。サレバ自警團員ノ如キ個人トシテハ充分ナル學識修養ヲ有シ、平常ニハ沈着ニ事ヲ處理シ得ル者、又ハ極メテ柔弱臆病ノ者ト雖、既ニ群衆ニ同化セル後ハ同一ノ思想・感情ニ依リテ支配セラレ、彼等ガ群衆ト離レテ單獨ニ獨居セルノ場合ニハ、敢テ爲サヾルベキ行動ヲモ平然トシテ之ヲ遂行スルナド、全ク責任ノ觀念ヲ失ヒ、眼中亦軍隊ナク、警察ナシ。苟モ團體ノ力ヲ以テ征服シ得ルモノハ弱者トシテ蔑視セントスルノ傾向ヲ示セリ、今其弊ノ著シキモノヲ列擧スレバ左ノ如シ。

(a)、鮮人ト認メタルモノハ其犯行ノ有無、善惡ノ如何ヲ問ハズ直ニ之ヲ迫害シテ非常ナル危險ニ陷ラシメタル事。

(b)、獨リ鮮人ノミニアラズ、假令同胞ナリトモ言語ノ不明瞭ナルモノ、群衆ノ氣勢ニ恐レテ應答ニ逡巡セルモノ、理由ナキ暴行ニ激怒セルモノ等ニ對シテハ忽チ苛虐ノ處置ニ出デ、或ハ之ヲ殺傷セルモノ亦尠カラザルノミナラズ、一般人ノ通行ハ自由ヲ失ヒ、危險甚シク、自警團ノ行動ハ却テ秩序ノ破壞トナレル事。

(c)、團體ノ勢力偉大ナルヲ自覺スルヤ、之ヲ惡用シテ暴行・掠奪・殺傷ヲ擅ニシ、官憲ノ權力的執行ヲ無視スルノ傾向ヲ生ジタル事。

(d)、鮮人中軍人又ハ警察官ノ服裝ヲ爲セルモノアリトノ流言ニ依リ警戒救護ノ任務ニ當レル軍人、警察官ニ、暴行ヲ加ヘ、職務ノ執行ヲ阻礙スルモノアリシ事。

(e)、秩序ノ漸ク恢復セラレテ、自警團員中、生業ニ就クモノ多ク、其結果自ラ團體ヘノ加入ヲ厭フモノヲ生ズルヤ、老・幼・婦女ニ至ルマデ加入ヲ強制シ、又ハ加入セ

ザルモノニ對シテハ、寄附金ヲ强要スルモノアリシ事。

情勢既ニ斯クノ如クナレバ、本廳ハ速ニ其弊害ヲ除キ、自警團ヲシテ善良ナル自治機關タラシムル事ノ、治安保持上ニ於テ最モ緊要ナルヲ認メ、九月三日以降、或ハ戎兇器ノ携帶ヲ禁ジ、若シ命ニ背クモノアラバ之ヲ押收廢棄シ、或ハ戒嚴司令部ト協力シ、自警團ノ任務ヲ、主トシテ救護事務ニ局限シ、許可ヲ受ケテ警戒ニ任ズルモノト、雖、必ズ軍隊憲兵又ハ警察官ノ指揮ヲ受ケシメタル外、市・郡要所ニ軍・警協力ノ檢問所ヲ開設シテ、警戒ノ實權ヲ官憲ノ手ニ掌握セルガ爲、九月七日頃ニ至リテ漸ク鎭靜ニ歸シ、軍隊・警察官ノ指揮ノ下ニ整然救護・警戒事務ニ從事セシムルコトヲ得タリ。而シテ自警團ニ對スル加入、又ハ寄附强要ノ如キ餘弊ニ對シテモ嚴ニ取締ヲ勵行シ、之ヲ匡正シタル事ハ、前述如シ。（第二章參照）

第四　自警團員犯罪ノ檢擧

自警團員ノ犯罪ハ、概ネ流言ニ刺戟セラレタル群衆心理ノ作用ニ基キ、個人トシテノ意識アル行爲ニアラズ、群衆ヲ離レテハ、彼等ハ皆善良ナル市民タリシナリ、故ニ個人ト、群衆ト自ラ區別シテ觀察スベキモノナルヲ以テ、其犯罪ニ對シテ個人ノ責任ヲ問フガ如キハ誠ニ忍ビザルモノアリト雖、若シ群衆ヲシテ狂奔スルガマヽニ放任セシカ、勢ノ激スル所殆ンド底止スル所ヲ知ラザラントス。惟レ、治安保持ノ重任ニ膺レル本廳ノ座視傍觀スベキニアラズ、犯罪ノ重大ナル者ヲ檢擧シテ、群衆ノ行動ヲ抑制スル、亦當然ノコトニ屬ス。是ニ於テ本廳刑事部ハ、九月四日未明ヨリ、市郡各警察署管內ニ部員ヲ派遣シテ、自警團員ノ行動ヲ偵察スルト共ニ、捜査ヲ開始セシガ、更ニ同九日以後、刑事部長ハ、戒嚴司令部・陸・海軍法務局長・司法省刑事局長・檢事、朝鮮總督府參事官ト共ニ、連日司法事務ニ關スル特別協議會ヲ開催シ、震火災ニ伴フ、各種犯罪ノ捜査・檢擧ニ就キテ協議ヲ重ネ、以テ機宜ヲ誤ラザランコトヲ期シタリシガ、其九月中發生セル事件ニシテ、檢擧セルモノ、殺人犯百十件、傷害犯九十七件ノ多數ニ上レリ。自警團中ノ一部ガ如何ニ狂暴ナル行爲ヲ敢テセルカノ一斑自ラ明カナルベク、而シテ被害者ノ大部分ハ、朝鮮人ト誤認セラレタル同胞ナリシヲ見テモ、群衆ノ勢力ノ偉大ニシテ、且猛烈ナリシコト、蓋シ思半バニ過グルモノアラン。（第六章參照）

第五　自警團ノ解散

本廳ガ流言ニ依リ、誤謬ニ陷リタル群衆ノ指導ト、取締トニ不斷ノ努力ヲ拂ヒ、其犯罪ニ渉ルモノハ、法ニ據リテ之ヲ處分スルト共ニ、一ハ以テ民心ノ歸趨ヲ知ラシメ、一ハ以テ警戒救護ノ充實ヲ怠ラザリシ結果、將ニ破壞セラレントセル秩序モ亦漸次恢復シタレバ、十月ノ末ニ至リ自警團ヲ解散スルモノ簇出シ、十一月七日ノ調査ニ依レバ、夜警團又ハ火ノ番ト稱スルモノニシテ、警察署ノ許可ヲ受ケタルモノ、市部三百三十三、郡部六百七十七、總計千七百七十團體ヲ算シタレドモ、今ヤ再ビ狂暴ノ行爲ヲ爲スモノナク、專ラ夜盜ト、放火トニ備フルノミ、且、各自警團ナル名稱ヲ嫌惡シテ又之ヲ使用スルモノナク、一時專橫ヲ極メタル自警團ハ、震火災後約二ケ月ニシテ名實共ニ消滅セリ。

然レドモ、上文ニ擧グル所ハ、自警團ノ暗黑ナル一方面ニ過ギズ、其善良ナルモノニ至リテハ、能ク團體ノ任務ト、權限トヲ自覺シ、警備ニ救護ニ、又或ハ食料其他ノ配給ニ努力シテ、自治ノ本務ヲ完ウセルモノモ多シ、而シテ之アリシガ爲ニ警察力未ダ充實セザルノ際民衆ハ枕ヲ高クシテ安眠スルヲ得タルモノアリシノミナラズ、治安保持ノ上ニ力ヲ添ヘタル所亦尠カラズ、其功遂ニ沒ス可カラザルナリ。

憾ムラクハ、一般集團ノ群衆化ニ依リテ、殆ンド無意識ノ間ニ、或ハ自己ノ利益ニ背反シ、或ハ自己ノ習慣ト相容レザル行動ヲ敢テセルモノアリシト共ニ、官憲ニ於テモ未ダ嘗テ斯ノ如キ大規模ナル心理的群衆ノ諸現象ニ接シタル經驗稀ナルト、諸種ノ障碍錯綜シテ起リタルトノ爲、之ガ指導、取締ニ異常ノ困難ヲ感ズルニ至レル所以ナリト認ム。是レ實ニ今回ノ災變ガ齎シタル最大敎訓ノ一トシテ、官民共ニ、永ク服膺シテ、將來ノ規箴ト爲ス可キモノナラン。

第四節　新聞紙及ビ出版物ノ取締

震火災ノ後都下ノ住民ハ其罹災者タルト否トヲ問ハズ、悉ク衣食住ノ窮乏ニ苦シミ、生活上ノ不安ヲ感ズルト共ニ、古今未曾有ノ大慘害ニ刺戟セラレテ、人心漸ク動搖セントスルノ際、恐ルベキ流言蜚語ノ傳播セラルヽヤ、忽ニシテ集合的意志ヲ有スル心理的群衆ニ變化シ、其行動ノ如キモ亦漸次惡化セントスル傾向ヲ示シタリ。此時ニ方リ、新聞紙及ビ各種出版物ニシテ、更ニ民心ヲ搖動セシムルガ如キ記

事アラバ、其結果眞ニ憂フベキモノアリ。是ニ於テ本廳總監官房特別高等課檢閲係ニ於テハ、九月一日震災直後ヨリ、銳意之ガ取締ニ任シ、各署高等係ヲ督勵シテ、管下新聞紙、出版物ノ納本取締地方新聞紙ノ取締及ビ記事ノ差止檢閲並ニ差押ノ執行ニ全力ヲ傾注シ、兼ネテ各社ニ對シ、正確ナル新聞記事材料ヲ發表シテ、噓報ノ揭載傳播ヲ豫防スルト共ニ、安寧秩序ヲ紊シ、風俗ヲ害スル記事ニ對シテハ、嚴重ナル取締ヲ勵行シテ司法處分ニ附スル等、機宜ノ處置ニ出デタリシガ、會慘死體ヲ撮レル繪葉書及ビ、春畫並ニ陰部露出寫眞ヲ密賣スルモノ簇出スルノ傾向アリシヲ見ルヤ、更ニ周到ナル搜査方法ニ依リテ、其原版ノ差押ト、違反者ノ檢擧トニ銳意シ、以テ取締ノ徹底ヲ期セリ。今左ニ項ヲ分チテ其大要ヲ記サントス。

第一　事務ノ分掌

九月一日、本廳事務所ヲ府立第一中學校ニ移スヤ、橘檢閲係長ハ部下ヲ指揮シテ活動ヲ開始シ、先ヅ事務分擔ヲ左ノ如ク定メタリ。

事務分掌

事務	擔當者
新聞紙及出版物ノ檢閲	橘係長、芥川警部、大谷警部、川口警部、小原警部補
新聞紙出版物內閲及原稿檢閲	右同、
新聞紙、出版物發行情況、調査、納本取締、	右同、外巡査部長二、巡査二、
禁止新聞紙、出版物差押	各警察署手配及監督並內務省其ノ他官廳トノ交涉	右同、（係長警部三、警部補一ノ）
	差押、執行及發行所內偵係	巡査部長二、巡査二
新聞紙宣傳及材料發表		係長
新聞紙出版物、關係司法處分		芥川警部、小原警部補
記事差止及記事注意		係長警部三、警部補一
突發事務及其他一般庶務		係長、警部三、警部補一、書記一、臨時傭員一、小使一

第二　新聞紙及ビ出版物發行情況ノ調査

第四節　新聞紙及ビ出版物ノ取締

新聞紙及ビ出版物ノ取締ヲ勵行セントセバ、豫メ先ヅ震火災ニ因ル各發行所ノ被害並ニ新聞紙出版物ノ發行情況等ヲ知ラザル可カラズ、是ニ於テ、九月二日未明ヨリ市内各方面ニ渉リテ之ヲ調査スルニ、日刊大新聞十七社中、類燒又ハ倒壞ヲ免カレタルハ東京日々・報知又ビ都ノ三社アルノミ、其他ノ雜誌・新聞ハ全ク印刷發行ノ能力ヲ失ヒ、殘存セル東京日々ノ如キモ、震災翌日ハ僅カニ假名活字ニ依リ、又報知新聞ハ謄寫版ニ依リテ形式的ニ號外ヲ發行シ得タルニ過ギズ、其他ノ各社ニ至リテハ、假事務所ヲ設ケテ非常手段ヲ採リ、或ハ市内殘存ノ印刷所ト交渉シ、或ハ近縣所在ノ印刷所ニ依賴シ、甚シキハ遠ク京阪ノ印刷機ニ依ルナド其苦心容易ナラザリシガ如シ。今、同四日ノ調査ニ係ル大新聞社・通信社ノ假事務所ヲ示セバ左ノ如シ。

東京日々新聞	異狀ナシ	
報知新聞		
都新聞		
東京朝日新聞社	帝國ホテル内	
日本電報通信社	芝三田慶應義塾内	
國民新聞社	京橋區北紺屋町新築地	
時事新報社編輯部	麻布區龍土町一〇山田方	
時事新報發行所	四谷區尾張町萬月堂	
讀賣新聞社	勸業銀行正門内	
萬朝報社	麹町區丸ノ内帝國農會内	
中央新聞社	報知新聞社内	
東京毎日新聞社	赤坂區南町七丁目赤坂支局内	
中外商業新聞社	麻布區飯倉片町飯倉館前	
帝國通信社	芝區芝浦南濱町十一番地杉浦方	
東京毎夕新聞社	牛込區南榎町	
東京大勢新聞社		
大東京新報社		
やまと新聞社		

二　六　新　報　社

更ニ各社ノ發行能力ヲ按スルニ、九月四日ニ至リテ、東京朝日、時事新報、中外商業新報、千代田通信ジヤパンタイムスハ、前日來發刊セル都、東京日々、報知ノ三新聞ト共ニ、不完全ナガラ新聞紙ノ頒布ヲ爲シタリシガ、日ヲ逐ウテ其數ヲ增加シ、同六日本廳ニ於テ檢閲セル日刊大新聞及ビ通信ハ、東京朝日新聞外九種、翌七日ニハ東京朝日新聞外十三種ニ及ビ、更ニ數日後ニハ大勢新聞・大東京新報以外ノ十五社ハ悉ク震災前ノ當態ニ復歸セリ。然レドモ雜誌社ノ復舊ハ著シク遲延シ、十月中旬漸タ定期刊行物ヲ發行シ得ルノ有樣ナリシガ、經營困難ノ爲ニ、廢刊セルモノモ亦尠ナカラズ、斯クテ十二月末日迄ニ廢刊ヲ屆出テタルモノ百九十二種ノ多キニ及ベリ、今試ニ十二月一日現在ヲ以テ之ヲ前年度ト比較スルニ左ノ如シ。

管下新聞紙數比較

大正十一年十二月一日現在	一、一四九種
大正十二年十二月一日現在	一、一四一種

兩年度ノ比較僅カニ八種ノ差アルニ過ギザルガ如タナレドモ、十二年八月末日現在ニ依レバ千二百三十八種ニ達シ、ナホ漸次增加ノ傾向アリタルニ、九、十、十一ノ三箇月間ニ九十七種ノ激減ヲ示セルモノ、蓋シ震火災ノ影響ニ基ケルナリ。

第三　新聞紙及ビ出版物納本ノ取締

管下千餘種ノ新聞通信雜誌ヲシテ納本ノ正確ヲ期セシムル事ハ、平常ト雖、至難トスル所ナリ、況ヤ災後混亂ノ時期ニ於テヲヤ。然レドモ人心動搖ノ機會ニ乘ジ、不穩文書ノ頒布、危險思想ノ宣傳ヲ試ムルモノ之レ無キヲ保セズ、是ニ於テ、我檢閲係ハ各署高等係ヲ督勵スルト共ニ、或ハ直接各社ヲ歷訪シテ取締ノ徹底ヲ期シ、或ハ深夜風雨中、自警團ノ專橫ヲ極ムル危險區域ヲ冒シテ目的ノ遂行ニ努メ、又或ハ市內各署ニ於テ買上ゲヲ爲シ、無納本社ヲ司法處分ニ附スル等、萬全ノ策ヲ講ジタル結果、九月中旬ニ及ビテ各社共、正確ニ納本ヲ爲スニ至リ、幸ニシテ出版物ヲ利用スル不穩計畫ヲ未然ニ防止スルヲ得タリ。

第四　地方新聞紙ノ取締

災後東京市內ノ日刊新聞紙ガ發行不如意ナルニ乘ジ、近縣發行新聞紙ノ競爭的移入行ハレンガ、中ニハ流言浮說ヲ不用意ニ揭載シテ、人心ヲ動搖セシムルモノナ

キニ非ズ、其市内ニ頒布セラルヽニ先チ、敏速ナル取締ヲ爲スノ必要アルヲ認メ、深夜又ハ早朝ニ、各停車場ニ出張シテ發見ニ努メ、不穩記事アルモノヽ、禁止處分ヲ勵行シ、以テ取締上遺算ナキヲ期セリ。

第五　記事ノ取締

(一)記事ノ差止

新聞・雜誌ノ社會ニ於ケル勢力ノ偉大ナル、以テ人心ヲ動搖セシムルヲ得ヘク、又之ヲシテ安靜ナラシムルヲ得ベキコト、今更贅說ヲ要セズ、要ハ其用意ノ如何ニアルノミ。故ニ本廳ハ各社ガ其揭載事項ニ關シテ、周到ナル注意ヲ拂ヒ、努メテ不正確又ハ不穩ナル記事ヲ避クルト共ニ、當局ト協力シテ速ニ人心安定ノ功ヲ奏セン事ヲ希ヒ、九月一日內務省警保局ト協議ヲ遂ゲタル後、同局長ノ名ヲ以テ左記懇談書ヲ各社ニ發シタリ。

『今回ノ災害ハ邦家ノ大不幸事ニ有之、一刻モ速ニ大災ヲ鎭定シ救護事業ヲ遂行セムガ爲、各方面ニ於テ死力ヲ盡シテ努力致シ居リ候次第ニ御座候處、此際出來得ル限リ人心ノ不安ヲ少カラシメ、救護事業等ノ刻々圓滑ニ進捗セムコトヲ祈念致居候ニ就テハ、速ニ人心ノ安定ヲ計ルコトハ最モ緊要ト存セラレ、新聞紙ノ御協力ハ此方面ニ於テ、特ニ希願シテ已マザル處ニ御座候間、新聞記事ニ就テハ人心ノ不安ヲ增大サルヽ如キ風說ハ努メテ避ケラレ、是チ安定セシムベキ各種ノ事情ハ努メテ速報ヲ期セラレ候樣徹底的ニ御配慮ヲ相願度玆ニ赤誠ヲ披瀝シテ邦家民人ノ幸福ノ爲右御願申上候

然ルニ翌二日午前ヨリ、鮮人暴動ノ流言蜚語頻リニ宣傳セラレ、人心ノ動搖益々甚シキニ至リシカバ、萬一誤報・虛傳ノ新聞記事ニ現ハル、ガ如キ事アランカ、其ノ影響スル所極メテ大ニシテ延イテ、都下ノ騷擾ヲ釀スノ虞ナキニ非ラザルヲ思ヒ、同三日各日刊新聞社ニ對シテ左記警告書ヲ發シタリ。

『朝鮮人ノ妄動ニ關スル風說ハ虛傳ニ亙ル事極メテ多ク、非常ノ災害ニ依リ人心昂奮ノ際、如斯虛說ノ傳播ハ徒ニ社會不安ヲ增大スルモノナルヲ以テ、朝鮮人ニ關スル記事ハ特ニ愼重ニ御考慮ノ上、一切揭載セサル樣御配慮相煩度、尙今後如上ノ記事アルニ於テハ發賣頒布ヲ禁止セラルヽ、趣ニ候條御注意相成度』

本廳ハ各社ニ對シテ警告ヲ發スルト共ニ、正確ナル事實ヲ民衆ニ知ラシメンガ爲、每日二回(午前十時午後一時)檢閱係ニ於テ新聞記事材料ヲ發表スル事ト爲シ、卽日之ヲ各社ニ告示セリ。尙此日不穩宣傳文ヲ各所ニ貼付セルモノアリトノ風說ヲ耳ニスルヤ橘係長ハ部下ト共ニ、市・郡各所ニ出動シテ取締ノ徹底ヲ期セル事ハ、旣ニ上文ニ

述ベタルガ如シ。此時ニ方リ、各新聞雜誌業者等ハ、震火災ヲ題材トセル印刷物ノ發刊ヲ企ツルモノ多ク、概ネ徒ラニ拙速ヲノミ尊ビテ、其内容ヲ精選セズ、却テ民衆ノ好奇心ニ投ズルガ如キ記事及ビ寫眞ヲ掲載スルノ虞アリ。是ニ於テ、九月十六日正力官房主事ハ各署長ニ對シテ左記通牒ヲ發シ、專ラ其取締ニ任ゼシムルト共ニ、日刊新聞通信ノ原稿ヲ始メ、一般出版物ノ内閲ヲモ檢閲係ニ於テ實行スル事ト爲シタリ。

新聞雜誌掲載記事ニ關スル件（九月十六日檢發第四〇號）

管下各雜誌、新聞社ハ豫定ノ内容ヲ變更シ、震災ニ關スル記事ヲ滿載セムトスル聞エ有之候處、該雜誌、新聞紙ニシテ其ノ口繪等ニ、禁止處分ニ附セラレタル慘狀寫眞ヲ掲載シ、其ノ内容記事ニ就テハ朝鮮人ノ妄動ニ關スル風說ヲ其ノ儘ニ、又ハ内鮮人ノ鬪爭云々等ノ記事ヲ掲載スルノ虞アリト思料セラレ候條、此際右樣ノ寫眞及斯ノ如キ記事ヲ掲載スルニ於テハ禁止處分ニ附セラルヽヤモ計ラレザル旨貴署管内ノ各雜誌、新聞社（此際新ニ署ノ管内ニ轉入シタルモノヘモ）ニ對シ、洩レ無ク御示達相成度候。

追テ原稿又ハ校正刷ヲ官房檢閲係ニ提出シ、内檢閲ヲ經タル後發行スル樣併セテ御懇談相成度。

九月十八日東京地方裁判所檢事局ヨリ戒嚴地域及ビ群馬、栃木兩縣下ニ於ケル朝鮮人ノ犯罪及ビ朝鮮人ニ對スル犯罪ノ搜査並ニ檢擧ニ關スル一切ノ記事差止ノ傳達アリシカバ、木下刑事部長ハ直ニ之ヲ各署長ニ指示シ、併セテ各新聞、通信社ニモ記事差止ノ通告ヲ發シタリ。幾モナク甘粕事件ノ起ルヤ、同二十日各新聞雜誌、通信社ニ對シ、憲兵司令官及ビ憲兵隊長ノ停職並ニ甘粕大尉ノ軍法會議ニ附セラレタル件ノ記事差止ヲ爲シ、尋テ社會主義者ノ行衞不明其他是ニ類スル記事ノ差止ヲモ爲シタリシガ、二十四日ニ至リ陸軍當局ノ同事件ニ關スル發表アリタレドモ、之ヲ以テ記事ノ解禁ト誤解ス可ラザル旨ヲ通告シテ其注意ヲ促シタリ。

越エテ十月一日警保局長ノ通牒ニ基キ、支拂猶豫令ニ據ル支拂延期滿了後ノ記事掲載方ニ關シ、各新聞、通信、雜誌社ニ對シ、又左記ノ警告ヲ發ス。

記

震災後ノ經濟界ニ關スル記事ニ就テハ、一層愼重ノ態度ニテ御取扱ヒノコト存セラレ候ガ、御承知ノ如ク支拂猶豫令ニ依ル震災地方ニ於ケル支拂延期滿了後ノ財界モ亦懸念ナシトセス、萬一取付等ノ事故發生シタル場合ニハ申ス迄モナク、常ニ事實ノ確報ニ止メ、苟クモ誇大煽動ニ渉ルガ如キコトナキ樣爲念御注意申上候

然ルニ十月四日内務省ヨリ

第四節　新聞紙及ビ出版物ノ取締

甘粕大尉事件、八日午前九時第一師團軍法會議ニテ公判開延公開セラル、混雜ヲ防グ爲傍聽券ヲ發行ス。

追テ、是等範圍ノ事項ニ關シ既ニ新聞紙上ニ掲載セラレタル記事ハ禁止ノ必要ナシ、尙公判ノ内容ヲ掲載スルノ可否ニ就テハ追テ當省ヨリ通報ス。

トノ電話通牒ニ接シタルヲ以テ、同六日各日刊新聞通信社ニハ左記通告ヲ發シ、其他ノ雜誌、新聞社ニハ所轄警察署長ヲシテ之ヲ通告セシメタリ。

甘粕大尉事件ノ公判開延ハ陸軍當局ノ公表ノ如クニシテ、去月二十日附同事件ニ關スル記事差止モ解除遠カラズト存セラレ候ガ、解禁後ニ於テモ左記各項ニ就キ充分御注意相成度豫メ貴意ヲ得候。

追テ記事差止解除ノ時期ハ改メテ御通知申上候間併テ御含ミ置被下度。

記

(a)公判ノ内容ハ豫測シ難キヲ以テ或ハ公安ヲ害スルモノトシテ掲載ヲ禁ズベキ部分アルヤモ測ラレザルコト。

(b)公判ノ記事トシテ記載スルモ報道正確ナル場合又ハ不穩ナル批評ヲ加ヘ、其ノ結果公安ヲ害スト認メラルヽモノアルトキハ行政處分ニ附セラルルヤモ測ラレザルコト

(c)公判記事以外ニ同事件ニ關スル記事ニシテ、公安ヲ害スト認メラルヽ場合ハ行政處分ニ附セラルルヤモ測ラレザルコト。

翌七日ニ至リテ、再ビ内務省ノ通牒ニ接ス、曰ク、

明八日午前十時ヲ期シ、甘粕大尉事件ノ記事ハ差止解除ス。

是ニ於テ、本廳ハ、右ノ通牒ニ基キ、翌八日ノ午前十時ヲ以テ甘粕事件ニ關スル記事差止ヲ解除シタレドモ、同日更ニ、

甘粕事件ニ關シ、第二回被告調書中、森慶次郎陳述ノ「隊内ニテ主義者ナヤツツケタ方ガイヽトテフ話ハ毎日ノ樣ニ云々」及該人訊問調書中、小山介藏陳述ノ「一日夜云々」ヲ掲載シタル時ハ、場合ニ依リ禁止處分ニ附セラルヽ趣ニ付左樣御了知相成度。

トノ電話通牒ヲ内務省ヨリ受領セシカバ、卽日之ヲ各新聞通信、雜誌等ニ通告セリ。

既ニシテ社會主義者行衞不明ニ關スル新聞記事差止ノ件モ亦、十月十日午後三時ヲ以テ龜戸署管内ノ事件ニ限リ、解禁スベキ旨同省ヨリ電話通牒アリシヲ以テ、直ニ夫々ノ手續ヲ了シタリ。

(二)記事檢閲

(a)印刷物ノ檢閲

震災ト同時ニ本廳ハ内務省圖書課ト協定シテ震災前ノ如ク新聞紙法ニ據ル新聞雜誌、通信ノ檢閲ハ勿論、出版法ニ據ル一般出版物ノ檢閲及ビ處分ヲ委任セラレ、

九月五日ニ至リテ又警保局長ヨリ鮮人暴動ノ風說並ニ不穩行動ヲ煽動シ、經濟界ヲ攪亂スル記事ノ行政處分ニ關スル通牒ニ接シタリシガ、同七日ニハ治安維持令ノ發布セラルヽアリ、二十日ニハ地方廳ニ於ケル檢閱取締方ニ關スル警保局長ヨリノ通牒アリシヲ以テ、檢閱事務ハ益々繁多ヲ極ムルト共ニ、更ニ一層ノ嚴密ヲ加ヘタリ。同月廿日ノ警保局長ノ通牒ハ左ノ如シ。

第三種郵便物ハ目下輸送力不足ノ爲手配困難ノ趣キニ付、第三種郵便物タル新聞紙、雜誌及宣傳ビラ等ノ印刷物ノ掲載事項ニシテ、左記事項ノ一ニ該當シ、其ノ情狀極メテ重大ナルモノニシテ、在來ノ例ニ徴シ明カニ禁止ノモノト認メラルモノニ限リ、第三種郵便物ノ輸送ノ開始セラルヽ迄、內務大臣ヨリ發賣頒布禁止命令アリタルモノトシテ差押ノ上報告相成度依命通牒候也

記

(一)皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆セムトスル事項。
(二)國家ノ根本組織ヲ變革セムトスル事項。
(三)大正十二年九月七日勅令第四百三號ニ規定スル犯罪事項。
(四)風俗ヲ壞亂スル事項

追テ第三種郵便物輸送開始迄、斯種印刷物ハ貴廳ニ於テ納本ヲ取纏メ、官廳郵便物トシテ當局宛郵送相成度。

斯クテ此通牒ニ基キ、檢閱係ハ新聞、雜誌ノ檢閱ニ全力ヲ傾注シ、苟モ前記ノ記事差止事項ニ牴觸スルモノアラバ、直ニ新聞紙法第二十三條及ビ出版法第十九條ニ依リテ禁止處分ニ附スルコト、爲シタリ。

(b)原稿ノ內閱

日刊新聞通信雜誌ヲ始メ、一般出版物ノ原稿內閱モ亦災後內務省ヨリ委任セラルヽヤ、原稿ノ內閱及未頒布印刷物ノ檢閱ヲ請フモノ尠ナカラズ、殊ニ前項ニ述ベタルガ如ク、九月十六日各署ニ通牒シテ各新聞雜誌社ニ對シ、原稿又ハ校正刷ヲ檢閱係ニ提出シ、內容檢閱ヲ經タル後、發行スル樣懇談セシムルニ及ビテハ、益々激增シ、事務極メテ多端ナリシト雖、各新聞通信、雜誌等ハ敏速ノ檢閱ヲ要スルヲ以テ、概ネ夜ヲ徹シテ事ニ從ヒ、安寧秩序ヲ紊スモノ、風俗ヲ害スルモノ、又ハ治安維持令ニ違反スルノ虞アルモノニ對シテハ、或ハ注意ヲ與ヘ、或ハ削除ヲ命ジタリ。卽チ不穩當ノ記事、繪畫ヲ掲載セルモ、禁止ノ程度ニ達セザリシ、九月十四日附、東京每日通信以下數十種ニ對シテハ、將來ノ注意ヲ促シ、印刷旣ニ成リテ未ダ之ヲ頒布セザリシ、九月二十六日附、大正大震災寫眞帖外十餘種ニ對シテハ掲載事項ノ削除ヲ命

ジタルガ如キハ其一例ナリ。

第六　差押ノ執行

新聞、通信、雜誌其他一般出版物ニシテ安寧秩序ヲ紊シ、又ハ風俗ヲ害シ、或ハ治安維持令ニ違反セルモノハ、新聞紙法又ハ出版法ニ據リテ發賣頒布、禁止並ニ印本、刻版ノ差押處分ヲ執行スル事トナリシガ、其處分ノ遲速ハ、實害波及ノ範圍ニ多大ノ影響アリ、就中發行所大賣捌店及ビ發着驛ニ對スル手配ハ最モ急ヲ要スルモノアレドモ、災後各署トノ連絡機關ナホ未ダ復舊セズ、不完全ナル電話ヲ使用スルノ外ナキヲ以テ、少數係員ハ命令傳達電話ノ爲ニ徹宵セル事例ニ乏カラズ、就中震災慘死體ヲ撮レル繪葉書及ビ鮮人慘死體寫眞ノ發見ニハ全力ヲ傾注セシガ、其他災後人心ノ荒廢ニ乘ジ、春畫及ビ陰部露出寫眞ヲ頒布スルモノ亦漸ク增加セルヲ以テ是レ又平素研究ヲ重ネタル系統的內查法ニ依リテ其原板ヲ差押ヘ、根本的ノ檢擧ヲ爲スヲ得タリ。今九月中ニ於ケル差押執行ノ情況ヲ記錄シテ後日ノ參考ニ供セントス。

(一)　九月五日

東京市ニ於テ發行都新聞(九月五日附號外)

右ハ安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リテ禁止處分ニ附シ各署ニ命ジテ五十五部ヲ差押セシメタリ。(當時電信電話共ニ不通)

東京市ニ於テ發行報知新聞(九月五日附第一六、七三五號)

右ハ安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リテ禁止處分ニ附シ、千三百四十九部ヲ差押ヘタリ。

(二)　九月七日

東京市ニ於テ發行東京日日新聞(九月七日附第一六、八八六號)

右ハ本月五日附通牒ノ委任事項ニ該當スルヲ以テ、新聞紙法第二十三條ニ依リテ禁止處分ニ附シ、五千百九十九部ヲ差押ヘタリ。

(三)　九月十日

千葉縣下ニ於テ發行常總新聞(九月九日附第七、四三〇號)

災後東京ニ於ケル日刊新聞ノ發行能力ノ衰頽ニ乘ジ、地方新聞ノ移入甚ダ多クシテ往々ニシテ禁止事項ヲ揭載セルモノナキニアラザルヲ以テ、橘係長ハ、其取締施行

ニ關スル部署ヲ定メ九月七日午前七時芥川川口兩警部等ヲ上野・日暮里・千住・本郷・小石川・四谷・赤坂・麻布・品川方面ニ、同八日ニハ、川口警部ヲ品川・澁谷・上野・新宿各驛ニ、同九日、十日ノ兩日ニハ芥川警部ヲ本所・深川方面ニ出動警戒セシメ、常總新聞ノ記事中安寧秩序ヲ紊スモノアルヲ發見シ(假差押ヲ爲スト共ニ之ヲ內務省ニ申報セリ。

(四)　九月十一日

東京市ニ於テ發行勞働組合(九月一日附第一卷第四號)

右ハ安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リテ禁止處分ニ付シ、五千部(印刷總部數)ヲ差押ヘタリ。是ヨリ先、本所被服廠、吉原公園等ニ於ケル慘死體寫眞ヲ作製販賣スルモノ、災後日ヲ逐ヒテ增加ノ傾向アリ、孰レモ出版法第十九條ニ依リ、禁止處分ニ附スベキモノナリト認メ、是日其既ニ押收ニセルモノヲ內務省ニ送附スルト共ニ、九月十一日市內郡部ニ亙リテ現品ノ搜査ト、發行所ノ探知トニ努力シ、其結果寫眞五種九枚及ビ原板五種五枚ヲ差押ヘタリ。

(五)　九月十二日

前日內務省ニ送付セル慘死體寫眞九種九枚及ビ類似寫眞二百餘種ハ、本日附ヲ以テ出版法第十九條ニ依リ禁止處分ニ附スル事ニ決シタルヲ以テ、各署ト協力シテ其檢擧ニ從事シ、寫眞九枚、原板四枚ヲ差押ヘタリ。

(六)　九月十三日

係員ハ慘死體寫眞ノ差押ト、發行者ノ檢擧トノ爲ニ出動シ、寫眞二十種百五十九枚、原板九種九枚ヲ差押ヘタリ。

(七)　九月十四日

東京市ニ於テ發行中央新聞(九月十四日附第一三、九一八號)

右ハ安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リ禁止處分ニ附シ、七百四十七部ヲ差押ヘタリ。

是日早朝、川口警部ハ內務省圖書課ニ赴キ、係員及ビ各署ノ活動ニ依リテ蒐集セル慘死體寫眞並ニ繪葉書ノ處分ヲ議シ、寫眞一種一枚、同上繪葉書、繪畫八十種ヲ出版法第十九條ニ依リテ禁止スベキニ決シ、各署ヲシテ差押執行ノ任ニ當ラシメタリ、然レドモ、此種ノ寫眞ハ民衆ノ好奇心ニ投ジテ需要極メテ多ク、利益亦大ナルガ

故ニ密賣者益々增加シ、其取締次第ニ困難ヲ加フ。會〻コロタイプ電氣銅版ニ依リテ多數之ヲ複製セルモノアルヲ發見シ、嚴重ナル偵察ノ結果、山梨縣下ヨリ移入シタル事實闡明セシカバ、同日山梨縣警察部長ニ打電シテ其手配ヲ要求シタルニ、

「甲府市櫻町三六寫眞館畑野政治方ニ於テ印刷ニ供シタル慘死體ノ寫眞原板二種及寫眞一千六百枚ヲ、貴管下本鄕區吉祥寺町二四精美堂ヘ鶴田某ガ本月十二日持チ歸リタリ手配乞フ」

トノ返電アリ、之ヲ調査スルニ既ニ、本廳ニ於テ差押ヲ執行セルモノナルヲ知レリ。

(八)　九月十五日

慘死體寫眞及ビ繪葉書取締ノ爲係員四名ハ靑山芝澁谷ノ各方面ニ出動シ、寫眞四百八十五枚原板二十枚ヲ差押ヘタリ。

(九)　九月十六日

係員五名ハ各署ト協力シテ、慘死體寫眞及ビ繪葉書繪畫ノ取締ニ從事シ、麴町區富士見町「新シキ婦人界社」ニ於テ、繪葉書五千組ヲ、小石川區表町國友次郎方ニ於テ五百組ヲ、又其他ニ於テ慘死體寫眞一千九百九十二枚ヲ差押タリ。

(一〇)九月十七日

東京市ニ於テ發行輸出入新聞(九月十七日附)

右ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リテ禁止處分ニ附シ、八百九十四部ヲ差押ヘタリ。

是日係員ハ麻布・千駄ヶ谷・澁谷ノ各方面ニ出動シテ、慘死體寫眞七十七枚ヲ差押ヘタリ。

(一一)九月十八日

係員四名ハ本鄕・淺草・下谷方面ニ出動シテ、慘死體寫眞及ビ繪葉書六百七十六枚ヲ差押ヘタリ。然ルニ寫眞中鮮人ノ死體ヲ撮影セルモノアリトノ風說ヲ聞キ、極力搜査ノ結果漸ク二種ヲ發見シタレドモ、幸ニシテ復寫頒布セルモノハ極メテ少數ニ過ギザリキ。

(一二)九月十九日

『大東京大地震大火災大慘狀、大正十二年九月一日紀念スベシ』ト題スルモノ、右ハ大塚警察署ヨリノ申報ニ依リテ檢閱ノ結果、出版法第十九條ニ依リ、禁止處分ニ

附シ、之ヲ差押タリ。是日係員ハ小石川・淺草・下谷ノ各方面ニ出動シテ慘死體寫眞繪葉書百七十餘枚ヲ差押ヘタリ。

(一三)九月二十日

東京市ニ於テ發行悍馬(九月一日附)

右ハ大塚署ヨリ送付セルモノニシテ、檢閲ノ結果、風俗ヲ害スルモノト認メ、禁止處分ニ附シ、三十五部ヲ差押タリ。

是日芥川警部、外係員二名ハ、龜戸・南千住・淺草方面ニ、係員二名ハ四谷・新宿・淀橋方面ニ出動シテ、慘死體寫眞繪葉書二百二十八枚ヲ差押タリ。會〻同日ノ夕、時事新報社ガ大杉榮夫妻絞殺ニ關スル號外、約五百枚ヲ發行シ、無納本ニテ芝・麻布方面ニ頒布シタル形跡アルヲ以テ、芥川・大谷兩警部ハ卽夜芝區三田慶應義塾內同社假事務所及ビ三田豐岡町同紙印刷所、取次所等ヲ調査シ、尋テ讀賣新聞社ヲモ調査セルニ時事新報(九月二十一日附號外讀賣新聞(九月二十一日附第一六、七〇二號)ノ兩紙ハ共ニ警告記事ノ內容ヲ記載セルヲ發見シ、新聞紙法第二十三條ニ依リ禁止處分ニ附シ、讀賣紙一萬七千八百十一枚ヲ差押タルガ、時事新報社ハ無納本ナルヲ以テ、後日司法處分ニ附シタリ。

(一四)九月二十一日

係員四名ハ、早朝ヨリ市內各方面ニ出動シ、禁止寫眞、出版物、新聞紙ノ差押並發行所ノ內偵ニ從事シ、原畫三枚、原板九枚繪葉書、寫眞八千七百二十一枚ヲ差押タリ。

(一五)九月二十二日

係員一名外三名ノ高等係ハ、市內各方面ニ出動シテ、慘死體寫眞原板七枚、寫眞二百五十六枚ヲ差押ヘタリ。

(一六)九月二十三日

係員四名ハ、市內各方面ニ於テ慘死體寫眞繪葉書二千六百四十六枚及ビ原板三十七枚ヲ差押ヘタリ。

(一七)九月二十四日

東京市ニ於テ發行時事新報(九月二十五日附第一四四三六號)

右ハ安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リテ禁止ニ附シ、一萬三千部ヲ差押ヘタリ。

是日、陸軍軍法會議檢察官ヨリ甘粕大尉事件ニ關係スル通牒アリ、曰ク、

記

陸軍憲兵大尉甘粕正彥ニ、左ノ犯罪アルコトヲ聞知シ、捜査豫審ヲ終リ、本日公訴ヲ提起シタリ、甘粕憲兵大尉ハ本月十六日夜大杉榮外二名ノ者ヲ同行シ、是ヲ死ニ致シタリ。

右犯行ノ動機ハ、甘粕大尉カ平素ヨリ社會主義者ノ行動ヲ國家ニ有害ナリト思惟シアリタル折柄、今回ノ大震災ニ際シ、無政府主義者ノ巨頭ナル大杉榮等ノ震災後未ダ整ハザルニ乘シ如何ナル不逞行爲ニ出ヅルヤモ計リ難キヲ憂ヒ、自ラ國家ノ蠹毒ヲ芟除セムトシタルニ在ルカ如シ。

蓋シ本件ニ就キテハ是ヨリ、先ヅ日陸軍當局ノ發表以外ニ渉ルモノハ之ヲ禁止スベキ旨、既ニ各社ニ警告スル所アリタレドモ、是日、更ニ同記事ノ差止ハ依然存置スル事ヲ、再ビ各社ニ警告スルト共ニ、以來此發表ヲ標準トシテ檢閲ヲ開始シ、其範圍ニ渉ルモノハ差押ヲ執行セリ。

（一八）九月二十五日

東京市ニ於テ發行東京朝日新聞（九月二十五日夕刊第一三三九號）

右ハ安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リテ禁止處分ニ附シ、各署ヨシテ嚴密ナル手配ヲ爲サシムルト共ニ、小原警部補ハ特別高等係員ノ應援ヲ得テ市内要所ニ於テ三百部ヲ、發行所ニ於テ八千枚ヲ差押ヘ、各署ニ於テモ亦約三百枚ヲ差押ヘタリ。

東京市ニ於テ發行東京毎夕新聞（九月二十六日附二十五日夕刊第八、五〇四號）

右ハ安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リテ禁止處分ニ附シ、一千八百枚ヲ差押タリ。

是日係員ハ市内各所ニ於テ慘死體寫眞、陰部露出寫眞等二百九十八枚原板八枚ヲ差押タリ。

（一九）九月二十六日

東京市ニ於テ發行東京朝日新聞（九月二十七日附二十六日夕刊第一三四〇〇號）

同　報知新聞（九月二十七日附二十六日夕刊第一六七五三號）

同　東京毎日通信（九月二十六日附第一〇八九號）

同　時事新報（九月二十七日附二十六日夕刊第一四三八號）

右ハ安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リ禁止處分ニ附シ、朝日新聞ハ一萬二千三百六十二部ヲ、報知新聞ハ十七萬五百五十四部ヲ、時事新報ハ一

千三百四十九部ヲ差押ヘタリ。

是日、係員ハ芝・赤坂・小石川・下谷・淺草、上野・澁谷方面ニ出動シ、慘死體寫眞及ビ繪葉書六千六百九十一枚銅版一種、原板七種ヲ差押ヘタリ。

（二〇）九月二十七日

甘粕大尉擁護檄文一枚

右ハ大崎分署管內ノ發行ニ係リ、其ノ校正刷ヲ檢閲スルニ、安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、出版法第十九條ニ依リテ禁止處分ニ附シ、九千七百部ヲ差押ヘタリ。（印刷總部數約一萬部）

東京市ニ於テ發行、報知新聞（九月二十八日附第一六、七五四號）

右ハ不穩當ノ記事ヲ揭載セルヲ以テ注意ヲ與ヘタリ。

是日、係員ハ鳥居坂署ト協力シテ、春畫入淫本及ビ春畫同寫眞十一種一千九十部並ニ慘死體繪葉書三十六枚ヲ差押ヘタリ。

（二一）九月二十九日

東京市ニ於テ發行萬朝報（九月二十九日附第一〇、九一〇號）

同　中央新聞（九月二十九日附第一三、九三三號）

右ハ所載ノ記事安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リテ禁止處分ニ附シ、九月三十日

（二二）九月三十日

東京市ニ於テ發行時事新報（九月三十日附第一四、四四一號）

同　同　（十月一日附第一四、四四三號）

同　都新聞（九月三十日附第一二、八四一號）

同　中外商業新報（十月一日附第一三、四九〇號）

右ハ孰レモ、安寧秩序ヲ紊スモノト認メ、新聞紙法第二十三條ニ依リテ禁止處分ニ附シ、九月三十日附時事新報三千二百九部、十月一日附同新聞八萬部、都新聞七百八十六部、中外商業新報二百七十七部ヲ差押タリ。

是日、係員ハ高田雜司ケ谷及ビ上野方面ニ於テ慘死體寫眞六百九十四枚原板七種十枚ヲ差押ヘタリ。

九月中ニ於ケル差押執行ノ情況大略斯ノ如シ。今、九月一日以降十一月末日マデニ發賣頒布ノ禁止處分ニ附シタルモノヲ擧グレバ左ノ如シ。

新聞紙（安寧ヲ害スルモノ　新聞四五種　雜誌六種
　　（風俗ヲ紊スモノ　〃　三種　〃　二種
出版物　寫眞繪葉書　五二種　引札三種　單行本八種　雜誌二種

此外、他府縣ニ於テ發行セル新聞紙出版物ニシテ、地方長官ノ通牒ニ依リ、發賣頒布ヲ禁止シ、各署ヲシテ之ガ處分ヲ爲サシメタルモノ亦尠ナカラザリキ。

第七　新聞紙及ビ出版物ノ司法處分

災後新聞社及ビ出版業者ニシテ、或ハ納本ト、屆出トヲ怠リ、或ハ安寧秩序ヲ害シ、風俗ヲ紊スベキ刊行物ヲ頒布スル等、司法處分ニ附スベキモノ著シク增加セルヲ以テ、係員一同ハ違犯事實ノ發見捜査並ニ犯人ノ檢擧ニ不斷ノ努力ヲ拂ヒ、以テ、取締上遺憾ナキヲ期セリ。今九月一日以降十一月末日迄ニ本廳及ビ各署ニ於テ司法處分ニ附シタルモノヲ擧グレバ左ノ如シ。

新聞一種（安寧ヲ害スルモノ）
新聞三種（其他）　雜誌一種
出版物　禁止シタル寫眞繪葉書、其他出版物ノ販賣一六八種

第五節　要視察人ニ對スル措置

震火災ノ後、人心ノ動搖ニ乘ジテ不軌ヲ圖リ、或ハ民衆ヲ煽動シテ野心ヲ逞クセントスルガ如キモノノ必無ヲ保シ難キヲ以テ、本廳ハ特ニ意ヲ玆ニ用ヒ、不祥事件ノ發生ヲ未然ニ防遏セン事ヲ希ヒ、總監官房高等課及ビ特別高等課ニ於テハ、各其主管セル要視察人ノ住所並ニ事務所ノ所在地ヲ精査シテ、其動靜ヲ探リ、以テ取締ノ徹底ヲ期セントス。是ニ於テ、九月五日、正力官主事馬場警務部長ノ連名ヲ以テ、各署ニ指示スル所アリ、同十一日更ニ正力官房主事ヨリ通牒ヲ發シテ其監視ヲ嚴ニシ、公安ヲ害スル虞アルモノニ對シテハ檢束其他臨機ノ措置ヲ爲サシメタリシガ、（指示通牒文略）就中鮮人及ビ社會主義者ニ關スル流言ノ發生ニ關シテハ細密ナル內査ヲ遂ゲ、不逞ノ徒ノ之ニ乘ジテ不穩宣傳ヲ試ミルノ餘地ナカラシムル等、苦心大方ナラズ、幸ニシテ社會ノ秩序ヲ紊亂シ、人心ヲ險惡ナラシムルガ如キ大事變ノ發生ヲ見ルニ至ラザリシト雖、其間亦世上ノ耳目ヲ聳動セル事件ナキニアラズ、今其重ナルモノヲ概說シテ事件ノ眞相ヲ明カニセントス。

第一　龜戸事件

九月二日ノ夕、龜戸警察署管内一帶ニ「海嘯將ニ來ラントス」、トノ流言ヲ放ツモノアリ、幾モナク是流言ハ鮮人ノ傳フル所ニシテ、彼等ハ其隙ニ乘ジ掠奪、强姦等ヲ恣ニセムトスルモノナリ」、トノ風評盛ニ行ハレ、更ニ「鮮人ノ集團來襲セリ云々」、ナド云ヘル蜚語喧傳セラルヽヤ、震火災ニ依リ、極度ノ不安ニ陷レル民心ハ一層ノ動搖ヲ來シ、青年團員、在鄉軍人會員等ハ相協力シテ警戒ニ從ヒ、苟モ鮮人ヲ見レバ直ニ之ヲ捕ヘテ警察署ニ拉致スルモノ引キモキラズ、斯ル折シモ、南葛勞働會員河合善虎外九名ハ、盛ニ革命歌ヲ高唱シ、或ハ暴徒ノ襲來ニ關スル蜚語ヲ宣傳シ、或ハ斯ル際ニ井戸又ハ水道ニ毒藥ヲ投下セバ云々ナリ、ナド不穩ノ言ヲ發シ、人心ヲ攪亂スル事甚シキヲ以テ、同月三日夜十時頃、數名ノ警察官ヲ派遣シテ同人等ヲ龜戸警察署ニ檢束セリ。

是ヨリ先、九月二日ノ夜來、同署ニ收容セル內鮮人ハ七百六十餘名ノ多數ニ上リタレドモ、其警備ノ任ニ當ル者ハ僅カニ數名ノ兵士ト、十四名ノ巡査アルノミ、而モ被收容者ハ終始喧噪ヲ極メ、不穩ノ空氣收容所內ニ漲ル、此時ニ際シテ更ニ、河合善

虎等ノ拘留アリ、情勢益々險惡ヲ加ヘ、會〻同四日ノ夜、鮮人中、鮮語ヲ以テ何事カ呼號スルモノアルヤ、河合善虎等數名之ニ和シテ革命歌ヲ謳ヒ、煽動的言辭ヲ弄シ、騷擾ノ擧ニ出ヅルニ及ビ、場內全ク混亂シテ制止スベクモアラズ、是ニ於テ軍隊ノ應援ヲ求メ、河合善虎以下九名ノ勞働會員ヲ監房外ニ隔離セリト雖モ、彼等ハ遂ニ命ヲ奉ゼザルノミナラズ、狂暴ノ特ニ甚シク事毎ニ抵抗ヲ試ミ、他ノ多數收容者ニモ波及セントスルニ至リシカバ、軍隊ハ最後ノ手段トシテ、兵器ヲ使用スルノ必要ヲ感ジ遂ニ彼等ヲシテ死ニ致ラシメタリ。

第二　支那人王希天ノ行衞不明事件

大正十二年十月二十日、本邦駐劄支那代理公使ハ僑日共濟會々長支那人王希天ガ、震災ノ當時誤殺セラレタリトノ故ヲ以テ、我政府ニ抗議スル所アリ、卽チ其眞相ヲ調査スルニ是ヨリ先、九月十日、王希天ノ市外大島町ヲ徘徊スルヤ、龜戸警察署ハ萬一ノ危險ヲ虞リ、一時同署ニ收容保護ヲ加ヘ、十二日早朝之ヲ習志野救護所ニ送致セントシ、同方面警備ノ任ニ當レル軍隊ニ交附シタルニ、同軍隊係員ハ、王ガ普通支那人勞働者ト擧措ヲ異ニセルノミナラズ、日本語ニモ熟達シ、且相當ノ敎育アル

ヲ見テ、習志野ニ送致スルノ必要ナシト認メタル折柄、彼モ亦其寓所タル早稲田ニ歸還セラレン事ヲ促シテ已マズ、是ニ於テ軍隊ハ其希望ヲ容レテ放還シタルニ、遂ニ寓所ニ歸ラズシテ行衞不明トナレルナリ。

第三　甘粕事件

東京澁谷憲兵分隊長憲兵大尉甘粕正彦及ビ其部下ノ下士ガ、無政府主義者ノ首領大杉榮並ニ內縁ノ妻伊藤のゑ及ビ其甥橘宗一ノ三名ヲ殺害セル事件ハ、著シク世上ノ耳目ヲ聳動セシメタルモノナリシガ、其概要ヲ擧グレバ左ノ如シ。

(一)犯罪ノ動機

甘粕大尉ハ、豫テヨリ社會主義ニ關シテ多少研究スル所アリ、常ニ其國家ニ有害ナルヲ信ジタリシガ、就中、無政府主義ノ如キハ總テノ權力ヲ否定スルモノニシテ、我國體ト相容レザルモノナレバ、同主義者ニ對シテモ相當ノ制裁ヲ加フルノ必要アルヲ認メタリ。會〻九月一日、未曾有ノ震火災起ルヤ、不逞鮮人等ガ之ニ乘ジテ放火暴動ノ擧ニ出デントス、トノ流言喧傳セラレ、其背後ニハ社會主義者アリトノ風說サヘ行ハレタレバ、甘粕ハ平素ヨリ杞憂セル所ノ、或ハ此際ニ出現セラルヽニ非ルヤヲ疑ヒ、職務上社會主義者ニ對スル注意ヲ怠ラザルノ際、當時主義者ノ多クハ共產黨事件ニ座シテ檢擧セラレシニモ拘ハラズ、無政府主義者ノ巨頭タル大杉ガ獨リ免レテ今日ニ及ベルヲ見テ、憂慮措ク能ハズ、寧ロ之ヲ殺害シテ、國家ノ禍根ヲ除クニ若カズト爲シ、密ニ時機ヲ窺ヒタレドモ、大杉ニハ尾行巡査附セラレタルガ爲ニ容易ニ手ヲ下シ難キニ苦メリ。會〻「大杉ヲ遣付ケ度キ意嚮ノ淀橋警察署ニ存スル事ヲ傳聞スルヤ、直ニ憲兵曹長森慶次郎ニ命ジ、同署ニ就キテ之ヲ探ラシメタルニ、若シ此際憲兵隊ニテ大杉ヲ遣付ケテ呉レルナラバ尾行解除其他ノ援助ヲ爲スベシ」トハ警察ノ意嚮ニシテ、ナホ「震災後大杉ハ夕刻小兒ヲ伴ヒテ戸山原ヲ散步スル事アリ」トノ注意ヲモ得タリ。トノ復命ニ接スルニ及ビ、警察モ亦同意ナリト推測シ、茲ニ始メテ實行ノ手段ニ着手セルモノヽ如シ、斯クテ甘粕ハ森ト相謀リ、戸山ケ原ニ於テ大杉ヲ殺害セントシ、同十五日午後五時半頃情ヲ告ゲズシテ部下ノ上等兵鴨志田安五郎及ビ本田重雄等ヲ伴ヒ、府下豊多摩郡淀橋町大字柏木三百七十二番地ナル大杉居宅附近ニ張リ込ミ居タルモ、同人ノ外出セザリシ爲目的

ヲ達セズ、翌十六日午後二時半頃、甘粕、森ノ兩名ハ、再ビ前日ト同一目的ノ下ニ、情ヲ知ラザル憲兵伍長、平井利一及ビ本田上等兵ヲ伴ヒテ大杉ノ居宅附近ニ到リシ時、淀橋警察署員ヨリ、大杉ハ午前十時頃内縁ノ妻伊藤のぶト共ニ外出セルヲ以テ、夕刻ニハ歸宅スベキ由ヲ聞知シ、路傍ニ佇ミテ之ヲ待テル折シモ、午後五時頃ニ至リ、果シテ大杉夫妻ガ甥橘宗一（當七才）ト共ニ歸宅セルヲ見ルヤ、直チニ取調ベ度キコトアル旨ヲ告ゲテ大杉ノ同行ヲ求メ、更ニ「のぶ」宗一ノ兩名ヲモ東京憲兵隊ニ誘致シタリ。

（二）犯罪ノ實行

甘粕ハ大杉夫妻等ヲ東京憲兵隊ニ誘致シテ、元憲兵隊長室ニ收容セシガ、尋テ大杉ノミヲ、震災後使用セザリシ憲兵司令官應接室ニ移シ、同夜八時三十分頃森ト對談中ナリシ大杉ノ背後ヨリ、右手ヲ以テ頸部ヲ强壓シテ死ニ致シ、更ニ同夜九時半頃、元憲兵隊長室ニ於テ前同樣ノ手段ニ依リテ「のぶ」ヲモ窒息死ニ至ラシメ、又鴨志田本田兩上等兵ハ宗一ヲ特別高等課事務室ニ於テ絞殺シ、三名ノ死體ヲ構内ノ井戸ニ埋沒セリ。初メ甘粕ノ殺意ヲ生ズルヤ、其期スル所ハ大杉一人ニアリ、而シテ大杉ト共ニ伊藤のぶ等ヲモ收容スルニ及ビ「のぶ」ガ大杉ト同主義ヲ抱ケルノミナラズ、之ヲ泰西革命ノ歷史ニ徵スルモ、婦人主義者ノ狂暴ナル、時ニ却テ男子ヲ凌グモノアルニ鑑ミ、併セテ又之ヲ殺害スルノ必要アリト認メ、遂ニ森ト謀議ノ結果、甘粕ヲシテ手ヲ下シタルモノナリシガ、橘宗一ニ至リテハ、當時大杉ノ子ナリト信シタリト雖、斯ル小兒ヲ殺害スルハ情ニ於テ忍ビズト爲シ、甘粕ハ殺意ヲ有セザリシニ、森ハ宗一ノミヲ放還スルハ、事件ノ發覺ヲ速カナラシムルノ虞アリテ、頻リニ殺害ヲ主張セルヲ以テ、已ムヲ得ズ、之ニ同意セリ。而モ兩名共ニ手ヲ下スヲ欲セズ、共謀ノ上、森ハ部下ノ鴨志田、本多兩上等兵ニ命ジテ決行セシメタルナリ。

（三）處斷

本件ハ第一師團軍法會議ニ於テ審理シ、同年十二月八日左ノ如ク判決アリタリ。

懲役十年	甘粕正彥	
懲役三年	森慶次郎	
無罪	平井利一	
同	鴨志田安五郎	

同　本田重雄

第六節　集會ニ對スル措置

第一　屋外集會ノ禁止ト屋内集會ノ取締

九月三日關東戒嚴司令官ヨリ「警視總監及ビ警察官ハ時勢ニ妨害アリト認ムル集會ヲ停止スルコトヲ得」、トノ命令アリ、本廳亦夙ニ其必要ヲ感ジタルヲ以テ、以來專ラ此命令ニ基キ、屋外集會及ビ民衆運動ノ如キハ、帝都ノ秩序舊ニ復シ、人心ノ安定スルマデハ、之ヲ禁止スルト共ニ、屋内集會ト雖、其多人數ニ上リ、且人心ヲ動搖セシムル虞アルモノハ之ヲ禁止スルノ策ヲ定メタリ。是ニ於テ、官房高等課及ビ特別高等課ニ於テハ、正力官房主事指揮ノ下ニ、守屋特別高等兼外事課長（後任廣瀬課長）市川高等、山田特別高等、立山内鮮、西仲間勞働、武藤外事ノ各係長等專ラ部下ヲ督勵シ、各署ト協力シテ情勢ノ偵察ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ、苟モ不穩ナリト思ハルル集會ハ、事前ニ防止シ、其取締ヲ勵行セルガ爲ニ、思想問題ニ關スル集會ニ至リテハ、特筆ニ値スルモノナカリシト雖、甘粕事件ノ發表セラルヽニ及ビ、十月八日改造社社長山本實彦ノ主催ニ係ル二十三日會ハ、同問題ニ就キテノ協議會ヲ開催シ、又龜戸事件ニ關シテハ、十月十五日及ビ同二十三日ニ、辯護士布施辰治ノ主催ニ係ル自由法曹團ノ協議會及ビ委員會ノ開催ヲ見タレドモ、孰レモ民衆ヲ刺戟スルニ至ラズ、故ニ震火災ニ基因セル集會トシテ注意スベキモノハ、獨リ火災保險金請求問題アルノミ。

火災保險金請求問題ハ、啻ニ罹災被保險者ノ利害ニ止マラズ、一面ニハ保險業者ノ死活問題タリ、且其ハ帝都復興ト至大ノ關係ヲ有スルガ故ニ、災後ノ經濟問題及ビ社會問題トシテ世上ノ注意ヲ惹起スルニ至レリ。抑〻保險業者ガ契約上被保險者ニ對シ、地震ニ因リテ生ジタル火災及ビ延燒ニ就キテ其ノ原因ノ直接間接ナルヲ問ハズ、保險金支拂ノ義務アリヤ否ヤハ暫ク措キ、之ヲ德義上又ハ災後ノ政策上ヨリ觀察セバ、其存立ヲ危クセザル範圍ニ於テ、被保險者ニ同情アル措置ニ出ヅベキハ勿論、政府モ亦保險業者ヲ援助シテ圓滿ナル解決ヲ圖ルハ妥當ナルヲ以テ、各政黨ヲ初メ實業團體、東京市會及ビ大震災善後會等、孰レモ此意見ヲ決議發表シ、被保險者同盟ノ主張ハ大勢ノ容認スル所トナレリ、殊ニ九月十二日大詔渙發スル

ヤ、一節ニ

凡ソ非常ノ秋ニ際シテ非常ノ果斷ナカルベカラズ、若シ夫レ平時ノ條規ニ膠柱シテ活用スル事ヲ悟ラズ、緩急其ノ宜シキヲ失シ、善後ヲ誤リ、或ハ個人若クハ一會社ノ利益保障ノ爲、多衆災民ノ安固ヲ脅スガ如キアラバ、人心動搖シテ底止スル所ヲ知ラズ。

ト宣ヘルニ對シ、山本首相ハ、

例ヘバ保險會社ノ如キハ其ノ性質上、社會公衆ノ安固ヲ目的トスルモノナルヲ以テ、此重大ナル事變ニ顧ミ、幾十萬ノ信賴ニ負カザル樣犧牲精神ヲ發揮シテ愼重ノ考慮ヲ盡シ當業者終局ノ利益ヲ期スベク云々。

トノ告諭ヲ發シ、以テ保險業者ノ反省ヲ促スト共ニ、政府ノ方針ヲ表明セリ。是ニ於テ被保險者等ハ、頻リニ保險金額ノ支拂ヲ主張シテ已マズ、運動漸ク猛烈ナリ、本廳卽チ官房高等課ノ市川係長ヲ主任トシテ集會並ニ運動ノ取締ニ任ゼシメ、各署ト協力シテ其惡化ヲ防止スルコトニ努力セルヲ以テ、幸ニシテ事端ヲ開カザルヲ得タリ。今管下被保險者ノ運動中、最モ重要ナリシ火災保險金各區聯合會ニ就キ

テ其經過ノ概要ヲ述ベントス。

第二　火災保險金請求運動ノ概要

火災保險金請求ヲ目的トシテ組織セラレタル團體ハ、其數凡ソ七個アリシガ、運動ノ中心トナリテ終始活動セルモノヲ火災保險金請求各區聯合會（東京全市火災保險請求各町總代會）ト爲ス、同會ハ東京市各區名譽職等ノ發起組織セル所ニシテ、保險金ノ全額支拂ヲ主張シ、各區ニ於ケル同志ノ蹶起ヲ促サントシタルニ、保險者中ニハ、此際如何ニ運動センモ、其目的ヲ達スルハ不可能ナリト爲スモノ多ク、氣勢頗ル振ハザリシガ、各方面ニ於ケル聲援ト政府ノ方針トハ、漸次有利ニ傾キ、尋テ戒嚴令ノ撤廢セラルヽニ及ビ、幹部等ハ、或ハ演說會ヲ開催シテ輿論ヲ喚起シ、或ハ保險業者ヲ訪問シテ交涉ヲ重ネ、又或ハ當局ニ陳情シ、更ニ田農相ニ對シ辭職ヲ勸告スル等、極力運動スル所アリ。此時ニ方リ、保險業者ノ代表機關タル保險協會モ亦、大勢ニ鑑ミテ協議ヲ重ネ、政府ノ援助ニ依リテ事業繼續ノ基礎ヲ危ウセザル範圍ニ於テ、出捐スベキニ決定シ、資金ノ貸出ヲ政府ニ請ヘルニ山本內閣ハ之ヲ納レ、臨時議會ニ提案シタレドモ、衆議院ニ於テ否決セラレ、田農相ハ遂ニ十二月二十二日

ヲ以テ辭表ヲ呈スルニ至レリ。然レドモ聯合會ハ敢テ屈セズ、飽クマデ其目的ヲ貫徹セントシ、屢〻大會ヲ開催シ、陳情、訪問、請願等ヲ重ネ、果テハ閣下ニ上奏スル等、運動次第ニ白熱化セントス。而シテ保險協會ニ於テモ、政府ノ援助ヲ受ケン事ニ腐心シ、關西側同業者等ト折衝シテ、之ガ解決ニ奔走セル結果、清浦內閣ハ之ガ爲ニ、八千萬圓ノ責任支出ヲ行フコトニ決定セシカバ、同會ハ其目的ノ一部ヲ達シタルモノト爲シ、大正十三年三月十五日、日本工業俱樂部ニ市民大會ヲ開キ、從來ノ運動ノ經過ヲ報告スルト共ニ、爾後會社ノ實行ヲ監視スベキ事ヲ定メ、之ヲ幹部ニ一任セリ。斯クテ同年四月十二日勅令第八十四號ヲ以テ、保險會社ニ對スル助成金交付ノ件、公布セラレ、保險協會ニ屬スル各當業者ハ五月五日ヨリ罹災被保險者ニ對スル出捐金ノ名ヲ以テ一齊ニ支拂ヲ實行セシカバ、同會ハ六月七日上野精養軒ニ於テ委員一同ノ慰安會ヲ開催シ、是ニ該運動ハ終結ヲ告ゲタリ。

第七節　外事關係

震火災時ニ際シテ在京外國人ノ被害亦尠カラズ、其保護ヲ完クスル事ハ國際上及ビ人道上ニ於テ一日モ忽ニス可カラザル急務ナルヲ以テ、赤池總監ハ正力官房主事ヲシテ關係官衙ト協議ヲ重ネ、專ラ罹災外人ノ救護ニ當ラシメタリシガ、鮮人暴動ノ流言發生スルニ至リ、誤リテ累ヲ支那人ニ及ボサン事ヲ虞レ、外務省及ビ支那公使館等ト協議シテ努メテ其歸國ヲ勸誘セリ。而シテ外國艦船ノ來援入港スルモノ亦多數ニ上リタレバ、之ガ爲ニ特殊ノ警戒ヲ爲シ、其救援團體ノ活動ニ對シテ便宜ヲ圖レル等ノ事尠ナカラズ、今項ヲ分チテ其一斑ヲ叙セントス。

第一　在京外國人ノ罹災情況

震災直後ヨリ外事課ニ於テ、在京外國公館中、英、露兩國大使館ハ大破シ、支那、和蘭兩國公使館、墺太利領事館及ビ米國大使館武官事務所、英國大使館參事官住宅等ハ燒失セルノミナラズ、知名外國人中、英人ケネデー、ガスピー、メドレー、獨逸人フード、グオルギー、瑞典人ステンバーク、米人トエスラー、マツキム、ウエンライト、ライフスナイダー、アンドリユース等ノ居宅並ニ米人フライシヤーノ經營セル、アドバータイザー社、露國ニコライ教會等モ亦灰燼ニ歸シ、米人ブルームハ壓死ヲ遂ゲタル等ノ事實ヲ知リ得タリシガ、更ニ

各署ニ通牒ヲ發シテ被害情況ヲ精査シタル結果ハ左表ノ如シ。

其一　在留外國人國籍別罹災戸口調

種別 / 國籍別	罹災戸數 全焼	倒潰	大破	計	罹災人員 男	女	計
英國	三	一		一	二	一	三
印度	二		一	一	一		一
米國	二六	一	九	三六	三五	六	四一
伯剌西爾	一		一	二	一	一	二
露西亞	八		一	九	五	一	六
波蘭	一			一	一		一
獨逸	四			四	四		四
佛蘭西	四			四	四		四
伊太利	二			二	二		二
瑞典	一			一	一		一
西班牙	一			一	一		一
和蘭	二			二	二		二

其二　在留並一時滯在外國人國籍別死傷者調

種別 / 國籍別	死傷別 死 歿死 男	女	焼死 男	女	負傷 男	女	計
英國	一						
米國	一						
支那	一九	一四	一				二四
ラトビヤ	一						一
ルクセンブルク	一						一
希臘	一						一
丁抹	一						一
白耳義	一						一
埃太利	三						三
智惠古	四						四
合計	二八	一六	一				四五

獨逸	一	一	一	一
支那	三	一	二	一
合計	四	一	三	一

第二　罹災外國人ニ對スル救護

罹災外國人ニ對スル救護情況ヲ按ズルニ、米國大使館ニテハ、震災直後早クモ帝國ホテル内ニ事務所ヲ設ケ、組織的救護ニ着手シ、其他ノ外國諸公使館員等亦自國人ノ救護ニ努メタルノミナラズ、帝國ホテル及ビ東京驛ホテル等ハ進ンデ罹災外國人ヲ收容スルノ擧ニ出デタリト雖、本廳ハナホ其遺漏アラン事ヲ虞レ、各署ニ命ジ軍隊ト協力シテ極力罹災外國人ノ救護ニ任ゼシメントシ、九月五日正力官房主事ヨリ各署長ニ對シテ左記通牒ヲ發セリ。

罹災外國人保護ニ關スル件（外祕丙號外）

罹災外國人ニ關シテハ克ク軍隊ト協力シテ、出來得ル丈ノ便宜ヲ與ヘ、尚支那人ニ就テハ此際必要アリト認ムルトキハ進ンデ保護ヲ加ヘラレ度、保護ニ就テハ警察ニ餘力ナキトキハ軍隊ト協議シ、集團的ニ最寄學校寺院等ニ收容保護スル樣、戒嚴司令官ト協議濟ニ有之候條保護上遺憾ナキヲ期セラレ度

斯クテ外事課ノ武藤係長ハ部下ヲ督勵シテ救護ノ徹底ヲ期シ、全燒セル築地精養軒ホテル止宿外人全部ヲ東京驛ホテルニ、市内各所ニ於ケル罹災外國人三十名ヲ帝國ホテルニ、支那公使館員五名ト、當時上野美術館ニ避難中ナリシ横濱駐在支那副領事一行六名トハ、府立第一中學校内ナル本廳假本部ニ收容シタル外、双葉高等女學校職員英佛人三十三名ガ、食糧品ノ購入ニ困メルヲ知リテ、麵麭、バタ等ノ購入ノ便ヲ計リ、且罐詰ヲモ給與シ、更ニ日比谷公園ニ避難セル露人一家ニ對シテハ、東京府ニ照會シテ毛布ノ給與ヲ爲セリ。

第三　支那人ノ保護並ニ歸國者ニ對スル措置

罹災外國人中、特ニ保護ノ必要ヲ感ジタルモノハ、支那人ニシテ、九月五日各署ニ對シテ其旨ヲ傳達セル事、上文ニ述ベタルガ如クナルガ、更ニ外務省及ビ支那公使館ト協議シ、此際一時其本國ニ歸ランコトヲ希ヒ、同月十一日左記通牒ヲ發シテ各署管内ニ於ケル歸國希望者ノ調査ヲ爲サシメタリ。

支那商人及學生ニ關スル件（外祕丙第三號）

罹災救助ニ關シ、支那公使館ハ我ガ外務省ト協議ノ結果、支那人學生竝商人中希望者ヲ募リ

本國ニ送還スルコトトナリ近ク輸送開始ノ筈ナルニ付、其ノ署管内居住並避難中ノ學生商人ノ居所若クハ避難ノ場所及人員ヲ調査シ、折返シ報告相成度。

追而勞働者ハ包含セサルモノニ付爲念

是ヨリ先其歸國希望者ハ、便宜上一時一定ノ場所ニ收容スルノ必要ヲ感ジ、九月八日、日比谷公園ニ避難セル商人及ビ勞働者百十九名ヲ支那公使館燒跡バラックノ内ニ、十一日ニハ學生及ビ其家族四百名ヲ第一高等學校寄宿舍ニ、十四日ニハ中國基督敎青年會員及ビ學生ヲ芝浦アメリカン、スクールニ、十四日ヨリ三十日マデニ商人及ビ勞働者約一千名ヲ、芝浦清水粗バラック内ニ收容シ、更ニ府下大島・龜戸・砂町・三河島・尾久・南千住等ニ居住セシ支那人勞働者ニシテ、最寄警察署・寺院・學校等ニ收容セルモノ千六百九十名ハ軍隊ト協力シテ之ヲ千葉縣習志野收容所ニ收容シタリシガ、其保護ニ關シテハ、外事課員並所轄警察署員ヲ派遣シテ、軍隊ト共ニ之ニ任ゼシメ食料ヲモ供給セリ。

是時ニ際シ、外務省ハ歸國希望者中、學生ニ對シテハ、各人ニ金三十圓ヲ、商人及ビ勞働者ニ對シテハ各人ニ金十圓宛ヲ供與シ、日本郵船會社汽船ヲ使用シテ、芝浦海軍棧橋ヨリ本國ニ送還スル事ニ決シタレバ、本廳モ亦芝浦ニ外事課出張所ヲ設ケテ保護ノ任ニ當リ、尙九月十二日各署ニ對シテ左記通牒ヲ發シ、歸國者ノ集合ヲ圖レリ。

支那學生及商人送還ニ關スル件（外秘丙第六號）

九月十一日外秘丙第三號ヲ以テ支那學生及商人中ノ希望者ヲ募リ、本國ニ送還スル旨及通牒置候處右ハ左記ニ依リ芝浦海軍棧橋ヨリ乘船歸國セシムルコトニ決定相成度候ニ就テハ其ノ署管内ニ於ケル支那學生商人等ニ洩レナク右趣旨ヲ傳達シ、商人ニシテ十四日乘船歸國ノ者ハ十四日中、十六日歸國ノ者ハ十五日中ニ、支那公使館燒跡バラックニ集合セシメ、學生ハ可成速ニ全部第一高等學校寄宿舍ニ集合セシムル樣取計相成度

追而歸國者ニ對シテハ外務省ニ於テ食事ヲ支給セラルヽ筈

尙右人員ハ折返シ回報相成度

左記

九月十四日午後二時ヨリ四時乘船　七百名
九月十五日午後四時乘船　九百名
九月十六日午後四時乘船　五百名

然レドモ計畫ハ豫定ノ如ク進捗セズ、九月十五以降十回ニ渉リテ漸ク歸國ノ途ニ着カシムルヲ得タリ、今其人員歸國月日等ヲ示セバ左ノ如シ。

支那人送還人員調

送還月日	種別	人員	船舶名
九月十五日	學生	三七	千歲丸
同	商人	二九三	同
九月十八日	中國青年會々員及學生	三	上海丸
九月二十日	學生及其ノ家族	二三〇	長崎丸
九月二十二日	商人及勞働者	一〇〇	上海丸
九月二十八日	商人及勞働者	一九	長崎丸
同	商人及勞働者	四三〇	弘濟丸
九月三十日	商人及勞働者	四三〇	博愛丸
同	學生及其家族	三三	同
十月二日	商人及勞働者	三五五	長崎丸
十月十一日	商人及勞働者	七四三	千歲丸
十月二十日	商人及勞働者	八三	北野丸
十月二十九日	商人及勞働者	一〇〇	春洋丸
計		三、二九三	

第四　外國艦船ノ入港ニ對スル措置

九月二日、米國大使ハ早クモ我國無線電信ヲ利用シ、大震火災ヲ本國ニ通知スルト共ニ、罹災者ヘノ救恤品ノ供給ト、救護金ノ募集トヲ申請セシカバ、クーリッヂ大統領ハ卽時救濟金ノ募集ニ着手スルノ傍、應急救護ノ事ヲ比律賓駐屯司令官リード少將ニ電命シ、米國本國ヨリモ亦救濟品ヲ軍艦ニ積載シテ日本ニ派遣セントス。

斯クテ比島司令官ハメリッド、ブラックフォーク、メーグスノ三隻ニ食糧品・醫療器・藥品・天幕・寢臺・毛布・衣類等ヲ積載シ、アンダーソン少將ヲ司令官トスル米國亞細亞艦隊ヒューロン號以下驅逐艦三隻援護ノ下ニ、同十三日以降漸次橫濱ニ入港シ、救護品ノ引渡ニ關シテ我政府ト協定スル所アリシガ、同月二十三日ニハ米國救護團指揮官マッコイ少將ノ座乘セル運送船ソンム號モ亦救護品ヲ搭載シテ桑港ヨリ橫濱ニ入港シ、尋テペスコ號プレシデントゼファーソン號ヴエダ號コルカ號等ノ來航ヲ見タルノミナラズ、其他ノ艦船モ亦品川沖ニ入港スルモノアリ、品川ハ不開港場ナリト雖モ、我政府ハ、米國政府ノ好意ニ酬ヒムガ爲ニ、特ニ其入港ヲ許シ、且九月二十五日ヨリ、芝浦海軍棧橋並アメリカン・スクール際、及築地河岸等ニ於

テ救護品ノ陸揚ヲ爲スコトニ決定シタリ。

是時ニ方リ、來航艦船ノ乘組員、其他ニシテ、入國ヲ欲スル者アリ、卽チ軍務當局及ビ關係官衙ト協定シテ、(一)內地旅行者、(二)救護ノ目的ヲ以テ渡來シタル者、(三)有効旅券所持者中、必要止ムヲ得ザル者ニ限リ、特ニ上陸ヲ許ス事ト爲シ、前後數回ニ渉リテ左記通牒ヲ關係各署ニ發シ、趣旨ノ徹底ト取締ノ勵行トヲ期シ、更ニ九月十五日ヨリ同三十日迄ノ間、外事課出張所ヲ芝浦ニ設ケ、阪下警部以下警部補一名、通譯及ビ巡査ヲ配置シテ乘降船外國人ノ取締並ニ保護指導ノ任ニ當ラシメタリ。

外國艦船ノ不開港場入港ニ關スル件（九月十三日外秘丙第五號・築地・月島・愛宕・三田・高輪・洲崎・永上・品川・大森・小松川・各署長宛）

震災救濟ノ爲、來國艦船其他船舶ノ食糧物資ヲ積載シテ品川ニ入港碇泊スルモノ多數ニ上ルベキ見込ナルガ、右ハ不開港地タルニ顧ミ、是等艦船及其乘組員並載貨ノ取扱上何等不快ナル行違等ヲ生ゼザル樣致度旨、內務省警保局長ヨリノ通牒ノ次第モ有之候條相當注意ヲ要スルハ勿論ナルモ、右趣旨ヲ體シ、取扱上遺策ナキヲ期セラレ度

外國艦船不開港場入港ニ關スル件（九月十三日外秘丙第八號關係署長宛）

首題ニ付本日外秘丙第五號通牒ノ處、此際東京灣ニ於テ止ムヲ得ズ外國人ノ上陸ヲ許ス地點ハ、左ノ三ケ所ニ限リ、水上警察署ニ於テ其事務ヲ取扱ヒ、他ハ絕對ニ之ヲ許サズ、上陸ヲ許ス外國人ハ(一)內地旅行者(二)救護ノ目的ヲ以テ渡來シタルモノ(三)有效旅行券所持者ニ限ル、其ノ他ニ對シテハ橫濱ヨリ上陸方說示シテ同港ヘ回航セシムル樣取扱ヒ、尙(二)及(三)ニ付キテハ當地上陸止ムヲ得ザル者ニ限ル、趣旨ニ有之、而シテ上陸者ノ國籍氏名員數ハ其都度速報相成度。

左記

(一)東京水上警察署際

(二)芝浦日之出町地先

(三)靈岸島東京灣汽船發着所

追テ外國人軍艦乘組員ハ海軍ニ協議相成度、又外國大公使館員ハ上陸沮止ニ及バザル儀ト了知相成度。

外國艦船ノ不開港入港ニ關スル件（九月十四日外秘丙第一〇號關係署長宛）

標記ニ關シ、昨十三日外秘丙八號ヲ以テ上陸地點指定通牒ノ處、更ニ海軍棧橋司令部ト協議ノ上、左記ノ通ニ指定地變更相成候條御了知相成度、

左記

(一)芝浦日出町地先

(二)芝浦埋立地三ノ二、アメリカ學校傍

外國艦船ノ不開港場寄港ニ關スル件（九月十六日外秘丙第一二號關係署長宛）

震災以來外國艦船ニシテ救護ノ爲芝浦ニ入港スルモノニ對シテハ、事變ノ際已ムヲ得ザルモノトシテ默認シ來リ候處、其後秩序回復シ既ニ橫濱トノ鐵路モ開通シ、且ツ遞信省管船局

第七節　外事關係

長ヨリ別紙照會ノ次第モ有之候條、爾今芝浦入港ノ外國船舶ニ對シテハ先方ニ不快ノ念ヲ懷カシメザル樣、懇篤說明シ、橫濱ニ回航セシムル樣取計相成度。

追テ本件執行ニ就テハ、常ニ海軍棧橋司令官ト聯絡ヲ保チ遺憾ナキヲ期セラルベシ。

震災ニ關シ外國艦船ノ不開港場寄港ニ關スル件（九月十四日船艦第五〇〇四號　通信省管船局長通牒）

今般震災救護ノ爲、米國艦船其ノ他外國艦船ノ食糧物資ヲ積載シテ品川ニ入港スルモノ有之候哉モ難計候處、右樣ノ場合ニハ是等船舶ニ對シ、橫濱ニ回航スベキ旨ヲ懇切ニ告ゲ、其ノ取扱ニ關シ先方ニ不快ノ念ヲ懷カシムルガ如キ行違ヲ生セザル樣、豫メ關係吏員ニ相當注意相成樣致度候。

第五　諸外國ヨリノ救援

大震火災ノ報道一タビ海外ニ傳ハルヤ、諸外國ノ同情翕然トシテ我國ニ集リ、救濟金ノ支出、義捐金ノ募集、救援團ノ派遣、救護品ノ贈與等、アラユル方法ニ依リテ其至情ヲ披瀝シ、救恤慰問ノ擧ニ出デタル事ハ官民ノ共ニ感激ニ堪ヘザル所ナリ、今在京外國團體及ビ個人ノ救濟活動並ニ海外諸國ヨリノ來援中、特ニ本廳ト交涉アルモノヲ記錄シテ、永ク之ヲ記念セムトス。

（一）在京外國團體及ビ個人ノ救濟活動

(a)米國大使館

ウッヅ大使ハ大統領ニ電請シテ、米國亞細亞艦隊ノ回航ヲ求メ、衞生材料其他ノ救護品ヲ輸入スルト共ニ、所要救護費支出ノ許可ヲ得タレバ、直ニ事務所ヲ帝國ホテル内ニ設置シ、救護委員ヲ定メテ、自國人ハ勿論、他ノ歐米人罹災者ニ至ル迄、衣服、煙草其他ノ必需品ヲ支給シテ救護ニ努メ、又帝國ホテルト交涉シテ、九月十日ヨリ五日間ニ亙リ、無料給食ノ傳票四百八十一枚ヲ發行セリ。而シテ救護委員ハ外國人ノ周知ヲ要スル戒嚴令要領並ニ治安、衞生等ニ關シ、必要ナル情報ヲ、隨時揭示シテ罹災者ノ便ニ供シ、且滯京ノ要ナキ外國人ニ對シテハ、速ニ罹災地外ニ退出スベキヲ勸誘シ、芝浦及ビ橫濱ニ碇泊セル米國驅逐艦ヲシテ毎日二回定時航海セシメ罹災者及ビ物資ノ輸送ニ從事セシメタリ。

(b)露國大使館

露國大使館ハ在留同國人罹災者ノ爲ニ、一時其建物ノ一部ヲ開放シ、數日間之ヲ收容保護シ、且ツ罹災者一人ニ對シ、十圓乃至二十圓ヲ給與シテ、神戶方面ニ避難セシメ、副領事パロフスキーヲ同地ニ派遣シ、避難同國人ノ救護並ニ海外渡航等ニ盡力

セリ。

(c)支那公使館

支那公使館ハ不幸ニシテ全燒セシカバ、同館員ハ警視廳、外務省及ビ戒嚴司令部ニ對シテ同國罹災者ノ救護ヲ依賴セシヲ以テ、本廳ガ其保護ニ任ジタル一斑ハ既ニ述ベタルガ如シ。斯クテ九月八、九日ノ兩日、代理公使張元節、同秘書官錢樾綠ハ參謀本部奥大尉、外務守島事務官及ビ當廳員ト共ニ、麴町・赤坂・麻布・四谷・小石川等ニ於ケル同國罹災者ヲ慰問シ、其收容、救護ノ實況ヲ視察セシガ、同八日公使館燒跡ニバラックヲ建設シテ、同國罹災者ヲ收容保護シ、尋テ同二十一日ニモ張代理公使ハ隨員揚雲偏及ビ外務省岡部事務官、參謀本部佐藤大佐、陸軍省山下少佐並ニ本廳員等ト共ニ、府下尾久町及習志野收容所ニ於ケル罹災者ノ狀態ヲ視察慰問シ、同二十二日ニハ代理公使施履本主催ノ下ニ、各省經理員及ビ學生代表等ト會議シ、中華留日學生同胞救濟會ヲ調査機關トシテ、罹災學生、商人ノ調査ヲ爲サシメ、慰問使江庸ノ携帶セル慰問金三萬二千五百圓ヲ、調査濟ノ者ヨリ順次分配給與セリ。更ニ同二十四日施代理公使ハ錢祕書官並ニ帝大生王非澄ト共ニ、芝浦ナル清水組バラッ

ク收容所ヲ視察シ、收容者五百十名ニドーナツツ二個宛ヲ給與セリ。

(d)青山學院(米國人經營)

青山學院ノ校舍ハ震災ノ爲ニ大破シ、殆ンド倒潰ノ狀ナリシニモ拘ラズ、其構內ニハ、一時日本人ノ避難者千五百名、橫濱ヨリノ歐米人避難者百五十名、鮮人避難者約百三十名ヲ收容シタリシガ、構內居住ノ米國宣教師夫妻令孃等ハ、收容救護並ニ食料ノ供給等ニ關シテ盡力セル所頗ル多ク、且各自釀金シテ木綿地ヲ購入シ、我ガ罹災者ニ給與スベキ子供服ノ製作ニ從事セルガ如キ、其好意眞ニ感謝スルニ絶ヘタリ。

(e)基督教團體

基督教團體各派ノ幹部、日本人及ビ米國宣教師コールマン等相議シテ、救護事業ニ協力セン事ヲ約シ、檄ヲ全國ノ教徒ニ傳フルト共ニ、米國基督教主事ニ援助ヲ求メ、之ニ依リテ得タル內外ノ義捐金ヲ以テ、罹災者ニ對シ、被服類ノ配給、各種人事ノ相談、孤兒・迷子ノ收容、其他救護事業ニ從事セリ。

(f)獨逸人倶樂部及ビ東亞協會

獨逸人ノ經營セル倶樂部及ビ東亞協會ハ、協力シテ同國罹災者ノ救護ニ當リ、其屋舍ニ三十八名ヲ收容セリ。

(g)米國宣教師コールマン　震災當時赤坂區ニ自動車一臺ヲ提供シ、躬ラ之ヲ運轉シテ救護事務ニ奔走セリ。

(h)京城醫學專門學校教師、米國人ホップカークス(青山學院滯在中)ハ自ラ進ンデ赤坂區救護班ニ加ハリ負傷者ノ治療ニ從事セリ。

(i)朝鮮メソヂスト派監督宣教師米國人ウエルチハ、九月五日輕井澤ヨリ上京シ、青山學院ニ於テ紐育本部ニ義捐金ノ募集ヲ電請セリ。

(2)海外ヨリノ救援

(a)米國　米國政府ノ命ニヨリ比島ヨリ、來航セル運送船メリーツド號、メーグス號、ブラツクフォーク號米國救護團指揮官マツコイ陸軍少將ノ座乘セル運送船ソンム號等ガ食糧品、天幕類、藥品、醫療器等ヲ積載シテ九月十三日以來漸次橫濱ニ入港シ、尋テペスコ號、プレシデント・ゼファーソン號、ヴエダ號、コルカ號等モ亦同ジク救護品ヲ積載シテ來航シ、且其救護品ハ芝浦棧橋及ビ築地河岸等ニ於テ陸揚セル事ハ既ニ上文ニ述ベタリ。而シテ此配給品ノ全部ハ臨時震災救護事務局現業部ノ手ニ委ネタリシガ、其寄贈ニ係ル天幕病院ハ、當ニ材料ノミニアラズ、比島及ビ米本國ヨリ醫員、看護婦等合計百三十有餘名ヲモ派遣シテ築地立教中學校燒跡、麻布高松宮邸敷地、麴町區永田町女子學習院跡等ニ病舍ヲ建設シ、各病院ニ百五十名乃至五百名ノ患者ヲ三ヶ月位收容シ得ル設備ヲ整ヘ、九月十三日無償ニテ我ガ赤十字社ニ讓渡セリ。其後同國ノ救護事務ハ駐日米國大使館武官バーネット中佐專ラ之ニ當リ、フエーモンビル少佐ヲ補佐トシ、引續キ米本國ヨリ送付シ來レル救護品ヲ揚陸シテ我當局ニ交付シ、又其救護事務ニ關シテ米國赤十字社ヨリ派遣セラレタル、エツチ・ダブリユー・ラムセイハ十月六日渡來上京シタル後、絕ヘズ救護情況ヲ視察シ必要ト認ムベキ救護品ヲ調査シテ本國赤十字社ニ通報シ、尙引續キ救護品ノ輸送ヲ計レリ。

(b)佛國　佛領印度支那總督ハ軍醫モデー及ビロランスノ兩名ヲ派遣シ、佛國大使館内